

病院年報

第23号
(平成22年度)



八尾市立病院

基本理念

- 一. 安全で親切な医療を提供します。
- 一. 高度で良質な医療を実践します。
- 一. 患者さんの意思と権利を尊重します。

基本方針

1. 患者さんへのサービスに徹し、市民に信頼され親しまれる病院
2. 地域の中核病院としての急性期医療・救急医療の充実
3. 医療水準・医療ニーズの変化に対応し得る病院
4. 地域の医療機関との機能分担・連携強化による圏域内での医療の確立
5. 高齢社会に対応した保健・医療・福祉サービス支援体制の推進
6. 健全経営の確保

患者の権利章典

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受けることができます。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をすることができます。
3. 自分の受ける医療について、わからない点は医療スタッフに質問することができます、診療情報の提供を受けたりカルテの開示を求める権利があります。
4. 診察時のプライバシーや診療についての個人情報厳密に保護されます。
5. 自分の受ける医療について、他の医師の意見を聞いたり（セカンドオピニオンを含む）別の病院に転院することができます。
6. 自分の症状についての情報を、医療スタッフに正しく提供し、他の患者の診療に支障を与えないようにする責任があります。

平成 22 年度病院年報

平成 22 年度を振り返るにあたって、何はさておき、平成 23 年 3 月 11 日の東北地方、関東地方の北東部を襲った未曾有の大震災が思い起こされます。この震災でお亡くなりになった多くの方々にお悔やみを申し上げますと共に、ご家族や財産を無くした上、今なお避難所生活を余儀なくされておられる多くの方々にご心よりお見舞い申し上げます。千年に一度の歴史に残るような大規模震災に対して、人間の力はまだまだ及びもつかないことを実感させられました。

さて、平成 22 年度の八尾市立病院は、医療の充実と、財務の安定の両面において、数字の上で前年度を上回ることができました。医療面において、延べ入院患者数は前年比 1.1% 増、延べ外来患者数は 0.8% 増と患者数は微増でありましたが、より高度な医療を追求し推進した結果、全身麻酔数は 21% 増、特に腹腔鏡下手術は 62% 以上の増加を果たすことができ、外来におけるがん化学療法件数も 6% 増となりました。また、「断らない救急」を目指した結果、救急の搬送件数は前年比 34% 増となりました。財務面においては、昨年度以上に収益の増加と支出の減少を果たすことができ、純損失は、平成 20 年度 18 億円から平成 21 年度には 11 億円、平成 22 年度には 2 億 5,000 万円にまで改善、減価償却費を除いた収支では 7 億円以上の黒字となりました。その結果、病院の経営上で最も重要な指標といえる資金剰余額については、前年度の 8 億 7,000 万円から 14 億 1,500 万円に増加し、「八尾市立病院改革プラン」において 3 年計画で実現する予定であった資金収支の黒字化を 2 年目にして達成することができました。これらの成果は、私たち病院に従事するすべての職員が、一丸となって病院改革に取り組んできた努力が実を結んだものと考えています。

平成 22 年度の大きな企画として、秋には、八尾市立病院開院 60 周年記念講演会を開催し、847 人の市民の参加を得て盛り上げていただきました。第 1 部では、歌手のアグネス・チャン氏に、自らの乳がん体験を明るくさわやかに講演していただき、第 2 部では、手術や化学療法、緩和医療の分野の専門の先生方に、アグネス・チャン氏や市長にも加わっていただいて「がんと闘う」というテーマでシンポジウムを行いました。同時に、当院のがん診療の設備や機能を紹介するコーナーも設置し、多くの市民に当院の医療の実態をより深く理解していただけたと思っています。また、救急の分野では、急性腹症、消化管出血など当院の得意分野での 24 時間、365 日の患者の受け入れ体制の充実に加えて、新たに「心臓コール」システムを開始し、循環器疾患においても、同様の受け入れ体制を確立しました。また、八尾市災害医療センターの役割をになう病院として、「災害時の受け入れ訓練」を大規模に実施することができました。それから半年後に東日本大震災が発生したことを考えると、極めてタイムリーな企画であったと思っています。

私たちの目指す、市民から愛され、信頼され、慕われる真の地域における中核病院となるためには、医療面においても、財政面においても、より一層の努力が必要であり、現時点での達成度はまだ半ばであります。今後、私たちの前に立ちほだかる多くの難局を、職員一丸となり志を高く持って、共に乗り切って行きたいと思っております。

病 院 長 佐々木 洋

目 次

病院の沿革

病院の沿革	1
-------	---

病院の現況

概要	5
認定・指定	6
機構	7
院内管理体制	8
院内会議・委員会	9
病院職員	13
1. 病院職員	13
2. 人員配置表	16
八尾市立病院自衛消防隊編成表	18

診療局の現況

診療局の現況	19
内科の現況	20
循環器科の現況	23
神経内科の現況	25
外科の現況	26
整形外科の現況	28
脳神経外科の現況	30
産婦人科の現況	31
小児科の現況	33
眼科の現況	35
耳鼻咽喉科の現況	36
形成外科の現況	38
皮膚科の現況	39
泌尿器科の現況	41
放射線科の現況	43
リハビリテーション科の現況	45
麻酔科の現況	46
病理診断科の現況	47
歯科口腔外科の現況	49
中央手術部の現況	51
救急診療科の現況	52
化学療法科の現況	53
中央検査部の現況	54
内視鏡センターの現況	56
健診センターの現況	58
通院治療センターの現況	59
がん相談支援センターの現況	60
MEセンターの現況	62

栄養科の現況	64
薬剤部の現況	66
地域医療連携室の現況	72
診療情報管理室の現況	74
医療安全管理室の現況	80
看護部の現況	
看護部の現況	81
看護部委員会活動状況	83
認定看護師の活動状況	85
事務局の現況	
事務局企画運営課の現況	87
P F I 事業の現況	
八尾医療 P F I 株式会社（S P C）の現況	89
経営状況	
1. 収益費用明細書	
(1) 収益の部	91
(2) 費用の部	92
2. 資本的収入及び支出明細書	
(1) 資本的収入の部	93
(2) 資本的支出の部	93
3. 比較貸借対照表	93
4. 経営分析表	94
5. 財務分析表	95
業務状況	
1. 患者状況	
(1) 外来患者数	97
(2) 入院患者数	97
(3) 外来・入院別、診療科別、月別患者数	98
(4) 地域別患者数	100
(5) 診療科別救急取扱患者数	101
(6) 紹介率	102
(7) 診療科別月別紹介率	103
(8) 逆紹介率	104
2. 診療収益状況	
(1) 医業収益（外来）	105
(2) 医業収益（入院）	105
(3) 診療科別診療収益	106
3. T Q M活動	107
4. チーム医療活動	108
5. 大規模災害時のトリアージ訓練	109
6. 業績集	110

病 院 の 沿 革

病 院 の 沿 革

昭和	21年	5月	日本医療団八尾病院開設、八尾町西郷
昭和	23年	4月	八尾市誕生、市立八尾市民病院と名称変更
昭和	24年	8月	八尾市太子堂(現 南太子堂)に木造2階建、延324坪の新築工事着工
昭和	25年	2月	市立八尾市民病院開院、内科・外科・産婦人科・歯科・放射線科の5科を設置 病床数32床
		8月	皮膚泌尿器科開設、中央館完成、20床増床、病床数52床
昭和	26年	10月	結核病棟完成、50床増床、病床数102床
昭和	28年	2月	八尾市民病院の名称を廃止、八尾市立病院と呼称、小児科開設
		4月	眼科・耳鼻咽喉科開設(診療科9科)
		6月	本館棟完成、76床増床、病床数178床
		9月	中央館第1病棟7床増床、病床数185床
昭和	29年	12月	看護婦宿舍増築及び中央館改造工事完成、2床増床、病床数187床
昭和	31年	1月	整形外科独立(診療科10科)
		10月	平屋建一般病棟新築竣工(新館と呼称、後に南館と名称変更) 40床増床、病床数227床
昭和	32年	2月	円形伝染病棟竣工、鉄筋3階建370坪、66床
		5月	円形看護婦宿舍竣工
		8月	総合病院の承認を受ける
昭和	33年	11月	基準看護『1類』、基準給食の実施の承認を受ける
昭和	34年	4月	市立4診療所(西郡、大正、南高安、高安)市立病院に統合 (その後35、36年にいずれも民間移管或いは廃止)
昭和	36年	1月	中央検査科独立
		10月	全病棟に基準寝具実施
		12月	新館(北館)・玄関棟・レントゲン棟竣工、病床数309床
昭和	39年	1月	泌尿器科独立
		4月	昭和39年度会計から企業会計方式採用(地方公営企業法一部適用)
昭和	41年	4月	歯科廃止
		7月	南館病室増築工事完成
		10月	中館新築工事完成、病床数339床
昭和	42年	4月	社会保険診療報酬点数表『乙表』に切り替え
昭和	44年	1月	放射線科X線テレビ装置購入
昭和	47年	2月	基準看護『特類』承認、リハビリ棟新築、看護婦宿舍増築工事竣工
昭和	48年	3月	アイソトープ治療装置購入
		8月	本館、北館及びコバルト60棟改築工事完成 病床数412床(一般346床、伝染66床)
昭和	49年	10月	基準看護『特2類』実施
昭和	50年	1月	公立病院特例債借入(668,400千円)
昭和	52年	12月	中館2階分娩室改修工事完了
昭和	53年	3月	X線新型テレビ装置設置
		4月	八尾市立病院院内学級開設
		11月	スプリンクラー設置
昭和	54年	11月	病院事業経営健全化団体指定の認可
昭和	55年	9月	南館病棟増改築工事完成。病床数446床(一般380床、伝染66床)
昭和	56年	11月	理学療法科開設
昭和	57年	12月	コバルト60線源入替え
昭和	58年	3月	病院事業経営健全化措置実施要領による経営健全化完了
		9月	全身用コンピュータX線断層撮影装置設置

昭和	59年	9月	多項目自動血球計数装置設置
昭和	60年	9月	医事業務を中心にコンピュータ導入
昭和	62年	10月	X線テレビ撮影装置(ジャイロ)入替え、カセットレスX線テレビ装置設置
		11月	人間ドック開設
昭和	63年	5月	内科改装
		7月	中館2階病棟基準看護『特3類』実施
		11月	病棟科別再編成
平成	元年	5月	外科・整形外科・皮膚科改装
平成	2年	1月	循環器X線検査システム及びDSA装置設置
		5月	小児科・泌尿器科改装
		7月	コバルト60線源入替え
		12月	内視鏡ビデオ情報システム設置
平成	3年	3月	東側駐車場増設整備
		5月	産婦人科・眼科改装
平成	4年	5月	耳鼻咽喉科改装
平成	5年	1月	CT装置新機種に更新設置
		4月	内科、外科、小児科以外の診療科につき土曜日休診を実施 内科において、午後の一般外来診療を開始
		8月	来院者用駐車場有料化実施
		9月	中館3階、南館3階病棟『特3類』実施
			病棟科別病床再編成
		12月	北館4階病棟『特3類』実施
平成	6年	4月	産婦人科 土曜日の外来診療を開始 医局を診療局と改称し、診療局長を置く。看護科は医局より独立
		8月	MRI装置設置
		10月	内視鏡室改装
平成	7年	4月	経営改善委員会設置
		5月	南館1階・2階病棟『特3類』実施
		7月	新看護2.5対1、A加算、13対1看護補助に移行 病棟科別病床再編成
平成	8年	2月	適時適温給食実施 病診連携窓口設置
		3月	八尾市立病院建設基金条例施行
		4月	病衣貸与実施 看護相談窓口開設
		7月	JR八尾駅に広告看板を設置
		12月	理学療法科をリハビリテーション科と改称
平成	9年	3月	中館2階病棟詰所及び新生児室他改修
		4月	病院建設準備室設置
		5月	正面玄関増改築
		6月	新看護2対1、A加算に移行 薬の相談窓口設置
平成	10年	1月	夜間小児急病診療開始(平日の火曜日・木曜日午後5時から午後12時まで) 入院患者(内科、整形外科、眼科)に対する服薬指導実施
		3月	コバルト60線源入替え
		4月	救急告示認定(内科・外科・産婦人科) 産婦人科の土曜日休診を実施
		8月	貸与病衣の使用料徴収開始
平成	11年	1月	外来患者に対する薬剤情報提供の実施
		3月	伝染病床廃止、病床数380床

	9 月	入院患者に対する服薬指導の拡大 (耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科の患者にも拡大)
	12 月	伝染病棟取り壊し、跡地を駐車場利用
平成 12 年	1 月	夜間小児急病診療の拡大 (第 2、4、5 土曜日午後 5 時から午後 12 時までについても実施)
	3 月	新病院建設用地の購入 中館 2 階病棟、分娩室改修 新市立病院建設事業に伴う久宝寺遺跡発掘調査着手
	6 月	夜間小児急病診療の拡大 (第 2、4 金曜日午後 5 時から午後 12 時までについても実施)
	7 月	市立病院創立 50 周年記念行事「健康バンザイ」開催 NHK 総合テレビジョン「関西クローズアップ」で市立病院新人看護職員の看護体験放映
平成 13 年	2 月	医療事故防止マニュアルの発行
	3 月	八尾市医師会地域医療情報ネットワークに参画
	8 月	新病院起工式
	10 月	市民参加の患者サービス検討会議設置
	12 月	医療倫理委員会設置
平成 14 年	2 月	北館 4 階病棟に 24 時間監視体制の病室(HCU)を設置
	4 月	院外処方箋の全面実施
	5 月	接遇改善委員会設置
	7 月	褥瘡対策委員会設置
	9 月	P F I 事業(新病院維持管理・運営事)実施方針の公表
	10 月	医療機能評価受審推進委員会設置
	12 月	医療安全管理委員会設置
平成 15 年	4 月	臨床研修病院の指定(医科)
	5 月	診療録管理委員会設置
	6 月	教育研修委員会、パス委員会設置
	7 月	臨床研修管理委員会設置
	11 月	新病院定礎式(21日)
	12 月	新病院建物の引き渡し(26日)
平成 16 年	3 月	八尾医療 P F I 株式会社との契約締結(26日)
	4 月	新病院竣工式(21日) 新病院市民見学会(24、25日)
	5 月	新病院開院(1日)新たに循環器科、神経内科、脳神経外科、歯科口腔外科を設置し、全 16 診療科となる。病床数 380 床 小児救急診療を輪番制(火曜日・木曜日・土曜日)で開始 地域医療連携室設置 総合医療情報システムを導入 新しく高度医療機器(結石破碎装置、磁気共鳴画像診断装置、放射線治療装置、血管造影撮影装置、X線テレビシステム、X線 CT、ガンマカメラ、骨密度測定検査装置、乳房 X線撮影装置)を導入 ICU、HCU、NICU を完備 情報システム管理委員会設置 新病院外来診療開始(7日)
	6 月	外来運営委員会設置
	7 月	P F I 事業に関し、モニタリング委員会、事業評価部会を設置 大阪府自治体病院開設者協議会会長就任
	8 月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 4 認定(一般病院)

	11月	女性専門外来開始 病棟運営委員会、診療材料検討委員会設置	
平成 17年	2月	自治体病院協議会見学会	
	3月	病院建設準備室が解散	
	5月	新病院移転一周年記念講演会開催	
	10月	分娩休止 病院各委員会見直し・再編 まちなかステーションにインターネットコーナー設置	
平成 18年	3月	まちなかステーションに住民票等自動交付機設置 旧病院解体工事着手	
	4月	分娩再開 院内敷地内全面禁煙開始	
	5月	ナースキャップ廃止	
	10月	2階フロアに市民ギャラリー設置	
	11月	旧病院解体工事完了	
	12月	N I C U 運営委員会設置	
	平成 19年	3月	医療事故対策会議設置
		4月	病院事務局機構改革(一課へ統合) 診療情報管理室設置
	平成 20年	5月	小児病棟にプレイルーム設置 N I C U 増床(3床→6床)
		10月	臨床研修病院の指定(歯科)
11月		大阪府地域周産期母子医療センターの認定	
12月		緩和ケアチーム設置	
2月		がん相談支援センター設置	
4月		クレジットカードによる診療費の精算開始 医療安全管理室設置	
5月		I C U 施設基準届出	
6月		7:1入院基本料に移行	
7月		乳がん検診の拡大(土曜日) D P C (診断群分類別包括評価)開始	
11月		従来の16科に、形成外科・病理診断科を加え、全18診療科となる	
平成 21年		2月	八尾市立病院改革プラン策定
		3月	院内保育開始
	4月	地方公営企業法全部適用体制への移行(病院事業管理者を設置) 大阪府がん診療拠点病院指定	
	5月	新型インフルエンザ発生のため拠点型発熱外来を設置	
	7月	八尾市立病院P F I 事業検証のための実態調査・分析実施	
	8月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 6.0 認定	
	10月	改革プラン評価委員会設置	
	平成 22年	1月	太陽光発電システム設置
2月		M R I 装置を増設	
3月		陰圧病床設置 医局拡張工事実施	
9月		八尾市災害医療センターとして、大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施	
平成 23年	10月	八尾市立病院開院60周年記念講演会開催 地域医療支援病院推進委員会設置	
	12月	八尾市立病院開院60周年記念誌発行	
	3月	JR久宝寺駅2階部分ペDESTリアンデッキ接続に伴い、2階南エントランス開通 東日本大震災の被災地(宮城県石巻市)に看護協会を通じて看護師を派遣	



病 院 の 現 況

概 要

1. 施設の概要

位 置	八尾市龍華町1丁目3番1号
敷地面積	14,999.98 m ²
建物延面積	39,329.57 m ² (駐車場・駐輪場含む)

2. 診療科目

内科・循環器科・神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・形成外科・皮膚科・泌尿器科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科・病理診断科・歯科口腔外科

3. 受付時間

外来診療	(初診・再診)	平日	午前8時45分～11時30分
	(予約のある方)	平日	午前8時45分～午後3時
	休診日	土曜日・日曜日・祝日・年末年始	
救急診療	内科・外科 (24時間受付)		
小児救急診療	火曜日・土曜日 (午前9時～翌午前8時)		

4. 病床数

380床

内訳 特別室7室(7床)、個室82室(82床)、4床室66室(264床)、
HCU7室(14床)、NICU(6床)、ICU(5床)、無菌病室(2床)

5. 病棟

8階病棟 (東)	外科
8階病棟 (西)	内科(消化器)
7階病棟 (東)	泌尿器科、形成外科、眼科、歯科口腔外科、皮膚科
7階病棟 (西)	内科(血液・一般・化学療法)、循環器科
6階病棟 (東)	整形外科、耳鼻咽喉科
6階病棟 (西)	小児科
6階病棟 (NICU)	新生児集中治療部
5階病棟 (東)	内科(糖尿・一般・循環器)、(救急病床)、外科
5階病棟 (西)	産婦人科
3階病棟 (ICU)	集中治療部

6. 外来等

4階	リハビリテーション科、大会議室、図書室
3階	手術部門、ICU、検査部門、管理諸室
2階	総合待合、一般外来、医事部門、放射線部門、生理検査部門、 がん相談支援センター、通院治療センター、健診センター、地域医療連携室
1階	救急部門、放射線治療、核医学検査、SPD部門、滅菌・消毒部門、 薬剤部門、栄養部門、防災センター、まちなかステーション
地下1階	駐車場

認 定 ・ 指 定

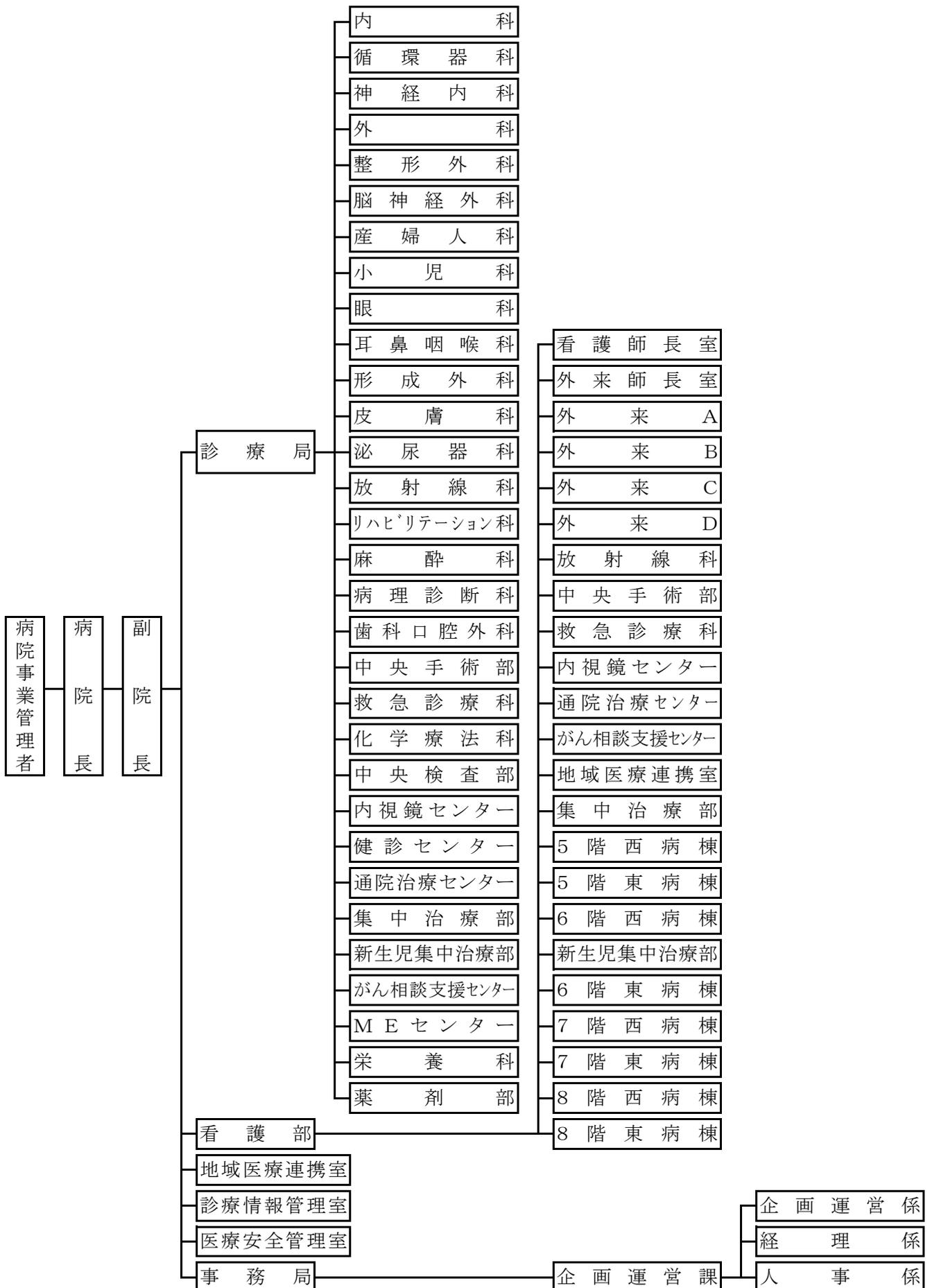
<各種学会認定（専門）医制による研修施設>

日本産科婦人科学会専門医制度卒業研修指導施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本小児科学会専門医制度研修施設
日本小児科学会専門医制度研修支援施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本内科学会認定医教育関連病院
日本麻酔科学会研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
日本周産期・新生児医学会
周産期（新生児）専門医制度暫定研修施設
日本周産期・新生児医学会
母体・胎児専門医制度暫定研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本アレルギー学会教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
母体保護法指定医師研修機関
大阪府薬剤師会教育研修病院
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本老年医学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本肝臓学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設（B認定）
日本腎臓学会研修施設
日本形成外科学会教育関連施設
日本緩和医療学会認定研修施設

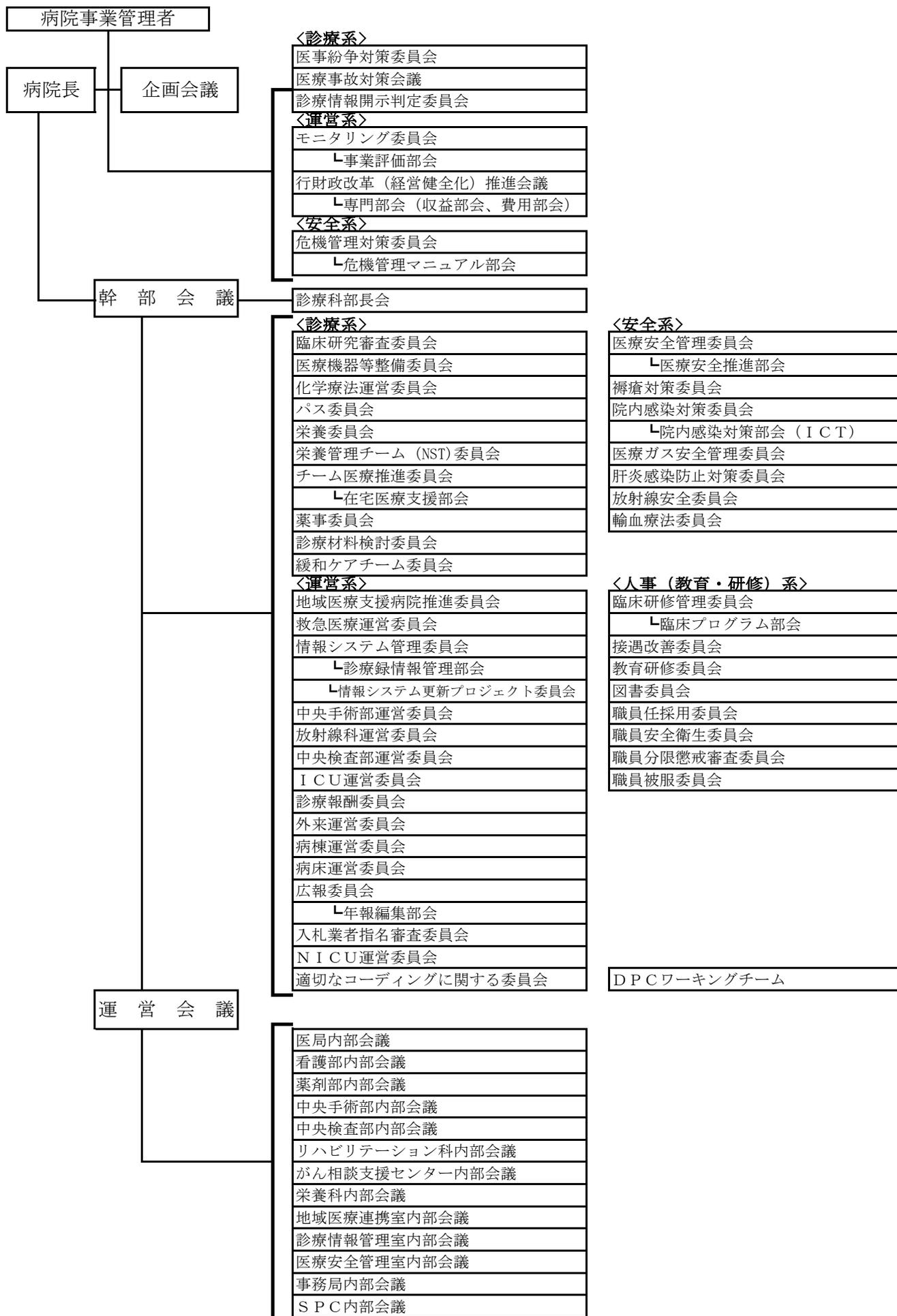
<指定医療機関>

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院（医科）
臨床研修指定病院（歯科）
保険医療機関
労災保険指定医療機関
労災保険二次健診等給付医療機関
結核予防法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
身体障害者福祉法指定医療機関
児童福祉法育成医療指定医療機関
未熟児養育医療指定医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
救急告示指定病院
母体保護法指定医療機関
特定疾患治療研究事業指定病院（難病）
小児慢性特定疾患治療研究事業指定病院
精神保健法指定医療機関（通院）
妊婦一般健康診査取扱機関
乳児一般健康診査取扱機関
B型肝炎母子感染防止事業取扱機関
国民健康保険療養取扱機関
母子保健法指定医療機関
児童福祉施設（助産施設）
公害健康被害補償法取扱医療機関
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会検診
認定施設
特定給食施設
新生児聴性脳幹反応（ABR）実施病院
医薬品・医療用具等安全性情報協力施設
日本静脈経腸栄養学会認定・NST稼動認定施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設
大阪府地域周産期母子医療センター認定医療機関
大阪府がん診療拠点病院指定医療機関

機 構



院内管理体制



院内会議・委員会

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
1	幹部会議	病院事業の充実・発展と効率的運用を期する	毎週木曜日	佐々木洋 院長	阪口明善、星田四朗、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子、門井洋二
2	運営会議	円滑な管理運営を期するために連絡・調整を行う	第4水曜日	星田四朗 副院長	阪口明善、佐々木洋、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子、但馬重俊、操野 健、寺田勝彦、 武平春雄、黒田昇平、長山俊明、森明富美子、 千種保子、上水流雅人、岩永佳久、井谷裕香、 西井梅子、松倉信裕、榊井敏子、鶴田洋介、 山内雅之、門井洋二、草刈 敦、古東文夫
3	企画会議	基本理念、基本方針、診療機能等、病院経営における重要かつ基本的事項について、病院幹部職員の円滑な意思形成に基づいた確かな意思決定を期する	必要の都度	阪口明善 病院事業管理者	佐々木洋、星田四朗、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子、門井洋二
4	医事紛争対策委員会	医事紛争等の問題対策	必要の都度	佐々木洋 院長	阪口明善、星田四朗、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子
5	医療事故対策委員会	医療事故の適切な対応を図る	必要の都度	佐々木洋 院長	星田四朗、高瀬俊夫、阪口明善、福田一成、 斉藤せつ子、榊井敏子、但馬重俊、門井洋二
6	診療情報開示判定委員会	診療情報の開示に係る事務を適正かつ迅速に処理する	必要の都度	佐々木洋 院長	阪口明善、星田四朗、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子
7	モニタリング委員会	維持管理・運営事業の実施にともない、PFI事業に関する事業評価を適正に行う	年4回	佐々木洋 院長	阪口明善、星田四朗、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子、鶴田洋介
8	事業評価部会	業務ごとの個別のモニタリング評価を行う	第3火曜日	山本佳司 事務局参事	福井弘幸、榊井敏子、森明富美子、 森佳代子、但馬重俊、操野 健、寺田勝彦、 黒田昇平、宮田克爾、門井洋二
9	行財政改革(経営健全化)推進会議	市財政改革推進本部による「新しい行財政改革大綱」に基づき、八尾市立病院の運営および財政改革並びに経営の健全化を推進する	必要の都度	阪口明善 病院事業管理者	佐々木洋、福田一成、星田四朗、高瀬俊夫、 斉藤せつ子、但馬重俊、寺田勝彦、操野 健、 榊井敏子、鶴田洋介、山本佳司、山内雅之、 門井洋二、草刈 敦
10	危機管理対策委員会	危機管理の対策	必要の都度	佐々木洋 院長	阪口明善、星田四朗、高瀬俊夫、福田一成、 斉藤せつ子、鶴田洋介、門井洋二
11	危機管理マニュアル部会	危機管理の対策に関するマニュアル作成を行う	必要の都度	高瀬俊夫 副院長	福島幸男、千種保子、甲斐幸代、松川麻由美 操野 健、但馬重俊、鶴田洋介、山本佳司、 三谷直行
12	臨床研究審査委員会	医薬品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の為に治験、使用成績調査、特定使用成績調査、製造販売後臨床試験及び副作用・感染症報告及び医療行為について倫理的な観点から審議する	年8回(4・5・7・8・10・11・1・2月)の第4火曜日	星田四朗 副院長	山本信博、森本 卓、高木圭一、福田一成、 斉藤せつ子、但馬重俊、原嶋一幸、山本恵郎、 鶴飼万貴子、井上幸子、村元義和、西田一明、 香川雅一
13	医療機器等整備委員会	資産購入および適正使用に関する事項を検討し、その合理的運用を図る	必要の都度	佐々木洋 院長	阪口明善、星田四朗、高瀬俊夫、池本慎一、 福田一成、斉藤せつ子、操野 健、長山俊明、 鶴田洋介、門井洋二
14	化学療法運営委員会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	年1回	烏野隆博 部長	森本 卓、服部英喜、松山 仁、上田高志、 上水流雅人、水田裕久、森鼻哲生、 森明富美子、小西 暁、柚木原和子、 津江かおる、畑中邦子、藤本史朗、佐藤浩二、 門井洋二

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
15	パス委員会	診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	第2火曜日	三岡智規 部長	森佳代子、山本早苗、佐藤浩二、小枝伸行、寺田勝彦、黒田昇平
16	栄養委員会	給食業務および臨床栄養業務が病院の本義に則したものと、適切に推進され、かつ円滑な運用を行う	奇数月の 第3金曜日	高瀬俊夫 副院長	星 歩、佐々木高綱、岡田ふみよ、千種保子、森佳代子、尾山明美、山内正隆、黒田昇平、朴井 晃、草刈 敦、北出知江
17	栄養管理チーム(NST)部会	栄養管理のための調査・研究、及び、医療従事者への教育を行う	第2水曜日 第4水曜日	松山 仁 医長	森本 卓、藤本史朗、黒田昇平、山田智子、巽 理、早川裕起子、高瀬由香利、西田明子、岡崎ミチ、山内雅子、高橋聖子、新子理恵、富永 薫、松田裕子、木村直美、川端浩代、下桐美保、佐々木博世、中谷摩利子、秋田千津子、岩崎世里奈、槍山かほる、原嶋一幸、平山美環
18	チーム医療推進委員会	医療の高度化、細分化に対応しつつ、医師及び各部門職員のパートナーシップのもとに質の高い医療を提供する	必要の都度	佐々木洋 院長	鳥野隆博、松山 仁、高木圭一、服部英喜、池本慎一、斉藤せつ子、但馬重俊、山本恵郎、大江洋介、古川智恵、北村尚洋、井谷裕香、柚木原和子、山田智子、柏山康江、甲斐幸代、小林啓子、細田繁美
19	在宅医療支援部会	在宅医療支援の調査・研究・教育・研修、及び、地域医療機関と連携への取り組みを行う	必要の都度	大江洋介 医長	古川智恵、北村尚洋、佐藤美代子、森田剛史、中谷成美
20	薬事委員会	薬品の購入および適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する薬品の合理的運営を図る	年6回(偶数月)で第3水曜日	星田四朗 副院長	但馬重俊、上田 卓、高木圭一、横山茂和、三岡智規、山本信博、中谷成美、門井洋二、廣瀬 淳、宇奈手貴紀、鶴田洋介
21	診療材料検討委員会	診療材料の採用・取消及び適正価格・適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する材料の合理的管理運営を図る	年6回(偶数月)で第1火曜日	高瀬俊夫 副院長	福井弘幸、上水流雅人、榊井敏子、宮田克爾、中野誠吾、門井洋二、廣瀬 淳、宇奈手貴紀
22	緩和ケアチーム委員会	緩和ケア医療を実践する	毎週水曜日	池本慎一 部長	蔵 昌宏、橋本和彦、古武 剛、柚木原和子、小林啓子、本多紀子、佐古田祐子、諸石みゆき、城内陽子、長谷圭悟、井谷裕香、長井直子
23	救急医療運営委員会	救急医療の円滑な推進を図る	第3金曜日	福島幸男 部長	足立孝好、岩永佳久、横山茂和、上田 卓、三岡智規、森明富美子、小西 暁、松川麻由美、操野 健、西井梅子、鶴田洋介、門井洋二
24	情報システム管理委員会	システム運用に係る院内の全体調整、や方針の策定、システム機器の管理に関する検討、及びシステム利用に係る管理運営を行う	第3月曜日	三岡智規 部長	小枝伸行、佐々木洋、大江洋介、森田俊治、千種保子、山本早苗、松倉信裕、山本恵郎、坂本清蔵
25	診療録情報管理部会	診療録の管理を適切に行うことにより病院機能の向上を図る	第3水曜日	佐々木洋 院長	松倉信裕、山本恵郎、原田美永子、細田繁美、芹川千智、前田愛子
26	情報システム更新プロジェクト委員会	情報システム更新に関する部門ごとの確認・調整を行う	必要の都度	三岡智規 部長	小枝伸行、森本 卓、大江洋介、濱田匡章、山本早苗、千種保子、鶴田洋介、植村佳子、門井洋二、原田美永子、鎌田賢二
27	中央手術部運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各診療科の調整を行う	年1回	上水流雅人 部長	山中トモエ、橋村一彦、森田俊治、三岡智規、山本信博、嶽村貞治、牧野一雄、池本慎一、高木圭一、三宅ヨシカズ、濱口裕弘、小多田英貴、斉藤せつ子、山本佳司
28	放射線科運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各部署間の調整を行う	年6回(奇数月)の第1月曜日	平吹度夫 部長	操野 健、平井良介、河野和男、星田四朗、足立孝好、森田俊治、池本慎一、森明富美子、朴井 晃、小山修司
29	中央検査部運営委員会	業務運営の円滑かつ効率的な運用を行う	第1月曜日	服部英喜 部長	寺田勝彦、星田四朗、福島幸男、上田 卓、千種保子、山本佳司、鈴木慎也、糸井貴世子、鎗山かほる
30	ICU運営委員会	ICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	第1月曜日	小多田英貴 部長	橋村一彦、足立孝好、福島幸男、助永親彦、千種保子、井澤初美、長山俊明、三谷直行
31	診療報酬委員会	保険診療の適正化を図る	第4月曜日	星田四朗 副院長	三岡智規、高木圭一、小西 睦、森佳代子、宮田克爾、山本恵郎、原田美永子

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
32	外来運営委員会	外来診療部門の運営の円滑化、効率化及び患者サービスの向上を図る	第2金曜日	山本俊明 部長	足立孝好、鳥野隆博、松山 仁、森明富美子、小西 睦、西井梅子、松川麻由美、小枝伸行、小田直子、畑中博文
33	病棟運営委員会	病棟の業務の円滑な推進を図る	第4月曜日	池本慎一 診療局次長	福井弘幸、三岡智規、横山茂和、千種保子、森佳代子、畑中邦子、尾山明美、森本千穂、黒田昇平、小枝伸行、山本恵郎、藤谷彩香、森本真由美
34	病床運営委員会	病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	年6回(奇数月)の第4火曜日	千種保子 副看護部長	星田四朗、畑中邦子、小西 睦、北村尚洋、宮田克爾、山本恵郎
35	広報委員会	地域各医療機関や市民等に広く病院事業の広報を行う	必要の都度	鶴田洋介 企画運営課長	高瀬俊夫、池本慎一、森明富美子、長谷圭悟、坂本清蔵、山本恵郎、畑中博文
36	年報編集部会	病院運営の記録の保存を行う	必要の都度	高瀬俊夫 副院長	鶴田洋介、池本慎一、但馬重俊、橋村一彦、操野 健、森明富美子、山本恵郎、原田美永子
37	入札業者指名審査委員会	委託業務等に関し、入札業者指名等の決定等を行う	必要の都度	阪口明善 病院事業管理者	佐々木洋、星田四朗、高瀬俊夫、斉藤せつ子、福田一成、鶴田洋介
38	NICU運営委員会	NICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	第4月曜日	高瀬俊夫 副院長	道之前八重、山本信博、山田まゆみ、生藤由紀子、岡田ふみよ、浅井真由美、長山俊明、廣瀬 淳
39	適切なコーディングに関する委員会	DPC対象病院として、市立病院の標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保する	年2回(6・12月)	星田四朗 副院長	高瀬俊夫、斉藤せつ子、小枝伸行、寺田勝彦、細田繁美、原田美永子、宮田克爾
40	DPCワーキングチーム	DPC請求にかかる検討を行う	月1回	星田四朗 副院長	宮田克爾、門井洋二、山本恵郎、原田美永子、藤谷彩香、細田繁美、芹川千智
41	医療安全管理委員会	患者が安心して医療を受けられる環境整備を促進し、患者が医師および医療機関を信頼するとともに、医療提供者が安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2月曜日	星田四朗 副院長	榊井敏子、尾山明美、高瀬俊夫、篠田幸紀、三岡智規、小多田英貴、森明富美子、千種保子、但馬重俊、長山俊明、寺田勝彦、操野 健、鶴田洋介、門井洋二
42	医療安全推進部会	医療安全管理委員会における事故の発生原因、再発防止策の検討結果・決裁事項の職員への周知、毎月1回の院内ラウンドの実施、内部監査の実施、及び危険予知トレーニングを実施する	第4月曜日	尾山明美 看護師長	畑中邦子、榊井敏子、三岡智規、中谷成美、鎗山かほる、松村圭司、武平春雄、長山俊明、黒田昇平、那須多磨、吉田洋子、林 正美、加藤圭美、川筋晶子、前田加代子、牧瀬良子、安田幸代、垣内千恵美、大東周子、河合ひとみ、松川麻由美、徳上美智子、山本佳司、朴井 晃、三谷直行
43	褥瘡対策委員会	褥瘡対策に関して、患者が安心して医療を受けられる環境を整えること、そして患者が医師及び医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3火曜日	高木圭一 部長	柏山康江、横山敬子、古川智恵、福島幸男、大江洋介、西原千鶴子、武平春雄、寺田勝彦、中谷成美、高瀬由香利、北村尚洋
44	院内感染対策委員会	感染対策に関して、患者が安心して医療を受けられる環境を整えること、そして患者が医師及び医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3木曜日	高瀬俊夫 副院長	服部英喜、佐々木洋、高瀬俊夫、濱口裕弘、但馬重俊、寺田勝彦、酒井治子、斉藤せつ子、榊井敏子、山中トモエ、甲斐幸代、福田一成、鶴田洋介、黒田昇平、三谷直行
45	院内感染対策部会(ICT)	病院内の感染症の防止、発生時に必要な対策に関する情報収集、院内の啓発活動、施設・設備の点検及び改善、微生物学的検査を実施する	第3水曜日	服部英喜 中央検査部部長	山本俊明、徳岡優佳、鳥野隆弘、助永親彦、西岡達也、酒井治子、柏山康江、尾山明美、甲斐幸代、三谷直行

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
46	医療ガス安全管理委員会	実施責任者に保守点検業務を実施させる。医療ガス設備に係る新設及び増設工事、部分改造、修理等にあたっては臨床各部門にその旨、周知徹底を図るとともに、その使用に先立ち、厳正な試験及び検査を行い、安全確認を行う	年1回	上水流雅人 中央手術部 部長	小多田英貴、佐藤浩二、山中トモエ、 山本佳司、長山俊明、三谷直行、中道広行
47	肝炎感染防止対策委員会	病院内の肝炎の感染防止に関する予防対策の監視と指導、職員へのワクチン接種及び接種計画、感染が生じた場合の感染の原因についての疫学調査を実施する	必要の都度	高瀬俊夫 副院長	山本俊明、但馬重俊、寺田勝彦、小西 睦、 鶴田洋介
48	放射線安全委員会	所轄の機器、施設設備等に関する調査、研究、調整を行い、所轄業務内容の変更等に伴う各部局間の調整を行う	第1月曜日	平吹度夫 放射線科部 部長	星田四朗、小林信道、操野 健、岩崎 浩、 小崎博子
49	輸血療法委員会	輸血療法の安全性確保と適正化を図る	年6回(奇数月)の第3月曜日	星田四朗 副院長	服部英喜、上水流雅人、水田裕久、寺野美宝、 中山直子、山口博代、山本早苗、尾山明美、 上垣美智子、蓬郷千里、森 洋子、但馬重俊、 松本数博、寺田勝彦、朴井 晃、原嶋一幸、 角田幸代、鈴木久恵
50	臨床研修管理委員会	医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設と共に臨床研修病院群として行う	必要の都度	佐々木洋 院長	高瀬俊夫、久保研二、土生川洋、柏井洋平、 川畑徳幸、梅本清嗣、下山弘展、塩野 茂、 井口正男、田中規文、星田四朗、斉藤せつ子、 福田一成
51	臨床プログラム部会	臨床研修に関する情報収集及びプログラムを作成する	必要の都度	高瀬俊夫 副院長	橋村一彦、足立孝好、福井弘幸、森田俊治、 小多田英貴、福島幸男、上田 卓、山本信博、 土生川洋、柏井洋平、川畑徳幸、梅本清嗣、 下山弘展、塩野 茂、井口正男、田中規文、 三岡智規、牧野一雄、嶽村貞治、高木圭一、 池本慎一、平吹度夫、吉田重幸、竹田雅司、 鶴田洋介
52	接遇改善委員会	八尾市立病院の理念を踏まえた患者サービスの向上を図る	第2木曜日	高瀬俊夫 副院長	榊井敏子、但馬重俊、操野 健、寺田勝彦、 鶴田洋介、永井哲男、門井洋二、山本恵郎
53	教育研修委員会	八尾市立病院の理念を踏まえ、病院職員の資質と能力の向上を図り、安全で高度な医療サービスを提供する	必要の都度	池本慎一 部長	福島幸男、足立孝好、森明富美子、 岡田ふみよ、香川雅一、寺田勝彦、河野和男、 山本佳司、山本恵一
54	図書委員会	図書の適切な購入と管理を行う	必要の都度	高瀬俊夫 副院長	大江洋介、横山茂和、香川雅一、岩崎 浩、 政岡佳久、西井梅子、山中トモエ、山本恵郎
55	職員任採用委員会	八尾市立病院に勤務する企業職員の任採用に関して必要な事項を定める	必要の都度		
56	職員安全衛生委員会	労働安全衛生法の規定に基づき、職場における安全および衛生の維持向上並びに職員の健康保持増進を図る	第4月曜日	鶴田洋介 企画運営課 長	但馬重俊、山本俊明、上水流雅人、 斉藤せつ子操野 健、森本美百、梅田幸義、 浅井伴子、中尾由美子、森田剛史
57	職員分限懲戒審査委員会	職員の分限懲戒に関して適正を期する	必要の都度		
58	職員被服委員会	八尾市立病院に勤務する職員に対する被服の種類及び貸与数量等の変更に際して、意見の調整を行う	必要の都度	佐々木洋 院長	高瀬俊夫、福島幸男、斉藤せつ子、但馬重俊、 操野 健、寺田勝彦、黒田昇平、森本美百、 梅田幸義、鶴田洋介
59	地域医療支援病院推進委員会	地域医療機関との医療機関の推進を行い、地域医療の質の向上と充実、連携の強化を図る	必要の都度	高瀬俊夫 副院長	佐々木洋、星田四朗、福田一成、池本慎一、 福井弘幸、斉藤せつ子、森明富美子、 佐藤美代子、北村尚洋、門井洋二、原田美永子

病 院 職 員

1. 病院職員

病院事業管理者	阪 口 明 善
病 院 長	佐々木 洋
副 院 長	星 田 四 朗
副 院 長	高 瀬 俊 夫
看 護 部 長	斉 藤 せつ子
事 務 局 長	福 田 一 成

(診療局)

診 療 科 等	職 名	氏 名	備 考
	病 院 長	佐々木 洋	(兼診療情報管理室長・がん相談支援センター長)
	副 院 長	星 田 四 朗	(兼医療安全管理室長)
	副 院 長	高 瀬 俊 夫	(兼診療局長・地域医療連携室長)
内 科	部 長	橋 村 一 彦	H22. 4. 1 採用
	部 長	福 井 弘 幸	
	医 長	星 步	
	医 長	大 江 洋 介	
	医 長	桑 山 真 輝	
	医 長	中 川 隆 文	H22. 4. 12 採用
	副 医 長	巽 理	
	副 医 長	藤 田 実 志	
	副 医 長	上 田 高 志	
	嘱 託 員	柳 本 涼 子	H23. 3. 31 退職
	嘱 託 員	井 上 浩 一	(後期研修医)
	嘱 託 員	氣 賀 澤 斉 史	(後期研修医)
	嘱 託 員	小 西 章 仁	(後期研修医) H22. 4. 1 採用 H23. 3. 31 退職
循 環 器 科	部 長	足 立 孝 好	(兼MEセンター医長)
	医 長	井 城 延 明	H23. 2. 28 退職
	副 医 長	篠 田 幸 紀	
	副 医 長	中 村 憲 史	H22. 7. 1 採用 H22. 12. 31 退職
外 科	部 長	森 本 卓	
	部 長	野 村 孝	
	部 長	森 田 俊 治	H23. 3. 31 退職
	医 長	横 山 茂 和	
	医 長	橋 本 和 彦	
	医 長	松 山 仁	
	副 医 長	徳 岡 優 佳	H22. 4. 1 採用
	嘱 託 員	平 木 将 之	(後期研修医) H23. 3. 31 退職
	嘱 託 員	松 本 伸 治	(後期研修医)
整 形 外 科	部 長	三 岡 智 規	(兼リハビリテーション科医長)
	医 長	黒 田 昌 之	H22. 6. 30 退職
	医 長	田 川 泰 弘	H22. 7. 1 採用
	医 長	尾 上 仁 彦	H22. 7. 1 採用
	副 医 長	上 杉 彩 子	H22. 6. 30 退職
	副 医 長	武 靖 浩	H22. 4. 1 採用
産 婦 人 科	部 長	山 本 信 博	
	医 長	水 田 裕 久	

診療科等	職名	氏名	備考
産婦人科	副 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	佐々木 高 綱 山 口 永 子 正 木 沙耶歌 重 光 愛 子	(後期研修医) H22. 4. 1 採用
小 児 科	医 長 医 長 医 長 副 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	上 田 卓 井 崎 和 史 濱 田 匡 章 柴 田 真 理 塚 元 麻 石 原 卓 柳 本 嘉 時 竹 田 洋 子	H22. 4. 1 採用 (後期研修医) H23. 3. 31 退職 H22. 4. 1 採用 H23. 3. 31 退職
眼 科	部 医 長 副 医 長 副 医 長	牧 野 一 雄 松 本 雄 介 吴 雯 蓮	H23. 3. 31 退職
耳 鼻 咽 喉 科	部 医 長 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	嶽 村 貞 治 森 鼻 哲 生 日 尾 祥 子 伊 藤 理 恵	H22. 4. 1 採用 H23. 3. 31 退職 H22. 4. 1 採用
形 成 外 科	副 医 長	三 宅 ヨシカズ	H22. 4. 1 採用
皮 膚 科	部 医 長	高 木 圭 一	
泌 尿 器 科	診 療 局 次 長 副 医 長 嘱 託 員	池 本 慎 一 岩 井 友 明 芝 野 伸 太 郎	(兼泌尿器科部長)
放 射 線 科	部 医 長 部 医 長 技 師 長	平 吹 度 夫 吉 田 重 幸 南 里 美 和 子 操 野 健	H22. 4. 1 採用
リハビリテーション科	嘱 託 員 嘱 託 員 主 幹	中 長 優 子 籾 内 洋 輔 武 平 春 雄	H22. 6. 30 退職 H22. 5. 1 採用 H23. 3. 31 退職
麻 酔 科	部 医 長 医 長 副 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	小 多 田 英 貴 蔵 昌 宏 今 宿 康 彦 橋 村 俊 哉 藪 田 浩 一 稻 森 雅 幸 園 部 奨 太 福 田 憲 二	(兼集中治療部医長) H22. 4. 1 採用 H22. 4. 1 採用 (後期研修医) (後期研修医) H22. 4. 1 採用
病 理 診 断 科	部 医 長	竹 田 雅 司	
歯 科 口 腔 外 科	部 医 長 副 医 長 嘱 託 員	濱 口 裕 弘 松 岡 裕 大 堀 田 浩 正	H23. 3. 31 退職 (歯科研修医) H22. 7. 1 採用 H23. 2. 28 退職
中 央 手 術 部	部 医 長	上 水 流 雅 人	(兼泌尿器科医長)
救 急 診 療 科	部 医 長	福 島 幸 男	
化 学 療 法 科	部 副 医 長	烏 野 隆 博 古 武 剛	(兼通院治療センター医長) H22. 4. 1 採用
中 央 検 査 部	部 技 師 長	服 部 英 喜 寺 田 勝 彦	(兼内科医長)

診療科等	職名	氏名	備考
内視鏡センター	医 長	岩 永 佳 久	H22. 9. 30 退職
健診センター	部 長	山 本 俊 明	
集中治療部	副 医 長	助 永 親 彦	
新生児集中治療部	医 長	道之前 八 重	
栄 養 科	係 長	黒 田 昇 平	
薬 剤 部	診 療 局 次 長	但 馬 重 俊	(兼薬局長)
診 療 局	嘱託員 (医師)	小 川 義 高	(研修医)
	嘱託員 (医師)	高 森 弘 之	(研修医)
	嘱託員 (医師)	清 水 孝 典	(研修医)
	嘱託員 (医師)	神 田 剛 輝	(研修医) H22. 11. 1 採用 H23. 3. 31 退職
	嘱託員 (医師)	清 水 彩 洋 子	(研修医) H22. 4. 1 採用
	嘱託員 (医師)	白 石 直 敬	(研修医) H22. 4. 1 採用
	嘱託員 (医師)	竹 田 充 伸	(研修医) H22. 4. 1 採用

(看護部)

診療科等	職名	氏名	備考
看 護 部	看 護 部 長	斉 藤 せつ子	看護師長室
	看 護 部 次 長	榊 井 敏 子	看護師長室
	副 看 護 部 長	森 明 富美子	看護師長室
	副 看 護 部 長	千 種 保 子	5階東病棟
	主任看護師長	小 西 睦	外来師長室 H23. 3. 31 退職
	主任看護師長	山 中 トモエ	中央手術部
	主任看護師長	井 澤 初 美	集中治療部
	主任看護師長	森 佳代子	6階西病棟
	主任看護師長	山 本 早 苗	7階東病棟 H23. 3. 31 退職
	主任看護師長	尾 山 明 美	8階西病棟
	看 護 師 長	西 井 梅 子	地域医療連携室 H23. 3. 31 退職
	看 護 師 長	岡 田 ふみよ	5階西病棟
	看 護 師 長	柏 山 康 江	6階東病棟
	看 護 師 長	畑 中 邦 子	7階西病棟
	看 護 師 長	山 田 智 子	8階東病棟
	看 護 師 長	山 田 まゆみ	新生児集中治療部

(事務局)

課名	職名	氏名	備考
事 務 局	事 務 局 長	福 田 一 成	
	次 長	鶴 田 洋 介	(兼企画運営課長)
企 画 運 営 課	参 事	山 本 佳 司	(兼企業出納員)
	参 事	山 内 雅 之	
	課 長 補 佐	朴 井 晃	
	課 長 補 佐	松 倉 信 裕	(兼企画運営係長)
	課長補佐(嘱託員)	永 井 哲 男	H23. 3. 31 退職
	企画運営係長	植 村 佳 子	
	企画運営係長	宮 田 克 爾	
	経 理 係 長	小 山 修 司	
	人 事 係 長	山 本 恵 一	

2. 人員配置表

所 属 職 種	診療局（医師事務作業補助者）																												外 来 小 計										
	内 科	循 環 器 科	神 經 内 科	外 科	整 形 外 科	脳 神 經 外 科	産 婦 人 科	小 児 科	眼 科	耳 鼻 咽 科	形 成 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	放 射 線 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	麻 酔 科	病 理 診 断 科	歯 科 口 腔 外 科	中 央 手 術 部	救 急 診 療 科	化 学 療 法 科	中 央 検 査 部	内 視 鏡 セ ン タ ー	健 診 セ ン タ ー	通 院 治 療 セ ン タ ー	集 中 治 療 部	新 生 児 集 中 治 療 部	がん 相 談 支 援 セ ン タ ー		M E セ ン タ ー	栄 養 科	薬 劑 部	地 域 医 療 連 携 室	診 療 情 報 管 理 室	医 療 安 全 管 理 室	診 療 局 （ 臨 床 研 修 医 ）	診 療 局 （ 医 師 事 務 作 業 補 助 者 ）		
医 師	職 員	兼(1) 9	3		8	4	4	7	3	2	1	1	2	3		6	1	2	1	1	2	1		兼(1) 1	兼(1) 1	兼(1) 1	兼(1) 1												64
	嘱 託	4		2			2	2		2			1		1	2																				7	23		
医 療 技 術 員	職 員							1					15	4		3					9							1	1	3	15	1						53	
	嘱 託							1	1								1				3						1			1							8		
	非常勤嘱託																																				0		
	臨時職員									1							1	1			2																5		
看 護 師	職 員												2					19	2		2	3				兼(1) 1			3	1						32			
	嘱 託												2										1														3		
	非常勤嘱託																																				0		
	臨時職員																	1	1																		2		
准 看 護 師	職 員												1								1																2		
	嘱 託																		1		2	1															4		
	非常勤嘱託																																				0		
	臨時職員																																				0		
事 務 職	職 員																																				0		
	嘱 託																																		5	5			
	非常勤嘱託																																				0		
	臨時職員																																	2	2				
技 能 労 務 職	職 員																												6								6		
	嘱 託																																			0			
	非常勤嘱託																																			0			
	臨時職員																																			0			

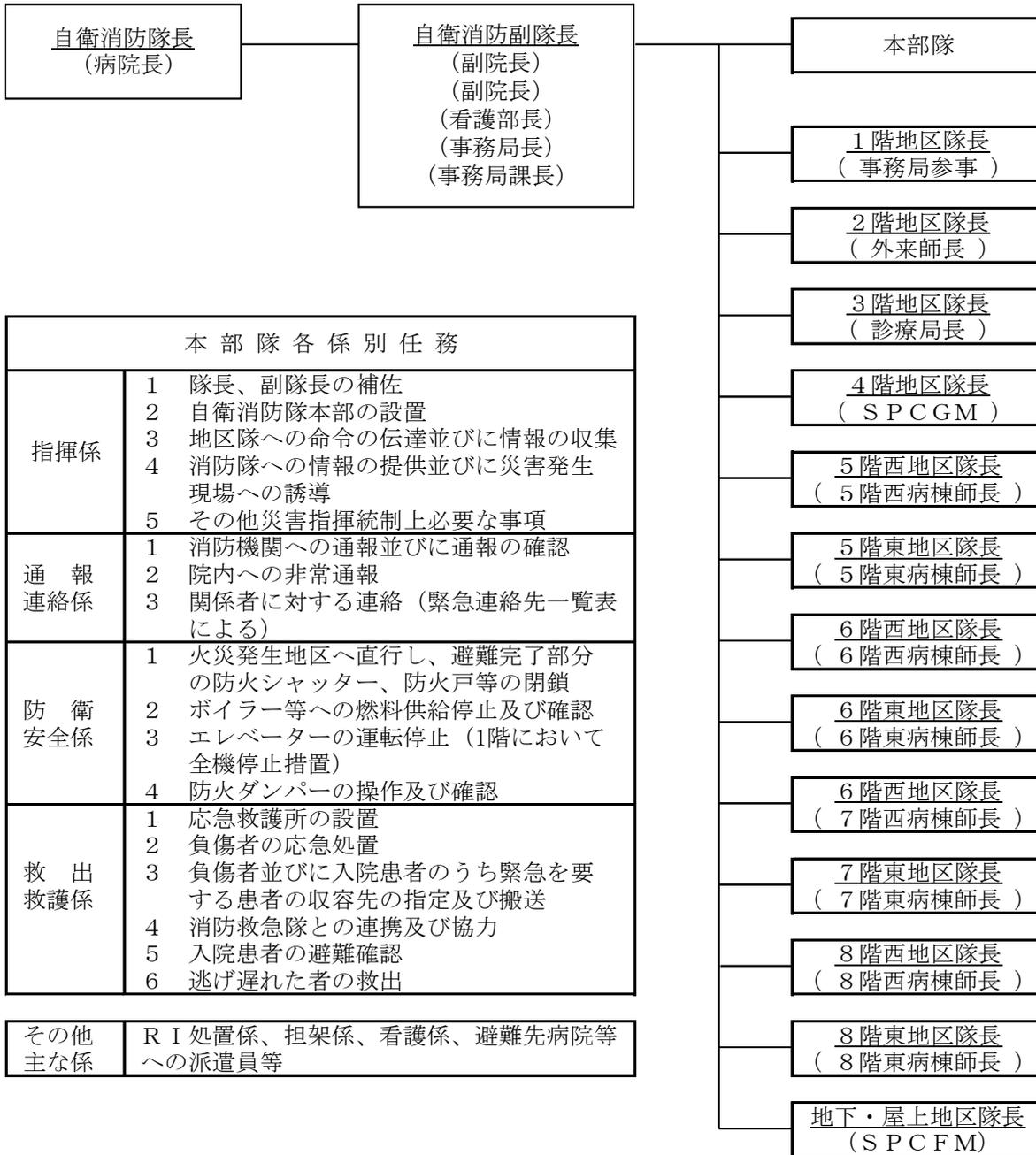
合 計	職 員	9	3		8	4	4	7	4	2	1	1	2	21	4	6	4	2	20	3	2	10	3	1	3	1	1	1	1	9	15	4	1			157	
	嘱 託	4		2			2	2	1	3			1	2	1	2	1		1			3	2				1						7	5	43		
	非常勤嘱託																																			0	
	臨時職員									1								1	1	1	1	2												2	9		
所 属 計	13	3	0	10	4	0	6	9	5	6	1	1	3	23	5	8	6	3	22	4	2	15	5	1	5	1	1	2	1	9	16	4	0	1	7	7	209

(平成23年3月31日現在) (単位：人)

看護師長室	外来師長室	外来A	外来B	外来C	外来D	外来小計	外来総計	集中治療部	5階西棟	5階東棟	6階西棟	新生児集中治療部	6階東棟	7階西棟	7階東棟	8階西棟	8階東棟	病棟計	事務局	企画運営課	企画運営課	企画運営課	企画運営課	事務局	小計	合計
						0	64											0						0	64	87
						0	23											0						0	23	
						0	53											0			1			1	54	
						0	8											0						0	8	67
						0	0											0						0	0	
						0	5											0						0	5	
25	5	2	3	2	3	40	72	16	22	22	19	14	23	24	22	21	22	205						0	277	
	1		1	1	2	5	8		2		1		1	1			1	6						0	14	305
		1	1	1		3	3				1							1						0	4	
					1	1	3			1	1				1	3	1	7						0	10	
	1		1	1		3	5								1			1						0	6	
	2	1			1	4	8	1										1						0	9	18
						0	0											0						0	0	
	2		1			3	3											0						0	3	
						0	0											0	1	5	3	3	4	16	16	
						0	5				1							1		1				1	7	29
						0	0											0			2		2	4	4	
						0	2											0						0	2	
						0	6											0						0	6	
						0	0											0						0	0	
						0	0											0						0	0	
5						5	5											0						0	5	

25	6	2	4	3	3	43	200	16	22	22	19	14	23	24	23	21	22	206	1	5	4	3	4	17	423	
	3	1	1	1	3	9	52	1	2		2		1	1			1	8		1				1	61	517
		1	1	1		3	3				1							1			2		2	4	8	
5	2		1		1	9	18			1	1				1	3	1	7						0	25	
30	11	4	7	5	7	64	273	17	24	23	23	14	24	25	24	24	24	222	1	6	6	3	6	22	517	517

八尾市立病院自衛消防隊編成表



各 地 区 隊 係 別 任 務	
本部連絡係	1 担当地区内の状況を把握(患者・来院者数、火災の状況、その他人命安全ならびに火災の拡大防止に関する事項等)し指揮本部へ直行し、本部との連絡、命令の伝達にあたる。
通報連絡係	1 火災を発見した場合、消防機関「119番」並びに防災管理センター「3131番」への通報 2 地区内職員、入院患者への連絡 3 患者に対する混乱防止のための正確な情報の伝達 4 避難誘導への協力
消火係	1 消火器、屋内消火栓を活用して消火作業に従事 2 他地区の火災の場合は、地区隊長の命により消火作業に従事
避難誘導係	1 患者等の避難誘導 2 火災の状況による避難方向、避難経路の決定、指示 3 避難上支障となる物品の排除 4 逃げ遅れた者及び避難状況の本部への報告
非常持出係	1 非常持出し物品の搬出並びに管理(現金、入院患者一覧表、カルテ、その他患者の人命安全上必要なもの)

診療局の現況

診療局の現況

4月に診療報酬が2年ぶりに改定されました。今回の診療報酬改定では増加率1.25%となる数年ぶりのプラス改正で、特に外科系手術に対し手厚いものとなりました。当院の行財政改革プランも2年目となり、収益部会・費用部会は共に隔月開催され、また、外部の学識者を入れての委員会も2回行われ、目標に向けて熱い議論がなされました。決算では昨年より収支において8.8億円良化させることができました。

院外に向けて病院のアピールも積極的に行い、一般向けの八尾市立病院公開講座も定期開催し、毎回、好評を得ています。また、地域の医療機関に向けには、第一回八尾市地域医療合同研究会を4月12日に開催し60名以上の参加をみることができ、引き続いて第二回目を11月12日に行いました。また、10月には八尾市立病院開院60周年記念講演会をプリズムホールで開催し、847名の市民の方々が来場されました。講演会ではアグネス・チャン氏の特別講演とがん診療のシンポジウムも実施するとともに、院内各部門のがん診療状況を紹介するコーナーを設置し市民への広報を行いました。年末には八尾市立病院開院60周年記念誌が発刊できました。

新病院移転と共に採用した電子カルテシステムも6年が過ぎ更新の時期となりました。整形外科部長三岡先生を中心に情報システム移行プロジェクトチームが編成され、次期電子カルテの選定、部門システムの改定、ハードの交換等の多くの問題点や課題に対処されました。短い期間に職員間のヒアリングや調整等を行った結果、新しい電子カルテシステム（富士通HOPE/EGMAIN-GX）を稼働させることができました。

9月12日に八尾市防災訓練に連動して、当院では初めて大規模災害を想定した院内応急救護訓練を行いました。八尾市消防隊員の協力のもと、医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、事務職、SPCが参加し、迫真のトリアージ訓練ができました。その後まもなく年度末の3月11日昼マグニチュード9.0の東日本大地震が発生し、東北地方では巨大地震・巨大津波による大震災に見舞われました。免震構造の当院でも数分間にわたりゆっくり大きな揺れを感じ、一時診療を止めておさまるのを待つ状態でした。災害支援には、当院の看護師が看護協会を通じてただちに現地に派遣され、院内においても支援義援金を募り送金しました。

人事面では、4月に橋村先生が内科部長、嶽村先生が耳鼻咽喉科部長、吉田先生が放射線科部長に就任しました。また、臨床研修医は当初6名で始まりましたが、11月から神田医師が編入し7名体制となりました。年度末の3月末には外科部長の森田先生と耳鼻咽喉科部長の嶽村先生が退職されました。

また、地域医療支援病院承認に向けて診療局長を委員長に地域医療支援病院推進委員会を編成し、診療情報提供書を積極的に増やすことにより、逆紹介率の60%以上を維持するキャンペーンを行い、部長会やカンファレンスにおいて各科・各医師に協力を求めた結果、医師事務作業補助者の協力が可能となった2月頃から65%を維持できるようになりました。

内科の現況

1. スタッフ

副院長	星田 四朗（兼医療安全管理室長）
部長	橋村 一彦、福井 弘幸
医長	服部 英喜（兼中央検査部部長）、中川 隆文、星 歩、大江 洋介 桑山 真輝
副医長	巽 理、藤田 実、上田 高志
嘱託医師	柳本 涼子（平成 23. 3. 31 退職）、井上 浩一、氣賀澤 斉史 小西 章仁（平成 23. 3. 31 退職）、小川 義高
応援医師	北村 哲也

2. 診療内容

1) 消化器内科

消化器内科として毎日外来 2～4 診、また午後専門診察などの外来業務を担当、内視鏡検査・処置、超音波検査・処置などの検査処置を毎日担当、病棟では地域医療連携室経由の紹介あるいは救急からの入院を中心とした病棟業務を担当している。

完全ペーパーレス・フィルムレスの電子カルテシステムの稼働により、内視鏡・超音波や CT・MRI などの画像を電子カルテ上で患者様に提示可能である。内視鏡・腹部超音波画像はファイリングシステムにて管理され効率的な診療に役立っている。

専用透視室を備えた内視鏡センターを運営し、あらゆる内視鏡下治療手技（EST・ENBD・ステントなど）を施行している。地域医療連携室経由の紹介や救急入院が多いこともあり EST などの治療内視鏡件数が増加している。超音波下治療手技である PTCD・ステントなども専用透視室で施行している。膵腫瘍や胃粘膜下腫瘍に対する穿刺生検（FNA）が可能な超音波内視鏡検査も施行している。ダブルバルーン小腸内視鏡装置にて小腸病変の診断に役立っている。

早期胃癌に対する内視鏡下治療は粘膜剥離術（ESD）を施行している。

肝癌に対する治療も積極的に取り組み、ラジオ波焼灼術（RFA）を平成 14 年から開始し症例を増やしている。肝癌予防に重要なウイルス性肝炎に対するインターフェロン治療も従来から取り組んでいる。

また、消化管出血に対する緊急内視鏡治療など救急医療にも積極的に取り組んでいる。

上記疾患を含め、胃癌・大腸癌などの消化管疾患、膵臓癌・肝癌などの消化器疾患、胆石・総胆管結石症、胆道癌などの胆道系疾患などあらゆる消化器疾患の診断治療に取り組んでいる。

2) 糖尿病・代謝内科

当科では代謝と内分泌疾患、特に頻度の高い糖尿病や甲状腺機能異常症の治療を行っている。治療としては、内服加療だけでなく、1 型糖尿病に必須のインスリン治療も積極的に行っている。従来インスリン導入は入院にて導入することが一般的であったが、社会的状況などから入院を避けたい希望が増えており、その様な希望に対応するために外来でのインスリン導入も行っている。

糖尿病合併症の一つである網膜症は眼科との併診にて、より早期に発見・加療することで視力の喪失を防ぐ様対応している。また、透析の最重要原因疾患である糖尿病性腎症に関しても、腎臓内科と併診を行いつつ、集学的治療を行っている。

糖尿病において食事療法の重要性は認識されているが、實際上十分に行われていないことが一般的である。当科においては、外来での栄養科による栄養指導を重点的に行っている。

入院による糖尿病教育入院および血糖コントロール入院は、外来で十分出来ない食事量の見直しを体験及び血糖値の改善を実感していただくことなどを目的として行っている。40歳以上の10人に1人は糖尿病の可能性があり、他疾患での入院に際しても糖尿病を持っていることがあたり前になっている。そのため、特に糖尿病コントロールの悪化を誘発するステロイドの導入が必要な入院患者においては、血糖値が不安定になってしまう。その様な他科の入院患者における血糖コントロールを行い、主科の治療をサポートしている。

3) 血液内科

血液内科部門は白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫をはじめとする造血器腫瘍、貧血一般、再生不良性貧血、血小板減少症等を診療対象疾患としている。中でも造血器腫瘍においては、寛解・治癒が望める症例では自己末梢血幹細胞移植をはじめとして積極的な化学療法を施行し、高齢者・合併症併発症例には長期延命のためQOL療法を図るなど、個々の患者の病態・年齢・背景に応じた治療を選択している。

4) 腎臓内科

当科では腎不全、水電解質代謝異常、原発性糸球体疾患、尿細管・間質疾患、全身性疾患による腎障害、高血圧および腎血管障害、腎・尿路感染症、遺伝性腎疾患などの腎臓内科疾患の治療を行っている。

常勤医師が不在のため人工透析等のフォローは泌尿器科が担当し、腎生検は他院へ紹介している。

3. 診療体制

1) 消化器内科

①外来診療：月曜日から金曜日までの毎日、消化器内科専門診と消化器内科初診の2～3診体制。

②入院診療：基本50床で運用している。

③腹部超音波検査：月曜日から金曜日までの毎日施行している。

④消化管内視鏡：上部消化管内視鏡検査：月曜日から金曜日までの毎日施行している。

下部消化管内視鏡検査：月曜日から金曜日までの毎日施行している。

⑤内視鏡下・超音波下処置：月曜日から金曜日の午後に施行している。

2) 糖尿病・代謝内科

診察する医師が1人であるため、外来人数に制限がある。月曜日の初診時には、主に院外及び他科からの初診などを診ている。火曜日の午後は約15名、水曜日の午前・午後診は約30～40名、金曜日の午後診は約15名になっている。1週間で約70名の患者の診察を行っている。

3) 血液内科

①外来診療：血液内科専門外来では、服部は月曜日午前、金曜日午前、(木曜日午後は処置外来)を担当している。桑山は月曜日午後、木曜日午前を担当している。

その他一般内科初診（午前のみ）では火曜日、金曜日に血液内科医が診療しており血液疾患対応を行っている。

②入院診療：7西病棟にて原則的には無菌室2床、一般病床18床で運営している。

4) 腎臓内科

外来診療：腎臓内科専門診として金曜日の午前・午後診を行っている。

4. 診療実績

1) 消化器内科

代表的な手術・検査件数

肝臓癌の経皮ラジオ波焼灼術（RFA）	38
内視鏡下早期胃癌切除術（ESD）	38
上部消化管内視鏡検査	3,246
下部消化管内視鏡検査	1,641
内視鏡下逆行性膵胆管造影（ERCP）	153
超音波内視鏡（EUS）	27
内視鏡下食道静脈瘤治療（EVL・EIS）	35
C型肝炎インターフェロン治療	30

*内視鏡関連は内視鏡センター実績

2) 糖尿病・代謝内科

平成22年2月から12月の外来通院患者は延べ550名であり、年間紹介患者数13名 入院患者数は48名であった。

糖尿病教室は8月を除く毎月実施しており、延べ参加者数は293名で1回あたり平均27名の出席があった。

3) 血液内科

平成22年度の血液疾患新規入院患者数は92名であった。内訳は悪性リンパ腫40名、急性白血病6名、多発性骨髄腫5名、骨髄異形成症候群14名、特発性血小板減少性紫斑病3名 その他24名（ATL、慢性白血病、再生不良性貧血、骨髄増殖性疾患など）であった。ちなみに平成21年度は71名であった。

また再入院を含めた延べ入院患者数は176人で新入院患者共に平成16年の新病院移転以来年々更新されている。悪性リンパ腫新患の当科での治療成績は全40例中32例が治療評価可能例で、27例が完全寛解を得た（完全寛解率84%）。

5. 教育活動

1) 消化器内科：臨床研修医3名が各3ヶ月間消化器内科で研修を行った。

毎月、院内消化器内科勉強会を実施している。

2) 糖尿病・代謝内科：臨床研修医が入院患者を中心にした診療の研修を行った。

3) 血液内科：臨床研修医3名が半年の内科研修の間、3ヶ月血液内科の研修を行った。

循環器科の現況

1. スタッフ

部 長	足立 孝好（兼MEセンター医長）
医 長	井城 延明（平成 23. 2. 28 退職）
副 医 長	篠田 幸紀
副 医 長	中村 憲史（平成 22. 12. 31 退職）

2. 診療内容

当科は、平成 16 年 5 月の新病院移転時に内科より独立した。診療内容としては、心筋梗塞・狭心症といった虚血性心疾患を中心に、心不全、不整脈といったほぼ全ての循環器疾患を扱っている。その他、重症呼吸不全や、集中治療を要する患者の殆ども当科で担当している。新病院移転時より、診断・治療機器がほぼ全て一新し解像度に優れた血管造影装置、3D描出可能な心エコー、冠動脈描出可能な 16 列マルチスライス CT、非侵襲的に虚血診断の出来る RI といった最新鋭装置にて診断・治療を行えるようになった。特に力をいれているのは、虚血性心疾患治療で、急性心筋梗塞に対しては、原則として全て 24 時間対応で血管内治療を行っている。昨年度より再狭窄予防効果の強い薬剤流出性ステントが使用可能となり、長期的成績が著しく改善した。また、平成 17 年度より、不整脈の根治治療（心筋焼灼術：カテーテルアブレーション）も可能となり、今まで手薄であった不整脈治療にも力を入れられるようになり症例数も増加傾向である。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前診は、水曜日、木曜日に 2 診を設けそれ以外は 1 診としている。月曜日、火曜日、木曜日は、午後診も行っている。また、原則として毎月第一月曜日の午後にペースメーカー外来を行っている。運動負荷心電図（トレッドミル）は木曜日・金曜日、負荷心筋シンチは木曜日・金曜日、エコー（経胸壁心エコー、経食道心エコー、頸動脈エコー、深部静脈エコー）は毎日行っている。
- 2) 入院診療：割り当てベッド数は約 30 床である。予定の心臓カテーテル検査・ペースメーカー・血管内治療は火曜日・水曜日の午後から行っている。
- 3) 救急体制：循環器科として可能なかぎり 24 時間、365 日オン・コール体制を目標に急性疾患に対応している。

4. 診療実績

外来患者数は、9,653 人である。入院患者数は、延べ 8,075 人であった。

代表的な手術・検査件数

心臓カテーテル検査	141
経皮的冠動脈形成術（P C I）	66
ペースメーカー植え込み術	16
E P S ・アブレーション	3
心エコー	1,987
経食道心エコー	15
末梢血管形成術（P T A）	11
負荷心電図	574
負荷心筋シンチ	342

新病院になってから5年目までは態勢も整い、いずれの検査治療数も増加していた。昨年6年目において循環器医師の減少に伴いやや入院症例数は減少した。しかし今年7月より中村医師が着任し4名体制となり内科（循環器系医師）2名と協力し心臓オンコール（24時間救急受け入れ体制）を開始した。診療内容は充実しており、例えば待機的検査治療では大きな合併症は、一例もなくP T C Aの成功率も99%であった。今後循環器医の増加による病院全体としての救急充実を図り何れの数字も増加していくように努力していきたい。

5. 教育活動

臨床研修医3名が3ヵ月間隔で研修を行った。また、内科（循環器系医師）と協力して病診連携の検討会を開催した。

神経内科の現況

1. スタッフ

応援医師 武田 景敏

2. 診療内容

当科では神経系（大脳・小脳・脊髄・末梢神経）および、筋肉に生じる炎症、変性、血管障害などを中心に診療を行っている。現在、常勤医師不在のため外来診療のみで、変性疾患のパーキンソン病・脊髄小脳変性症や、てんかん・頭痛などを診療している。

入院患者のコンサルトにも対応している。

3. 診療体制

外来診療：水曜日・午後の診察のみ。院内、院外からの紹介患者に限定している。

4. 診療実績

平成 22 年度は外来延患者数 497 人、初診患者数 16 人と前年より増加している（院外からの紹介患者数。これとは別に院内紹介、入院患者の紹介を受け入れている）。入院患者は受け入れていない。

外科の現況

1. スタッフ

院長 佐々木 洋（兼診療情報管理室長・がん相談支援センター長）
部長 森田 俊治（平成 23. 3. 31 退職） 乳腺外科：森本 卓、野村 孝
医 長 横山 茂和、橋本 和彦、松山 仁
副医長 徳岡 優佳
嘱託医師 平木 将之（平成 23. 3. 31 退職）、松本 伸治

2. 診療内容

「一般外科」、「乳腺外科」、「消化器外科」、「救急総合診療科」の4つの細分化した診療科で臨床業務を行った。乳癌を中心とした乳腺疾患、食道・胃疾患を中心とする上部消化管疾患、大腸を中心とする下部消化管疾患、胆石症を含む肝臓・胆のう・膵臓疾患、乳癌や消化器癌を対象とする化学療法などを専門に行っている。一般的な外科疾患である急性虫垂炎やヘルニア、イレウス、急性腹膜炎などは、外科医師全員で対応している。救急診療業務には、24 時間オン・コールの体制で協力している。各種外科疾患の中でも、本院の診療の柱である「がんの診療」には外科医師全員が特に力を注いでいる。

3. 診療体制

上部消化管疾患は福島・松山が、下部消化管疾患は森田・徳岡が、肝・胆・膵疾患は佐々木・横山・橋本が、乳腺疾患は森本・野村が責任者として担当している。初診・紹介患者を対象とした一般外科外来は連日オープンしており、その他、乳腺外来、上部消化管外来、大腸外来、肝・胆・膵疾患外来、ストーマ外来などの専門外来も行っている。全身麻酔の手術は月曜日（第1・3・5週）・火曜日・水曜日・木曜日の全日および金曜日の午後に、腰椎麻酔や局所麻酔の手術は月曜日午後・金曜日午前に行っている。ただし、手術日以外にも緊急手術や臨時手術を行うことも多い。検査関連では、穿刺・生検などの処置を含む乳腺エコー検査は乳腺外来で随時、腹部超音波検査と上部消化管内視鏡検査は週1回、下部消化管内視鏡検査は週3回外科で分担実施している。また、外来化学療法室での業務についても、化学療法科の医師とともに外来患者の化学療法の実施に携わっている。

診療の特徴としては、①疾患別の専門的診療、②個々の患者の病態に見合った治療法の選択、③科学的根拠に基づいた医療（EBM）の実践、④緩和医療・終末期医療を含め、最後まで見る体制、⑤クリニカル・パス導入による医療の標準化と効率化の実践などである。

4. 診療実績

平成 22 年度は、総手術件数が 776 件であった。その内、601 件（77%）が全身麻酔手術で、腰椎麻酔手術は 109 件（14%）、局所麻酔手術は 66 件（8.5%）であった。また、時間外の緊急手術は 45 件（5.8%）であった。平成 22 年度に行った代表的な手術症例の内訳は下表の通りである。

代表的疾患の手術件数

食道癌（切除術）	1	肝臓癌（原発・転移性）	24
胃癌	65	原発性肝癌	13
幽門側胃切除術	36	転移性肝癌	11
胃全摘術	13	胆管癌手術	3
その他	16	胆嚢癌手術	4
大腸癌	103	乳癌	123
結腸切除術	67	乳房部分切除術（温存手術）	86
直腸癌手術	36	乳房切除術	37
直腸前方切除術・ハルトマン手術	30	腸閉塞	19
腹会陰式直腸切断術	3	ヘルニア	101
経肛門的直腸腫瘍切除術	2	成人ヘルニア	91
人工肛門造設術	1	臍ヘルニア	2
胆石症	94	腹壁癒痕ヘルニア	7
開腹胆嚢摘出術	13		
腹腔鏡下胆嚢摘出術	81	急性虫垂炎（虫垂切除術）	39
膵癌・十二指腸乳頭部癌・下部胆管癌	6	腹腔鏡補助下結腸手術	14
膵頭十二指腸切除術	13	腹腔鏡補助下直腸手術	6
膵体尾部切除術	4	腹腔鏡補助下胃切除術	15
胃空腸吻合術	1		

5. 教育活動

臨床研修医 1 名に対し 3 ヶ月間の外科臨床研修を行った。

整形外科の現況

1. スタッフ

部長 三岡 智規（兼リハビリテーション科医長）
医 長 黒田 昌之（平成 22. 6. 30 退職）、田川 泰弘、尾上 仁彦
副医長 上杉 彩子（平成 22. 6. 30 退職）、武 靖浩
応援医師 岡本 道雄 リウマチ外来担当：片岡 英一郎

2. 診療内容

スポーツ外傷、関節疾患、リウマチ、脊椎疾患を中心に、診療を行っている。

スポーツ整形外科では靭帯再建手術、半月版総合術・切除術、肩脱臼に対する手術、肩腱板修復術を主に行っている。

関節外科では人工関節置換術を主に行っている。輸血を必要とする予定手術（人工関節置換術）に対しては外来にて術前貯血を行いできるだけ同種輸血を回避している。脊椎外科は、頸椎、腰椎の手術を主に施行している。リウマチ疾患は、毎週水曜日午後に片岡医師による専門外来を行っている。

3. 診療体制

平成 22 年度は、部長の三岡を除き、スタッフ全員が入れ替わっている。

長年、脊椎を担当していた黒田医師が平成 22 年 7 月 1 日付けで大阪医療センターに転勤し、後任に関西労災病院より尾上医師が着任している。

平成 22 年 7 月 1 日に、田川医師が星ヶ丘厚生年金病院から着任している。主に外傷の治療を担当した。

スポーツクリニックの人事では、平成 22 年 4 月 1 日付けで大学にもどった北医師の後任に武医師が着任し、三岡とともに、膝・肩、スポーツ疾患を担当した。

4. 診療実績

代表的な手術件数

スポーツ		人工関節		腰椎椎体間固定	11
膝靭帯再建術	11	股関節	12	腰椎ヘルニア摘出	3
反復性肩脱臼	2	膝関節	29	骨折	
肩腱板修復	4	脊椎		大腿骨頸部骨折	
半月手術	8	頸椎椎弓形成	4	人工骨頭	18
その他	33	胸椎	2	骨接合	24
				観血的整復固定	71

5. 教育活動

平成 23 年 2 月 5 日 : 市民公開講座 三岡が膝関節症の話、田川が骨粗しょう症の話、尾上が腰部脊柱管狭窄症の話を市民向けに行っている。

平成 23 年 2 月 26 日 : 八尾整形外科懇話会 八尾地区開業医との症例検討会を行っている。

脳神経外科の現況

1. スタッフ

応援医師 貴島 晴彦、木嶋 教行、馬場 貴仁、中村 元

2. 診療内容

当科では、頭蓋内疾患においては、脳血管障害・脳腫瘍・三叉神経痛といった機能的疾患に加え、脊椎・脊髄疾患の治療を行っている。現在、常勤医師不在のため外来診療のみで診療を行っている。

診断機器としてはマルチスライスCTにより、通常のCT画像に加え、高解像度のCTアンギオグラフィーも使用し、またMRIでは種々の撮像が可能であり、MRアンギオグラフィーやMRミエログラフィーも可能である。これらの手法を用い、従来行われていた血管造影・脊髄造影などの侵襲的検査を大幅に減少させ、より低侵襲で、かつ十分な検査を提供できるようになっている。脳血流の評価や脳腫瘍の評価にSPECTを備えており、随時検査を行い、手術適応の決定に役立てている。

3. 診療体制

外来診療：1診体制であり、月曜日、水曜日、金曜日の午前診を行っている。

4. 診療実績

平成22年度は外来延患者数1,560人、初診患者数248人と初診患者が伸びている。
入院患者は受け入れていない。

産婦人科の現況

1. スタッフ

部長 山本 信博
医 長 水田 裕久
副医長 佐々木 高綱、山口 永子
嘱託医師 重光 愛子、正木 沙耶歌

2. 診療内容

- 1) 産科：近隣の産科施設の相次ぐ閉鎖に伴い、現在市内では、分娩出来る施設は、当科と3ヶ所の開業医のみである。当科での分娩を希望される方は多いが、全ての方の希望を受け入れる事は難しく、分娩制限をしている。当院はNICU6床を有し、OGCS（産婦人科治療相互援助システム）の参加病院として、地域の先生方からの切迫早産、合併症妊娠、分娩前後の急変患者などの搬入を積極的に受け入れている。平成22年度の緊急搬入は12例だった。
- 2) 婦人科：がんと良性疾患のうち、手術、化学療法適応の患者を主な対象としている。腹腔鏡下手術適応疾患や子宮鏡下手術にも積極的に取り組んでいる。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：産科を中心とした診療体制をとっている。午前は産科再診、婦人科再診、初診の3診体制、午後は産科再診、市民健診の子宮がん健診（水曜日と金曜日）を行っている。
- 2) 入院診療：ベッド数は39床。産科の分娩も、婦人科の手術も入院期間は概ね1週間以内と短期間で、病床の回転率は高く、また病棟では分娩もある。

4. 診療実績

平成18年4月より分娩を再開後、平成20年度の分娩数は630件であったが、平成22年度は704件に達している。外来患者数も平成20年度は71.1名（1日平均）であったが、平成22年度は80.1名となっている。手術件数は366件（内、帝王切開は126件）で手術日の手術枠は全て満たしており、更に緊急手術を適時施行している。

代表的疾患の手術件数(366件)

卵巣嚢腫など	子宮付属器腫瘍摘出（開腹）	35	卵巣嚢腫 子宮外妊娠など	子宮付属器腫瘍摘出（腹腔鏡） （卵巣卵管摘出）	52
子宮筋腫など	子宮全摘術（開腹）	54	子宮筋腫 子宮内膜ポリープ	子宮鏡下腫瘍摘出術	21
	子宮筋腫核出術	14	子宮がん 卵巣がん	子宮付属器悪性腫瘍手術	16
子宮脱	子宮全摘術（膣式）	11	その他		9
子宮頸部異形成	子宮頸部円錐切除術	28	産科	帝王切開術	126

分娩業務状況

		(単位：件)	
分娩数	704	帝王切開術	
正常分娩	518	予定	82
異常分娩	186	緊急	45
双胎分娩	16	吸引分娩	26
		鉗子分娩	4

5. 教育活動

スーパーローテートの初期研修として、1ヶ月ずつ3名が産婦人科を研修した。毎週水曜日には症例検討会、月に一度病理部と合同カンファレンスを実施している。

小児科の現況

1. スタッフ

部長 高瀬 俊夫（兼診療局長・地域医療連携室長）
医 長 上田 卓、井崎 和史、道之前 八重（新生児集中治療部医長）、濱田 匡章
副医長 柴田 真理、塚元 麻、石原 卓
嘱託医師 竹田 洋子（平成 23. 3. 31 退職）、柳本 嘉時（平成 23. 3. 31 退職）

2. 診療内容

新生児から中学生までを対象としているが、慢性疾患や先天性凝固異常疾患では年長者まで診療をしている。主な疾患としては呼吸器疾患、消化器疾患、気管支喘息、アレルギー性疾患、腎泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、神経疾患、血液・凝固疾患、川崎病、シェーンライン・ヘノッホ紫斑病などの小児期特有の疾患、新生児・未熟児疾患、先天性疾患などそれぞれ専門担当医を決めて診療している。また、健診・予防業務として正常新生児の退院時健診、生後 1 ヶ月健診、10 ヶ月後期健診や各種予防接種も行っている。

3. 診療体制

1) 外来診療：午前は月曜日、木曜日、金曜日が 4 診制、火曜日、水曜日が 3 診制とし、一般外来を中心に予約患者は 1 診、2 診、予約外患者および救急は 3 診、4 診で診療している。午後は予約専門外来として月曜日は内分泌外来およびアレルギー外来、火曜日は 1 ヶ月健診および後期健診、水曜日は予防接種外来、木曜日と金曜日は発達外来を行い、外来検査として火曜日と水曜日に心臓超音波検査、木曜日に尿路系造影検査を行っている。

2) 入院診療：小児単独病棟として 6 階西病棟に一般病床と N I C U あわせて 45 床を有しているが、感染症の多い時期には収容しきれない患児を他病棟の協力を得て治療している。院内学級には八尾市立龍華小学校から藤井真希先生が専属で来ていただき慢性疾患患者の長期入院に際しベッドサイドや院内教室で授業を行っていただき助かっている。また、小児病棟恒例の七夕やクリスマスなどの催しにもご支援を賜っている。

N I C U については新生児特定集中治療室管理料の加算対象が 6 床であり、地域周産期母子医療センターとして診療にあたっている。

3) 救急診療：日勤帯は救急担当医を決めて対応している。時間外救急診療については中河内小児救急輪番制を維持し、当院は、火曜日および土曜日を担当している。

4. 診療実績

外来患者数は 22,555 名で昨年度より 8.5%減少した。うち時間外救急患者数 9,224 名で 18.4%減少した。

入院延患者数は 14,085 名で昨年度より 4.5%増加した。また新入院患者数は 1,820 名で 3.2%減少した。入院患者のうち時間外救急患者の入院は 668 名で 36.7%を占めていた。入院患者の内訳は肺炎などの呼吸器疾患、胃・腸炎などの消化器疾患といった急性感染症が大勢を占めていた。なおNICU入院患者数は 96 名であった。

代表的疾患件数

肺炎・気管支炎	650	川崎病	44
上気道炎・インフルエンザ・扁桃腺炎	156	腸重積	13
胃・腸炎	196	気管支喘息	37
クループ・喘息性気管支炎	108	内分泌・代謝疾患	27
新生児・未熟児疾患	137	血液・凝固異常	34
神経・てんかん・熱性痙攣	71	細菌性・ウイルス性髄膜炎・脳炎	47
腎炎・ネフローゼ・尿路感染症	43		

5. 教育活動

2年目を迎えた臨床研修医の小川 義高、清水 孝典、高森 弘之の3名が1ヶ月間小児科研修を行った。また、奈良県立医科大学6回生4名がクリニカルクラークシップとして4～5月にそれぞれ4週間の臨床実習を行った。

近隣の小児科医との連携推進のために中河内小児科談話会を6月と12月に開催し、八尾市、柏原市、東大阪市、藤井寺市の医師会員や市立柏原病院の勤務医の先生方が参加され症例検討や情報交換を行った。

眼科の現況

1. スタッフ

部長 牧野 一雄
副 医 長 松本 雄介、呉 雯蓮（平成 23. 3. 31 退職）

2. 診療内容

当科では角膜、虹彩、水晶体、網膜などの角膜感染症、白内障、緑内障、網膜静脈分岐閉塞症、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎、中心性網脈絡膜症、斜視、眼瞼内反症などの眼科一般の治療を行っている。特に白内障、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎の治療に重点を置き、手術療法、網膜光凝固療法、免疫療法等、またこれらを組み合わせた集学的治療を行っている。予定手術（白内障、緑内障、翼状片、内反症、斜視）に対しては外来と入院にて行っている。近年、高齢者医療負担の増加に伴い、全身的に不全にもかかわらず敢えて日帰り手術を希望される方が多いのが現状である。

現在、白内障に続き急増しているのが糖尿病による糖尿病網膜症である。メタボリックシンドロームと称して警鐘を全国的にもなされているが、その重症例はあとを絶たない。当院眼科では、眼科だけではなかなか改善は困難なので、内科定期受診と患者さん御本人の協力得るよう積極的に病気に対しての説明を行い、生活習慣病であることを患者さんに認識してもらうよう努力している。ぶどう膜炎は長い経過をたどる場合があるので根気よく治療にあたっている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：すべて午前診では火曜日の手術日を除き月曜日から金曜日まで2診制で行っている。
- 2) 午後は、蛍光眼底検査、視野検査、網膜光凝固治療、外来小手術、手術説明を行っている。
- 3) 入院診療：ベッド数は7床で、平均在院日数約7.2日で稼働している。

4. 診療実績

外来患者数は平成21年度から平成22年度にかけては白内障日帰り手術の占める割合が格段に増加。年齢的にも日帰り手術は困難と思える患者さんでも医療費節約のため、敢えて日帰り手術を希望されるケースが多いが、病院として、それに対する十分な施設対応が無理なため、スタッフが頑張ってカバーしている。また、近年の医師不足は特に眼科では深刻で入局者の激減と開業医増加で勤務医関連病院は縮小傾向にある。そのため、遠方よりの来院も増加している。また近年の不況のため高度治療したいができないという状態が出ている。益々の高齢化社会現象に対しての新たな取り組みが必要になる。

5. 教育活動

嘱託医1名が研修を行っている。眼科専門医試験意向者である。

耳鼻咽喉科の現況

1. スタッフ

部長 嶽村 貞治（平成 23. 3. 31 退職）
医 長 森鼻 哲生
嘱託医師 日尾 祥子、伊藤 理恵

2. 診療内容

耳鼻咽喉科領域全般の疾患について急性期病院としての診療を行っている。すなわち、近隣の診療所・病院からの紹介患者を優先しており、救急疾患か精密検査の必要な疾患、もしくは手術および入院治療を要する疾患が中心である。従って外来通院治療疾患も重篤な病態に限っており、病状の安定した大半の患者は近隣耳鼻咽喉科に紹介して再診患者数を制限している。スムーズな病診連携のために各地域の耳鼻咽喉科地域連携会を定期的で開催しており、八尾・平野・柏原・藤井寺地区で優先的に紹介を受ける体制を整えている。

手術治療は、レーザー照射装置（鼓膜切開、鼻腔・口腔領域）、内視鏡（鼻副鼻腔）・マイクロ（耳、喉頭）を用いた低侵襲手術を引き続いて耳鼻咽喉科全分野に積極的に行うことで、外来手術ならびに入院治療も短期滞在に主体を置いている。頭頸部癌に対して手術だけでなく化学療法・放射線治療（入院・外来）も施行し、集学的治療を実践した。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日までの午前中で、初診 1 診、再診 1 診の 2 診で行っている。初診は紹介患者のみに絞って、当日に可能な範囲の検査を行い、診断している。
- 2) 特殊外来：水曜日（第 1, 3, 5）の午後に幼児難聴外来、金曜日の午後に補聴器外来を行っている。
- 3) 入院診療：入院定床は 15 床であるが、1 日平均 16 床を占めている。在院日数は短期化に努めている。手術日は、水曜日の午前・午後（それぞれ 2 列）、木曜日の午前・午後、金曜日の午前・午後に手術場での全身麻酔手術を、月曜日・木曜日・金曜日の午後に外来での局所麻酔手術を行っている。全身麻酔は前日入院で、短期入院を考え、侵襲の少ない手術では術翌日に退院としている。
- 4) 大阪 5 大学と大阪府立母子保健総合医療センター、大阪府立急性期・総合医療センターとともに大阪府の新生児難聴スクリーニング事業における精密検査施行病院となり、難聴児受け入れ病院として中河内地区の中核を担っている。

4. 診療実績

現在外来診療体制を紹介患者及び予約患者に絞って対応しているが、外来患者数は 22 年度も 11,035 人と一万人越えを維持している状態である。紹介率、逆紹介率も例年どおり 95%および92%と高値を維持できた。外来患者一人1日当たりの医療収益は 8,577 円であった。一方、22 年度の入院患者数は 6,055 人であった。手術内容では鼻内視鏡手術、鼓室形成術など、高度医療技術を要する点数の高い手術が増加しているが、手術件数は全身麻酔、局所麻酔を合わせて 600 件以上を保っている。また、短期滞在をさらに推し進めた結果、入院一人1日当たりの医療収益は 51,552 円となっている。

5. 教育活動

前述の如く、周辺各地域で病診連携会・病病連携会を行い、併進診療をすすめると共に講演活動を行って、各地域の諸先生に当科の治療方針を説明し、引き続いて連携の強化を図った。当科にて主催した会は以下の如くである。

- ・八尾市耳鼻咽喉科医会：年2回

形成外科の現況

1. スタッフ

副 医 長 三宅 ヨシカズ
応援医師 松島 貴志、日原 正勝

2. 診療内容

当科は平成 20 年 7 月 1 日より開設し、切断指救急を積極的に受け入れるとともに形成外科一般の診療にあたっている。切断指など指外傷の救急診療には 24 時間オン・コール体制をとっている。また、他科とも協力し悪性腫瘍切除後の再建も行っている。

外来では主に表皮嚢腫、母斑、脂漏性角化症、脂肪腫などの良性腫瘍や基底細胞癌、有棘細胞癌などの悪性腫瘍、癬痕、眼瞼下垂、多合指症、耳介変形、顔面外傷の診療にあたっている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日～木曜日、金曜日は手術日のため午後は完全予約制で診療を行っている。
- 2) 手 術：月曜日午後、金曜日である。
- 3) 救急体制：切断指などの手指外傷に対し 24 時間オンコール体制をとっている。

4. 診療実績

	手術件数		
	入院手術	外来手術	合 計
外傷	102	33	135
先天異常	2	1	3
腫瘍	31	172	203
癬痕、ケロイド	9	6	15
難治性潰瘍	7	2	9
炎症・変性疾患	9	15	24
美容		2	2
その他		1	1

*平成 22 年 1 月から 12 月末までの手術実績

5. 教育活動

関西医科大学および大阪市立大学形成外科主催で年 2～3 回、各関連病院合同の症例検討会が開かれ、情報交換を行った。また、学会にも積極的に参加している。

皮膚科の現況

1. スタッフ

部長 高木 圭一
嘱託医師 武曾 有美 (平成 22. 5. 31 退職)

2. 診療内容

当科では月曜日から金曜日までの連日外来診療を行っている。平成 22 年 5 月までは 2 人での診療体制であったが、それ以降は 1 人体制となり、待ち時間等患者に不便な面もあったが、最近では患者予約の工夫と新患診察日の増設でやや待ち時間等緩和してきている。

疾患の検査や治療内容についても、患者に対して最良の医療を提供していると考えます。外来においては、皮膚科全般の疾患について診療を行っている。また、皮膚生検、慢性疾患診療、腫瘍やあざの摘出なども行っている。皮膚生検は皮膚疾患を解明するためには非常に重要で、当科では積極的にこれを行い、治療に役立てている。また、脂漏性角化症、色素性母斑、疣贅などの良性腫瘍や、日光角化症などの悪性腫瘍の治療を積極的に行っている。さらに悪性度の高い腫瘍やその他の良性腫瘍についての手術も形成外科的な手法も取り入れて行っている。また、掌蹠膿疱症や尋常性乾癬といった難治性皮膚疾患に対しては UVA、UVB を正確なジュール数で照射可能な光線療法機器を用いて治療を行っている。接触性皮膚炎や最近増加傾向にあるアレルギー性疾患の原因追求に非常に有用とされるパッチテストも随時行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：初診は月曜日・火曜日・水曜日・金曜日、再診は月曜日・金曜日、処置および再診は火曜日・木曜日で毎日診療を行っている。なお、火曜日・水曜日・木曜日にも随時再診患者を診察している。また、月曜日、火曜日と木曜日を中心にパッチテスト、皮膚生検を随時行い、木曜日は手術となっている。しかし、これら処置も曜日にとらわれず随時入れるようにしている。
- 2) 手術：必要に応じて、随時皮膚科外来、手術室で行っている。
- 3) 入院：当科のベッド数は 1 床である。感染症、慢性皮膚疾患、手術、紫斑症などの疾患で外来診療に影響がでない範囲で積極的に入院加療を行っている。

4. 診療実績

入院患者：187名、外来患者数：4917名である。平成22年5月より診療体制が変更になり、1人体制となり患者一人の待ち時間がふたたび増加したため外来患者数は減少したが、入院を積極的に増やしたため入院患者は増加している。

手術の症例数は減少したが、皮膚生検は前年と同様である。腫瘍で受診する患者は減ったが炎症性皮膚疾患の症例数は前年と同様に受診したため考える。また、光線療法は該当疾患の患者が減少したのと1人体制にもどったためと考える。

代表的疾病・治療及び手術件数

良性腫瘍（処置室手術含む）	40
悪性腫瘍（処置室手術含む）	2
手術件数	42
全身麻酔	0
局所麻酔	42
生検	50
炭酸ガスレーザー	5
抜爪	0
光線療法	114

5. 教育活動

大阪大学医学部附属病院皮膚科主催で関連病院皮膚科合同の症例検討会を行った。また、2ヶ月に1回の南大阪皮膚科症例検討会に参加し、難治症例の検討や最新の皮膚科学のレクチャーを受けた。さらに、毎月の複数病院参加による検討会（通称3病院症例検討会）にも参加した。地方会、総会も参加した。

泌尿器科の現況

1. スタッフ

部長	池本 慎一（兼診療局次長）
医 長	上水流 雅人（兼中央手術部部長）
副 医 長	岩井 友明
嘱託医師	芝野 伸太郎

2. 診療内容

当科では膀胱・腎・前立腺・精巣などの泌尿生殖器癌、尿路結石症、尿路感染症、前立腺肥大症、過活動膀胱、副腎の内分泌疾患、停留精巣や膀胱尿管逆流症などの小児泌尿器科、尿失禁や膀胱脱などの婦人科との関連疾患を含め、ほぼすべての泌尿器科疾患を治療している。特に泌尿器癌の治療に重点を置き、手術療法、化学療法、放射線療法、免疫療法等またこれらを組み合わせた集学的治療を行っている。膀胱癌はできるだけ膀胱温存治療をめざしている。外科系診療科でより侵襲の少ない手術法として腹腔鏡下による手術が増加している。泌尿器科領域では腹腔鏡手術は平成 14 年 4 月より腎尿管腫瘍、上部尿路通過障害に対して健康保険が適用になって以来、当科でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れている。腎摘除術に対しては小切開手術も取り入れ、低侵襲手術を目指している。尿路結石に対しては、体外衝撃波結石破砕装置を導入し、経尿道的尿管碎石術、経皮的腎碎石術と合わせてほぼ全ての尿路結石に対して治療が可能になっている。

平成 19 年末に常勤の腎臓内科医が不在となり、平成 20 年 1 月より当院外来通院中の慢性腎不全患者の血液透析導入及び維持透析業務を泌尿器科あるいは当科のサポートにて施行している。内科的疾患（DM、循環器疾患等）が原因の慢性腎不全は担当科が主治医で泌尿器科と共観で、内科的疾患以外の合併症のない慢性腎不全については泌尿器科が主治医となり、原則として 7 東病棟透析室にて施行している。また急性腎不全の血液浄化及び重症患者の維持透析は ICU にて施行し、適宜当科にてサポートしている。外来においては血液透析導入が近くなれば泌尿器科外来に紹介してもらい、当科でも外来フォローを行っている。また当院は腎移植施設の認定を受けており、今後は生体腎移植にも取り組んでいく予定である。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前診は水曜日に 1 診、水曜日以外は 2 診を設け、水曜日以外は午後診も行っている。泌尿器科検査では内視鏡検査、超音波検査、ウロダイナミックスなどは必要に応じて随時外来で施行している。膀胱癌、前立腺癌に対する外来化学療法を主に月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に行っている。
- 2) 体外衝撃波結石破砕術：月曜日、木曜日、金曜日の午後に原則として 1 泊の入院扱いで施行しているが、尿管結石に対しては外来通院でも行っている。
- 3) 入院診療：ベッド数は 20 床にて平均在院日数約 11.3 日で稼動している。尿路生殖器癌に対

する手術を中心とした集学的治療、前立腺肥大症に対する内視鏡手術、尿路結石症に対する体外衝撃波結石破砕術、内視鏡手術を柱にしている。手術は月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の4日間行っている。

4. 診療実績

外来患者数は平成20年度13,418人、平成21年度14,720人、平成22年度16,109人と増加している。新来患者数は平成20年度1,057人、平成21年度927人、平成22年度1,097人となっている。入院患者数は平成20年度6,620人、平成21年度8,334人、平成22年度8,216人となっている。手術室を利用した手術件数（体外衝撃波結石破砕術を除き、前立腺生検術を含む）は平成20年度474件、平成21年度508件、平成22年度559件と増加している。体外衝撃波結石破砕術は平成20年度109件、平成21年度89件、平成22年度43件と減少している。平成22年の新入院患者総数667名の内、前立腺癌の精査目的（前立腺生検術）、を含めると悪性腫瘍患者は全体の6割程度を占めている。疾患では膀胱癌が多く、経尿道的膀胱腫瘍切除術は89件、膀胱全摘除術は7件行われた。前立腺癌は罹患率、死亡率ともに急速に増加しており本邦でも年間8,000人以上が前立腺癌で死亡している。前立腺癌は血清PSAが鋭敏な腫瘍マーカーになっておりPSA検査の普及に伴い当科でも前立腺生検術が増加している。平成21年度は137件、平成22年度は197件の前立腺生検術を行った。根治療法に適応のある患者に対しては前立腺全摘除術と放射線療法を提示し、臨床病期、病理所見、年齢等を鑑み、十分なインフォームド・コンセントを行った後にどちらを選択するかを患者に決めてもらっている。平成22年度の前立腺全摘除術は19件行われた。

平成21年度血液浄化施行患者数は維持透析7名、透析導入20名であった。延べ275回の血液浄化を行った。

代表的な手術件数

経尿道的膀胱腫瘍切除術	89	膀胱全摘除術	7
経尿道的前立腺切除術	41	回腸導管造設術	6
経尿道的尿管碎石術	14	前立腺全摘除術	19
経尿道的膀胱碎石術	12	腎摘除術	16
尿管ステント留置術	65	腎部分切除術	6
経皮的腎瘻造設術	24	腎尿管全摘除術	8
内シャント造設術	14	高位精巣摘除術	6

5. 教育活動

池本は大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の5回生、6回生の学生に泌尿器科癌の講義を行っている。

放射線科の現況

1. スタッフ

部長 平吹 度夫、吉田 重幸
医 長 南里 美和子
技師長 操野 健
技師長以下技師 14 人 看護師 5 人

2. 診療内容

画像診断全般と放射線治療を行っている。画像診断には、一般撮影、CT、MRI、消化管造影、血管造影、核医学が含まれる。また、画像検査の手技を応用したIVRとして、肝臓の血管塞栓術等を行っている。

放射線治療は招聘した専門医がリニアック治療装置を用いて診療にあたっている。

3. 診療体制

- 1) 一般撮影、CT、MRIは月曜日から金曜日の午前午後毎日施行。一般撮影は随時、その他の画像診断は予約制。技師・看護師は24時間2交代勤務。
- 2) 放射線治療の専門医診察は月曜日午前、火曜日午後および金曜日午前に行っている。

4. 診療実績

主な検査件数と放射線治療件数は以下のとおり。MRIが2台体制になり、件数が増加している。画像ファイルの件数も増加している。放射線治療は乳腺が約半数を占め、次いで前立腺が多い。

代表的な検査・放射線治療の件数

CT	11,587	核医学診断	971
MRI	5,116	放射線治療	159
血管造影	443	画像ファイル*	5,171

*他院のフィルム・CDのPACSへの取込み及び、PACSからのフィルム・CDの出力

5. 教育活動

八尾地区の近隣の病院と連携して、「八尾画像談話会」を開催している。
放射線学会専門医修練協力機関の認定を受け、研修体制の充実を図っている。

平成 22 年度 診療科別検査件数

検査種類 診療科	一般撮影			透視造影			血管造影			R I		
	件数 全件数	内、入院 件数	日平均	件数 全件数	内、入院 件数	日平均	件数 全件数	内、入院 件数	日平均	件数 全件数	内、入院 件数	日平均
内 科	6,067	2,457	25.0	359	307	1.5	150	25	0.6	231	47	1.0
循環器内科	2,206	1,254	9.1	8	2	0.0	203	120	0.8	174	48	0.7
神経内科	18		0.1									
外 科	9,724	2,651	40.0	162	139	0.7	83	9	0.3	267	4	1.1
整形外科	8,486	1,528	34.9	81	29	0.3	2		0.0	24	13	0.1
脳神経外科	19		0.1							3		0.0
産婦人科	567	147	2.3	6	1	0.0	1		0.0	1		0.0
小児科	4,591	1,088	18.9	29	9	0.1				1		0.0
眼 科	364		1.5									
耳鼻咽喉科	1,153	58	4.7	1		0.0				1		0.0
形成外科	564	53	2.3									
皮膚科							3	2	0.0	2		0.0
泌尿器科	2,359	425	9.7	159	89	0.7				142	6	0.6
放射線科	136	1	0.6	21		0.1	1		0.0	125	6	0.5
リハビリテーション科	9	6	0.0									
麻酔科	39	2	0.2									
歯科口腔外科	1,364	78	5.6									
病理診断科												
健診センター	2,892		11.9	379		1.6						
合 計	40,558	9,748	166.9	1,205	576	5.0	443	156	1.8	971	124	4.0

検査種類 診療科	C T			M R I			骨密度			画像ファイリング			
	件数 全件数	内、入院 件数	日平均	件数 全件数	内、入院 件数	日平均	件数 全件数	内、入院 件数	日平均	出力	取込み	合計	日平均
内 科	3,094	802	12.7	814	128	3.3	35	4	0.1	447	378	825	1.8
循環器内科	240	109	1.0	91	15	0.4	6		0.0	81	11	92	0.3
神経内科	3		0.0	61	1	0.3				8	3	11	0.0
外 科	4,074	340	16.8	462	42	1.9	206		0.8	237	356	593	1.0
整形外科	299	98	1.2	814	80	3.3	38	1	0.2	595	322	917	2.4
脳神経外科	176	3	0.7	542	4	2.2	1		0.0	49	18	67	0.2
産婦人科	156	22	0.6	297	24	1.2	4		0.0	46	52	98	0.2
小児科	144	21	0.6	245	50	1.0				117	91	208	0.5
眼 科	28	2	0.1	31		0.1				6	2	8	0.0
耳鼻咽喉科	819	24	3.4	401	67	1.7				126	177	303	0.5
形成外科	30	2	0.1	38		0.2				54	11	65	0.2
皮膚科	4	1	0.0	27	2	0.1				2		2	0.0
泌尿器科	1,318	110	5.4	397	23	1.6				99	281	380	0.4
放射線科	823	3	3.4	667	1	2.7	26		0.1	1,154	101	1,255	4.7
リハビリテーション科													
麻酔科	10	1	0.0	32	3	0.1				1	22	23	0.0
歯科口腔外科	366	15	1.5	15	1	0.1				99	179	278	0.4
病理診断科	1		0.0										
健診センター	2		0.0	182		0.7	41		0.2	46		46	0.2
合 計	11,587	1,553	47.7	5,116	441	21.1	357	5	1.5	3,167	2,004	5,171	13.0

リハビリテーション科の現況

1. スタッフ

医 長 三岡 智規（兼整形外科部長）
嘱託医師 中長 優子（平成 22. 6. 30 退職）、藪内 洋輔（平成 23. 3. 31 退職）
主幹理学療法士 武平 春雄
主幹理学療法士以下理学療法士 3 人

2. 診療内容

昨年までと同様、整形外科疾患を中心とする運動器リハビリテーションが診療の 80%を超える。減少傾向にはあったが脳梗塞に代表される脳血管リハビリテーションも実施している。また、肺炎、心不全、腎不全、糖尿病を起因とする廃用症候群や、癌患者の在宅に向けてのADL向上にも取り組んでいる。

3. 診療体制

中長優子医師から藪内洋輔医師に診察医師が交代した以外は、4名の理学療法士体制に変更はなかった。

4. 診療実績

人工膝関節置換術（TKA）や股関節全置換術（THA）、前十字靭帯損傷後の靭帯再腱術、高齢者に代表される大腿骨頸部骨折による検血的整復固定術後のリハビリテーションが診療の中心であるが、これら整形外科疾患に代表される運動器リハビリテーションにおいて当院では施設基準のⅠを取得していることから、月に1度算定可能なリハビリテーション総合評価料を漏れなく請求するようにしている。これにはリハビリテーション総合実施計画書を作成し、患者への説明、交付が義務付けられているが、カルテ記載を含め怠り無く行っている。また脳血管リハビリテーションも含め診断確定日から算定可能な30日上限の急性発症加算も請求している。更に自宅退院予定者には退院時リハビリテーション指導料を請求し、転院若しくは施設入所者へは診療情報提供書を作成している。

	運動器リハビリテーション（Ⅰ）		脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅲ）	
	人数	単位	人数	単位
平成 21 年度	4,326 人	11,147	1,307 人	2,045
平成 22 年度	3,556 人	10,367	1,101 人	1,627

5. 教育活動

本年度は畿央大学4回生の8週間実習1名、大阪電気通信大学4回生の8週間実習1名、同3回生の2週間実習1名、同2回生の1週間実習1名、合計4名の臨床実習を受け入れた。

麻酔科の現況

1. スタッフ

部長 小多田 英貴（兼集中治療部医長）
医長 蔵 昌宏、今宿 康彦
副医長 藪田 浩一、橋村 俊哉、稲森 雅幸、
嘱託医師 園部 奨太、福田 憲二

2. 診療内容

全科の麻酔を担当し、24時間麻酔科が常駐しICU管理、ペインクリニック外来を行っている。また、ICT、緩和ケアチームなどのチーム医療にも積極的に参加している。臨床研修医教育についても精力的に行っている。

3. 診療体制

- 1) 麻酔：手術の麻酔を毎日3－5列行っている。
- 2) 集中治療：ICU5床の管理を担当医主治医制で行っている。
日勤・夜勤帯通して24時間集中治療医が常駐している。
- 3) ペインクリニック外来：月曜日・水曜日・木曜日・金曜日に行っている。
- 4) 緩和ケアカンファレンスを週1回、緩和ラウンドを週1回担当している。
- 5) ICTラウンドを週1回行っている。
- 6) 術前診察は、毎日外来にて行っている。

4. 診療実績

全身麻酔件数	2,101件
脊椎麻酔件数	430件
ペインクリニック外来延べ患者数	4,128人
ICU患者数	1,494人

5. 教育活動

平成22年度は八尾市消防署の救急救命士3名、柏原・羽曳野・藤井寺消防署の救急救命士1名に対して、挿管実習を行った。

病理診断科の現況

1. スタッフ

部 長 竹田 雅司
応 援 医 師 真能 正幸、岩佐 葉子
主 任 技 師 政岡 佳久
主任技師以下技師3人

2. 診療内容

病理診断科では、病理専門医1名と技師4名が緊密な協力体制をとって手術・生検標本の病理組織診断と細胞診、病理解剖を行っている。さらに、国立病院機構 大阪医療センター・大阪市立大学医学部よりそれぞれ週1回、病理専門医の応援を得て、迅速・正確な病理診断・細胞診断ができるような体制を構築している。当院は大阪府がん診療拠点病院であり、癌か否かの病理診断が非常に大きなウエイトを占めている。有効ながん治療を行うために、良悪の判定のみならず、悪性度判断や治療に対する反応性予測の参考となるよう必要に応じて免疫組織化学染色や外注による遺伝子学的検索も行い、最終診断とともに臨床に対して付加的な情報提供を行っている。癌手術の現場においては、術中迅速組織診をおこない、およそ20分で術中病理検索が可能な体制をとっている。

また、診断困難症例については他院病理医のコンサルテーションや病理学会コンサルテーションシステムも活用している。細胞診についても、細胞検査士と細胞診専門医の両者の協力、および随時臨床医との検討も行い、できるだけ正確な情報を臨床に与えることができるように心掛けている。

通常の診療に加え、乳腺外科医、放射線診断医、超音波担当臨床検査技師、細胞検査士、薬剤師、臨床心理士などと共に乳腺カンファレンスを週1回、婦人科医、放射線診断医、細胞検査士と共に婦人科臨床・画像・病理についてのカンファレンスを月1回行っている。

3. 診療体制

病理組織診・術中迅速組織診・細胞診・病理解剖のいずれも月曜日から金曜日の毎日、受付を行い、対応している。生検組織診については、おおむね2-3日、手術標本については約3週間以内に最終診断ができるような体制をとっている。細胞診に関しては、およそ10日で結果報告をしている。また、専任病理医の不在時には大阪医療センターに依頼、テレパソロジーを用い術中迅速組織診の依頼に対応している。

4. 診療実績

	件数	標本枚数
病理組織診	5,064	19,053
術中迅速組織診(内数)	182	848
免疫組織染色	767	
細胞診	6,895	8,943
病理解剖	4	

病理診断件数は平成 21 年度に比較して、組織診件数、標本枚数、細胞診件数はいずれもほぼ同数で推移している。免疫組織染色件数は、病理診断において要求される内容の詳細化を反映して約 1.4 倍に増加している。病理解剖は 1 件減少している。

5. 教育活動

竹田は、大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の 3 回生に乳癌の病理についての講義を年 1 回行っている。

歯科口腔外科の現況

1. スタッフ

部長	浜口	裕弘
歯科医師	松岡	裕大（平成 23. 3. 31 退職）
嘱託医師	堀田	浩正（平成 22. 7. 31 退職）
歯科衛生士	平山	美環

2. 診療内容

歯科口腔外科では外来ならびに入院診療を行っている。診療は、歯肉の切開や骨の削除を必要とする埋伏歯の抜歯はもとより腫瘍や嚢胞・外傷・感染症をはじめとする顎口腔疾患の治療を行っている。また、心臓疾患などの基礎疾患を有する患者様の抜歯や歯科処置は院内各科との連携をとりながら行い、病院歯科として地域医療に貢献できるよう取り組んでいる。なお、当科での診療は、基本的には一般のかかりつけ歯科医院からの紹介により口腔外科を主体とした臨床を行っており、う蝕や歯周病・歯牙欠損による補綴などの一般歯科治療は入院患者のみを対象としている。

3. 診療体制

- 1) 入院診療：ベッド数は5床であり、手術は毎週金曜日に行っている。
- 2) 外来診療：午前診は初診、再診患者の診察を行い、午後診は外来手術を行っている。外来手術は埋伏歯抜歯が半数を占めている。その他、のう胞摘出術、腫瘍摘出術、インプラント植立術等も行っている。

4. 診療実績

外来初診患者数	1,797 人
入院患者数	143 人
紹介率	67.9%
外来手術件数	1,262 件
入院手術件数	143 件
全身麻酔症例	62 件

前年度に比較して初診患者数は1,700人台を4年連続で維持しており、入院患者数と紹介率・入院手術件数・全身麻酔手術件数は少し減少した。減少した件数に相当して外来手術件数が増加した。

入院ではベッド数は5床に対して、4.4で平均在院日数約10.4日で稼働していた。入院手術は例年の如く顎骨のう胞摘出術が多数を占めていた。その他、顎骨骨折、悪性腫瘍手術を行った。悪性腫瘍手術は腫瘍の切除だけでなく、遊離皮弁などを使用した口腔再建も含めた治療を行っているが今年度も腹直筋皮弁皮弁による再建は1例のみであった。今年度は顎変形症の手術は1例行った。

代表的な入院手術件数

のう胞摘出術	48
術後性上顎のう胞摘出術	3
消炎術（含：腐骨除去）	9
抜歯術	29
骨折手術	7
顎下腺摘出術（含む唾石）	1
顎変形症手術	1
上顎癌手術	1
下顎歯肉癌手術	5
舌癌手術	8
その他の口腔癌	4
遊離皮弁再建	1
全頸部郭清術	5
気管切開術	0

代表的な外来手術件数

歯根のう胞摘出術	34
歯根端切除術	21
口腔内消炎手術	43
口唇粘液のう胞摘出術	17
創傷処理口腔内外縫合術	21
埋伏歯抜歯術	624
難抜歯術	335
インプラント植立術	0

外来では埋伏歯抜歯が手術件数の半数以上を占め、ついで難抜歯術・のう胞摘出術・歯根端切除術など歯牙関連疾患の手術がほとんどで、これは例年の傾向と同様であった。

5. 教育活動

本年度も引き続き大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修プログラムA（複合型）に参加し歯科研修医を受け入れている。さらに行岡学園、大阪歯科学院専門学校の歯科衛生士の実習を受け入れている。

中央手術部の現況

1. スタッフ

部長 上水流 雅人（兼泌尿器科医長）
看護師長 山中 トモエ
看護師長以下看護師 21 人、看護助手 1 人

2. 活動状況

平成 22 年度は、前年に比べ手術件数、特に腹腔鏡手術が増加している。昨年から引き続きスタッフ不足はあるものの麻酔科医師増員に伴い、ほぼ毎日 5 列で手術が行えるようスタッフが対応している。また全麻患者に対する術前後の病棟訪問も従来通り継続しており、術中のみならず、周術期の身体的および精神的ケアに寄与している。手術部看護師はこれまで同様、患者・部位・術式を術前に担当医と厳重に確認し、ミス予防を図っている。手術認定看護師取得のため看護師を研修に派遣し、技術の向上をめざしている。

以上、患者にとって心地よく、より安全な手術が行えるよう、スタッフ一同、日々、努力している。

3. 診療実績

手術件数の推移

平成 20 年度	3,161
平成 21 年度	3,344
平成 22 年度	3,610

手術件数及び麻酔項目

手術件数	3,610
全身麻酔	2,101
脊髄麻酔	430

救急診療科の現況

1. スタッフ

部 長 福島 幸男
主任看護師 松川 麻由美
主任看護師以下看護師 2人

2. 診療内容

院外告示としては内科、外科のままであるが、形成外科の切断指再接合は 24 時間の受け入れ可として中河内地区以外からも救急搬送されている。

平日の日勤時間帯は診療全科の受け入れも原則としているが、当院かかりつけ患者は 24 時間の受け入れ要請に応じている。

このように、当科の責務は初診の救急搬送患者、直来患者への対応だけでなく、当院全科のかかりつけ患者の急変、或いは時間外診療への対応にも比重が大きい。また、他院からの救急車での転院の際の受け入れ業務も当科で行っている。

院内全科の共同利用施設、全科へのサービス部門と考えている。

3. 診療体制

平日日勤：当番医 1 名が 2～3 名の看護師とともに外来に常駐し診察、治療に当たる。

専門医の診療が必要と判断された場合は 2 階の各科外来に搬送するか、救急外来への応援を依頼する。入院の際は各科担当医に連絡の上、病棟の手配を行う。

時間外（当直、日直）：当番医 2 名、看護師 3 名で対応している。担当医師は自分の専門分野だけでなく‘救急医’として診療に当たっている。

昨年に引き続き、八尾市救急隊からの要請の多い、整形疾患に関しては、月曜当直、日曜日直時間帯に整形外科医の協力で受け入れ可としている。

緊急手術、緊急内視鏡検査、心臓カテーテルなどを必要とする症例も多く、全科の緊急連絡網を救急外来に配置している。

4. 教育活動

前期研修医は交替で救急当直に入り、上級医の指導下に診察、治療の経験を積んでいる。

2 年で common disease の診断、治療ができることを目標としている。また、若手医師対象に毎週金曜日早朝に救急カンファレンスを行っている。更に、院内上級医の参加も呼びかけていきたい。

化学療法科の現況

1. スタッフ

部長 烏野 隆博（兼通院治療センター医長）
副医長 古武 剛

2. 診療内容

平成 21 年 6 月各診療科と横断的に、チーム医療として抗がん剤治療を行っていく診療科として化学療法科が開設された。今年 22 年度からスタッフが 2 名となったため、全病院的役割として通院治療センター業務を行い、院内診療科として外来・入院診療（抗がん剤治療・緩和治療）を行っている。

- 1) 通院治療センターでの業務：抗がん剤による化学療法は、そのほとんどが外来で行われるようになってきており通院治療センターの果たす役割が大きくなってきている。抗がん剤与薬におけるエラーの防止、抗がん剤の副作用対策を適切に行うなど、外来化学療法を施行する上での安全性の担保や快適性の確保を主たる目標としているが、抗がん剤治療を行う“場の提供”から病院機能の中の一つの大きな部門として“医療の提供”を推し進め、全病院的に有効かつ安全ながん化学療法を施行している。
- 2) 外来・入院診療：自科の患者だけではなく、臓器横断的に術後化学療法や再発・進行期における抗がん剤治療を行っている。地域連携症例だけでなく、がん難民といわれている肉腫に対する化学療法を全国レベルで展開している。主な疾患としては、大腸がん、乳がん、悪性リンパ腫、平滑筋肉腫などである。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前診は、火曜日、木曜日に、午後診は木曜日に行っている。
- 2) 入院診療：割り当てベッド数は 15 床で始まり、9 月からは 20 床となった。

4. 診療実績

- 1) 外来診療：外来化学療法を行った患者数はのべ 411 例であった。
- 2) 入院診療：平成 22 年度の新規入院患者（化学療法対象）数は 84 例で、主な内訳は肉腫 25 例、悪性リンパ腫 22 例、肺がん 7 例、乳がん 6 例、大腸がん 5 例、急性白血病など 7 例であった。述べ入院患者数は 115 件であった。

5. 教育活動

臨床研修医 2 名が各 2 ヶ月間、化学療法科で研修を行った。

中央検査部の現況

1. スタッフ

部長 服部 英喜（兼内科医長）

技師長 寺田 勝彦

技師長以下臨床検査技師 21 人（市職員 9 人、市嘱託職員 4 人、PFI 協力企業職員 8 人）

2. 診療内容

検体検査系の、生化学・免疫・血液・輸血・一般検査を院内委託し、24 時間体制で実施している。院内で実施する基本項目は、迅速 30 分検査対応とし、スピーディーな診療の一翼を担っている。また細菌検査、生理検査は市職員で担当している。市職員、委託職員を問わず中央検査部一同、患者に無用な時間待ちがなく、診療側にとっては円滑で効率よく、診断、治療ができる、スピーディーで高質の情報提供を行えるよう日々努力している。

◆生理検査

心電図検査	電気的な面から心臓の動きを見る検査
負荷心電図検査	心臓に負担をかけて行う検査で、狭心症の診断や心臓に病気のある方の運動能力の評価を行うことを目的に実施する検査。方法としては、階段を昇り降りするマスター 2 段階法とベルトコンベアーの上を歩くトレッドミル法がある。
ホルター心電図検査	不整脈や狭心症の診断を目的として、記録計を約 1 日装着して検査をする。
脳波検査	電気的な面から脳の機能評価を行う検査

◆超音波検査

現在、超音波検査室では医師と共に 5 名のソノグラファーで検査を行っている。（超音波検査士 5 名、血管診療技師 2 名）超音波診断装置は 4 台で稼働している。エコー検査は予約制であるが、外来の緊急検査には柔軟に対応している。院内研究では医師・技師対象のエコー検査指導を随時行い、病院全体のスキルアップに精進している。また、病診連携では院外のエコー検査を随時受け入れを行っている。中河内地区におけるエコー勉強会も積極的に開催し、周囲の開業医の先生方や主要病院の先生方とも交友を深めている。

◆細菌検査

細菌検査室では塗抹検査、培養・同定検査、薬剤感受性検査による日常業務に加え、院内感染防止対策、医療従事者の健康と安全に対する教育、院内の耐性菌の実態把握など感染にかかわる種々の集積されたデータを解析し、情報提供をして、診療科や看護部など各部署と協力し院内感染の防止に積極的に貢献している。

3. 教育活動

細菌検査室では、毎年 4 月、看護師の新規採用者に対して「院内感染対策及び手指の衛生的管理」について講義している。また不定期だが、中途採用者・キャリアアップ研修についても院内感染関連の同様な講義をしている。臨床研修医オリエンテーションにおいても院内感染対策の重要性を講義している。

◆細菌検査

(単位：件)

	22年																23年						22年度合計		
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			3月	
	入院	外来		入院	外来																				
一般細菌塗抹	177	64	148	56	105	68	111	60	162	58	136	68	155	59	155	58	207	62	159	60	135	44	139	49	2,495
呼吸器系培養	126	22	112	20	89	26	100	34	108	12	86	19	90	16	135	20	124	23	122	22	98	17	105	20	1,545
消化器系培養	45	36	29	43	27	27	29	28	49	45	30	39	46	18	33	24	36	27	27	22	27	21	39	35	782
泌尿・生殖器系培養	25	119	25	113	27	126	32	111	30	119	25	115	40	114	35	101	44	86	46	106	43	91	44	103	1,720
血液・穿刺液系培養	91	14	52	17	62	19	55	7	66	12	79	12	69	8	88	10	104	16	109	14	88	9	87	4	1,092
(上記内血液培養件数)	77	9	50	8	47	10	45	5	55	5	68	9	65	4	78	8	84	13	103	12	76	6	92	3	932
その他の材料の培養	42	69	52	55	35	74	42	72	49	60	35	73	52	81	36	62	51	60	32	73	38	52	50	62	1,307
一般細菌嫌気培養	92	27	64	35	77	26	69	35	90	31	85	46	80	22	111	29	136	33	129	38	94	21	108	31	1,509
培養検査総件数	421	287	334	283	317	298	327	287	392	279	340	304	377	259	438	246	495	245	465	275	388	211	432	255	7,955
一般細菌感受性検査	269	157	215	162	201	165	197	167	250	160	221	168	246	157	269	140	306	140	263	141	219	113	245	144	4,715
感受性1菌種	92	63	79	48	80	49	101	60	102	60	62	58	91	54	86	51	115	56	118	62	86	32	105	46	1,756
感受性2菌種	27	11	33	7	18	8	25	11	32	15	27	15	36	10	36	15	33	10	26	5	33	8	25	6	472
感受性3菌種以上	3	2	0	0	3	4	1	2	6	3	6	2	6	5	5	0	7	4	1	1	5	2	1	1	70

	入院	外来	合計																						
抗酸菌塗抹	8	14	6	17	19	22	10	18	15	15	7	13	5	24	7	30	7	18	11	19	7	21	6	17	336
結核菌群PCR	6	7	6	12	18	13	9	9	9	8	6	2	4	8	6	14	5	10	5	9	4	7	3	6	186
抗酸菌PCR	6	4	5	12	10	8	6	8	4	7	4	2	4	7	4	8	2	8	4	8	4	6	0	7	138
抗酸菌液体培養	0	6	0	9	2	11	2	7	2	9	2	9	0	9	0	16	6	7	0	7	0	9	1	6	120
抗酸菌固体培養	8	9	4	7	18	12	8	10	8	8	4	4	5	10	6	10	0	9	9	12	6	11	5	10	193
抗酸菌同定培養	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
抗酸菌感受性培養	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

◆生理検査

(単位：件)

	22年																23年						22年度合計			
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			3月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来		入院	外来	
心電図	安静時	58	562	46	462	51	678	46	542	67	527	45	493	64	578	40	588	47	515	37	523	56	537	41	632	7,235
	リズム	1	26	1	27	5	36	3	20	3	23	2	15	1	19	5	1	2	22	1	18	1	23	3	28	286
	CVRP	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	3	5	2	26	0	0	0	0	0	0	0	1	46
負荷心電図	1	20	2	16	0	73	1	34	2	20	1	18	2	36	2	23	2	18	1	21	0	23	0	29	345	
ホルター心電図	0	47	0	34	3	55	0	38	0	27	1	25	1	53	0	42	1	24	3	22	3	26	3	34	442	
負荷心機能	トレッドミル	1	20	0	18	0	23	1	23	1	22	2	21	0	26	1	19	2	17	0	20	0	19	8	25	269
血圧脈波	4	31	2	35	4	26	3	24	3	32	2	38	8	27	8	41	1	36	2	19	2	22	3	25	398	
呼吸機能	8	214	8	146	11	230	3	199	12	211	11	193	17	201	14	191	12	184	9	161	12	160	7	181	2,395	
心臓・血管エコー	心臓エコー	19	75	21	64	18	101	17	100	11	80	19	58	19	81	17	78	18	98	17	76	10	85	18	90	1,190
	心臓エコー(S)	13	66	14	66	8	80	6	70	10	72	11	62	12	60	15	65	0	21	4	3	6	12	1	9	686
	心臓エコー(小児)	6	23	10	19	22	42	18	40	9	40	9	29	13	25	2	35	12	26	24	19	13	29	8	45	518
	頸部血管エコー	3	32	1	32	2	26	2	30	2	56	3	54	8	46	11	49	7	39	5	29	2	36	3	38	516
	深部静脈エコー	2	13	2	8	2	16	2	8	5	16	2	7	2	8	8	7	6	4	2	10	1	7	3	8	149
	下肢動脈エコー	1	5	0	3	1	5	0	9	2	2	2	5	1	1	0	2	0	6	1	3	3	5	1	10	68
	腎・腹部血管エコー	2	6	0	6	0	10	0	6	0	4	0	2	2	4	3	4	1	4	0	10	0	3	2	4	73
	経食管エコー	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	2	0	1	0	12
脳ドック頸動脈エコー	0	11	0	8	0	13	0	7	0	11	0	8	0	9	0	2	0	6	0	1	0	2	0	3	81	
腹部エコー	内科	37	332	25	288	37	348	36	340	30	319	35	292	41	328	43	341	23	310	20	251	13	268	40	326	4,123
	外科	0	2	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2	3	17
	消化器内科	7	0	4	0	4	0	3	0	4	0	2	0	0	0	6	0	5	0	2	1	4	0	1	0	43
	小児科	0	2	1	3	0	2	1	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	18
	甲状腺エコー	2	21	3	18	0	35	4	24	1	27	1	21	2	23	1	19	5	31	1	24	1	34	2	36	336
	頸部エコー	0	17	0	12	0	18	1	12	1	19	0	11	0	10	1	11	0	10	0	6	0	11	0	10	150
	乳腺エコー	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	9
	乳腺エコー検診	0	9	0	2	0	3	0	11	0	12	0	10	0	15	0	15	0	12	0	14	0	9	0	14	126
脳波	5	29	3	13	5	18	3	42	2	53	4	31	3	23	4	18	3	22	10	24	7	18	5	37	382	
筋電図	神経伝導測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

内視鏡センターの現況

1. スタッフ

医 長 福井 弘幸 (兼消化器内科部長)、岩永 佳久 (平成 22. 9. 30 退職)
主任看護師 蛭田 澄枝
主任看護師以下看護師 4 人

2. 診療内容

- 1) 上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、小腸ダブルバルーン内視鏡検査
⇒うちNBI拡大内視鏡検査、経鼻内視鏡検査(上部消化管)も適宜施行。
 - 2) 内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)、超音波内視鏡検査(EUS・IDUS)
 - 3) 粘膜下腫瘍、膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診検査(EUS-FNA)
 - 4) 吐血時などの緊急内視鏡検査、引き続きに行う内視鏡的止血術
⇒hot biopsyや薬物注入による止血、アルゴンレーザーによる止血(APC)
 - 5) 早期胃癌などに対する、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
 - 6) 胃、大腸腫瘍に対する、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、ポリープ切除術(polypectomy)
 - 7) 静脈瘤に対する、内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)、内視鏡的硬化療法(EIS)
 - 8) 総胆管結石に対する、内視鏡的乳頭切開術(EST)、内視鏡的乳頭拡張術(EPBD)
 - 9) 胆、膵など悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する、内視鏡的胆道ドレナージ(EBD)
 - 10) 誤嚥、胃内圧改善のための、胃瘻造設術(PEG)
 - 11) 異物誤飲に対する、内視鏡的異物除去術
 - 12) 経鼻内視鏡を使用したイレウス管挿入
 - 13) 食道アカラシアや術後狭窄に対する、内視鏡的消化管拡張術
 - 14) 気管支鏡検査
- など主に内視鏡を使用し行う検査、治療全般。

また他に以下のような超音波を使用した処置も行っている。

- ・PTCD(経皮的胆道ドレナージ)
- ・PTAD(経皮的肝膿瘍ドレナージ)
- ・肝嚢胞穿刺

3. 診療体制

主に月曜日から金曜日の午前を主に検査、午後より治療がメインの処置を行っている。また夜間緊急内視鏡も適宜行っている。

4. 診療実績

検査件数

上部消化管内視鏡	3,246
下部消化管内視鏡	1,641
超音波内視鏡	27
気管支鏡検査	2
E S D	38
E R C P、E S T、E P B D	153
E I S、E V L	35
P E G	15

5. 教育活動

臨床研修医向けの勉強会を行った。上部・下部内視鏡トレーニングモデルを用いている。

健診センターの現況

1. スタッフ

部 長 山本 俊明
看 護 師 1人

2. 診療内容

健診を主な業務として

- 1) 特定健診、大腸がん検診、乳がん検診
- 2) 企業健診、就職・受験時健診、海外渡航時などの検診
- 3) 公害検診、被爆者検診
- 4) 人間ドック、脳ドック
- 5) 予防接種（インフルエンザ）

特定健診は平成20年4月より始まり、受診者数は年々増加の傾向にある。

その他の健診件数は前年度と変わりはない。

人間ドックの受診希望者は年々多くなっており、これ以上受け入れは困難な状態となってきた。また、今年度から要望の強かった脳ドックを週1回開始している。

3. 診療体制

月曜日から金曜日の午前中に特定健診・一般健診、午後に予約検診・予防接種を行っている。

週2回（月曜日・水曜日）半日人間ドック、週1回（火曜日）脳ドックを行っている。

4. 診療実績

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
特 定 健 診	11	65	56	50	30	51	68	74	57	48	65	120	695
一 般 健 診	35	34	41	46	41	23	54	58	28	38	48	91	537
人 間 ド ッ ク	38	34	51	41	40	45	68	59	58	35	44	46	545
脳 ド ッ ク	12	9	13	11	15	9	14	10	23	6	17	15	154
乳 癌 検 診	90	78	52	94	93	103	122	90	105	100	82	112	1,121
子 宮 癌 検 診	50	40	52	66	50	35	40	67	53	63	92	111	719
公 害 検 診	71	36	70	45	56	42	40	46	36	31	35	47	555
大 腸 癌 検 診	5	9	11	5	3	10	9	15	3	4	6	3	83
企 業 検 診	10	4	31	15	1	0	2	10	23	0	1	4	101
被 爆 者 検 診	0	75	0	0	0	0	77	0	0	0	0	0	152
被 爆 者 2 世 検 診	0	0	0	0	0	0	10	1	47	3	0	0	61
新インフルエンザ	4	1	1	1	0	0	73	860	147	11	9	1	1,108
職員ツベルクリン	0	0	0	0	0	0	0	61	44	0	0	0	105
職員B肝検診	0	0	37	33	4	0	0	0	0	34	0	0	108
月 計	326	385	415	407	333	318	553	1,360	578	417	402	550	6,044

通院治療センターの現況

1. スタッフ

医 長 烏野 隆博（兼化学療法科部長）

通院治療センターは化学療法ブースと採血ブースに分かれている。それぞれに業務分担がなされており、採血ブースでは外来患者の採血業務、化学療法ブースでは、外来化学療法を行っている。化学療法ブースには5名、専任の看護師が配置されており、化学療法科あるいは外科、消化器内科の医師が常駐して各科横断的に外来での抗がん剤治療を行っている。

2. 診療内容

抗がん剤による化学療法は、そのほとんどが外来で行われるようになってきており通院治療センターの果たす役割が大きくなってきている。今年度から化学療法に加えて、骨転移治療薬や泌尿器科・乳腺外科で行っていたホルモン療法も通院治療センターで行うこととなった。外来で施行する上での安全性の担保や快適性の確保を主たる目標としているが、更に外来化学療法が患者参加型治療となるために外来治療開始前に積極的にオリエンテーションを行うなど、患者のセルフケア能力の向上を目的とした患者教育にも力を入れている。この点に関して薬剤師にも参入してもらっており、看護師・薬剤師からのきめ細かい指導が患者に安心感を与えている。

3. 診療実績

平成19年度：1,578人、平成20年度：2,491人、平成21年度：2,988人の化学療法を行ったが、平成22年度は3,176人とその数は増加し、更に1,176人のホルモン療法を施行した。化学療法施行診療科の内訳は乳腺外科：36.4%、消化器外科：31.3%、化学療法科：12.9%、泌尿器科：12.4%、内科：6.5%、婦人科：0.5%であった。

◆診療科別 延べ人数

(単位：人)

	22年									23年			年度計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
乳 腺 外 科	102	92	101	90	107	97	96	104	98	81	93	94	1,155
消 化 器 外 科	107	89	97	85	101	90	83	76	79	61	60	65	993
泌 尿 器 科	26	22	31	37	32	37	35	35	26	34	37	43	395
内 科	18	17	12	13	14	13	20	23	18	16	19	23	206
化学療法科	24	20	29	29	38	34	37	32	30	34	42	62	411
婦 人 科	2	2	0	0	0	0	0	0	3	9	0	0	16
計	279	242	270	254	292	271	271	270	254	235	251	287	3,176
ホルモン療法	87	88	98	95	106	100	92	106	104	95	101	104	1,176
計	366	330	368	349	398	371	363	376	358	330	352	391	4,352

4. 今後の課題

悪性腫瘍に対する集学的治療の一環として化学療法はその重要性が増してきている。しかも抗がん剤の種類や副作用も多様化してきており、慎重でよりきめ細かな対応を行う必要がある。今後、外来化学療法の充実を目的に行った患者アンケート調査をもとにソフト・ハードの両面からの改良を検討していきたい。また、患者教育の一環としてオリエンテーションの拡充を図っていきたい。

がん相談支援センターの現況

1. スタッフ

センター長	佐々木 洋
看護師長	小西 睦 (平成 23. 3. 31 退職)
医療ソーシャルワーカー	井谷 裕香
臨床心理士	長井 直子

2. 業務内容

がんに関する病状、治療、薬剤、看護、介護、食事、検診、医療費、精神的不安などのあらゆる疑問や悩み事、心配事に対する相談窓口として、平成 19 年 2 月より活動を開始している。対象者は当院受診の有無を問わず、がん患者、家族、知人、医療関係者など様々な方から相談を受けている。

3. 業務体制

1) 相談業務

相談については予約制になっており、電話または直接来院で受け付けている。まず医療ソーシャルワーカー・臨床心理士等の支援相談員が受け、相談内容を確認。必要に応じて院内の各専門スタッフ（各種専門相談員）と連携をとり、相談にあたっている。相談費用は無料。セカンドオピニオン、外来患者の継続的な心理カウンセリングは有料となっている。

院内の緩和ケアチームにも参加し、各専門職種として相談業務を行っている。

2) 情報提供・啓蒙活動

- ・がん相談支援センターの窓口の前に、各がんについて等の小冊子の設置。医療講演の情報などの掲示。がんをテーマにした過去の市民講座DVDの貸し出し。
- ・1階図書コーナーに「がん相談支援センターインフォメーションコーナー」を設け、がんに関する書籍などを設置。貸し出しも行っている。
- ・がん患者さんやご家族などを対象とした「がん相談支援センターミニ勉強会」の開催。
第3回『緩和ケアってなんだろう』（8月） 第4回『在宅ケアについて』（12月）
- ・開院 60 周年記念講演会 市民向け特設コーナー『相談してみよう「がん」のこと』
乳がん自己触診モデルを使った体験コーナー、便でみる早期発見方法の紹介、各がんの冊子配布、がんに関する相談コーナーを設けた。

3) 広報活動

多くの方にごがん相談支援センターを知っていただき利用いただけるよう、以下の媒体を利用しながら広報活動を行った。

- ・地域医療連携室発行の地域だより：やさしい笑顔（平成23年3月号）
- ・八尾市発行の市政だより（平成22年4、5、10月号 平成23年1月号）
- ・がん相談支援センターインフォメーション（がん相談支援センター広報誌）VOL.4
- ・ぱど「医療機関情報誌 ご近所ドクターBOOK」

4) 大阪府がん診療拠点病院としての役割

- ・各部会（大阪府がん診療連携協議会 相談支援部会、がん診療情報のあり方検討部会、地域連携パス部会）へ参加。

相談支援部会ワーキンググループにて「がん患者のための地域の療養情報：大阪府版」を作成。

- ・国立がんセンター相談員研修（拠点病院の指定要件）：支援相談員2名修了。

地域の相談、情報提供の場としての役割を担っている。

- ・がん地域連携クリティカルパスへの取り組み

来年度の開始に向けて、院内にてパスの整備。普及活動として、地域の開業医の方々を対象に説明会を3回開催。

4. 相談件数

◆入院・外来別件数

（単位：件）

	入院	外来	その他	計
4月	80	24	14	118
5月	67	16	13	96
6月	76	35	8	119
7月	61	30	12	103
8月	66	20	13	99
9月	74	20	10	104
10月	73	24	11	108
11月	82	24	6	112
12月	96	14	10	120
1月	82	13	13	108
2月	85	18	16	119
3月	61	28	16	105
合計	903	266	142	1311
平均	75.2	22.1	11.8	109.2

◆新規件数

（単位：件）

	新規
4月	55
5月	43
6月	57
7月	48
8月	54
9月	48
10月	53
11月	42
12月	41
1月	41
2月	50
3月	52
合計	584
平均	48.6

MEセンターの現況

1. スタッフ

センター長 足立 孝好 (兼循環器科部長)
 臨床工学技士 長山 俊明
 PFI協力企業職員 4人

2. 業務内容

- 1) 臨床部門：高度な医療技術の進歩に伴い、ME機器の複雑多様化が進む中、それらの操作及び保守点検を行う。臨床での医師をはじめとした、スタッフと医療機器を、円滑に結びつける医療工学の境界面を、簡便でより安全性の高いものにする。
- 2) 機器管理部門：医療機器の中央管理体制をとり、機器の効率的利用と同時に、保守点検・整備・管理業務を担う事で、必要な時に・必要な機器を・必要な部門に、高い安全性をもって供給し、医療機器のライフサイクルコスト・デッドタイムの短縮を図る。

3. 業務体制

- 1) 臨床部門：臨床工学技士1名にて、主に集中治療室、透析室、手術室、心臓カテーテル検査で業務を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。
- 2) 機器管理部門：主に、SPC協力企業職員（臨床工学技士3名、業務スタッフ1名）にて管理、運営を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。

4. 業務実績

◆平成22年度 機器修理件数集計

部署	外注修理	ME修理	総計	部署	外注修理	ME修理	総計
5階西	32	151	183	中央手術部	121	274	395
5階東	14	117	131	MEセンター	13	25	38
6階西	9	122	131	外 来	185	513	698
6階東	22	117	139	中央検査部	74	39	113
7階西	14	159	173	内視鏡センター	40	38	78
7階東	24	150	174	放射線科	312	59	371
8階西	20	91	111	薬 剤 部	117	28	145
8階東	7	181	188	そ の 他	12	58	70
I C U	21	75	96	総 計	1,054	2,288	3,342
N I C U	17	91	108				

◆人工呼吸器

	患者数	件数		患者数	件数
5階西	0	0	8階西	7	109
5階東	11	49	8階東	6	15
6階西	7	110	I C U	125	921
6階東	2	24	N I C U	12	35
7階西	16	284	救急外来	15	15
7階東	5	118			

◆ペースメーカー

フォローアップ件数	207
新規埋め込込件数	7
電池交換件数	9

◆補助循環

	患者数	件数
I A B P	8	25
P C P S	1	2

◆カテーテル検査

心カテ件数	141	上肢造影件数	1
P C I 件数	66	上肢PTA件数	1
A C S 件数	39	下肢造影件数	26
I V U S 件数	55	下肢PTA件数	7
E P S 件数	0	腎造影件数	7
A B L 件数	3	腎PTA件数	3
		I V C フィルタ件数	5

◆血液浄化

	患者数	件数
H D	46	305
C H D F	1	3
P E	1	4
D H P	6	11
S P P	0	0
P B S C T	1	2
L C A P	1	7
G C A P	1	7
C A R T	2	6

◆平成 22 年度 機器貸出件数集計

	シリンジポンプ	輸液ポンプ	ベッドサイドモニター	自己血回収装置	支柱台	人工呼吸器	低圧持続吸引器	他	総 計
5 階 西	3	26		1			2		32
5 階 東	18	11				9	9	1	48
6 階 西	18	38			1				57
6 階 東	5	31				1	1		38
7 階 西	9	30	3		3	13	1	1	60
7 階 東	9	15	2		1	3	3		33
8 階 西	7	21				7	33		68
8 階 東	32	7	35		3	10	20		107
I C U	39	21			2	121	13	1	197
N I C U	5					34	1		40
放 射 線	2	2	2		1				7
外 来	3	3	1	140	2	24	2		175
手 術 室	13	2					6		21
合 計	163	207	43	141	13	222	91	3	883

◆平成 22 年度 機器定期点検件数集計（日常点検は除く）

機 種 名	部 署	点検件数	点 検 者	機 種 名	部 署	点検件数	点 検 者
麻 酔 器	中央手術室	12	ME	移 動 型 X 線 撮 影 装 置	放 射 線 科	4	メーカー
人 工 呼 吸 器	各 部 署	32	ME・メーカー	C R シ ス テ ム 一 式 (富 士 ・ コ コ カ)	放 射 線 科	2	メーカー
体 外 式 ペ ー ス メーカー	ア ン ギ オ 室	4	ME	全 身 骨 密 度 測 定 装 置	放 射 線 科	1	メーカー
P C P S	ア ン ギ オ 室	3	ME	基 準 線 量 計	放 射 線 科	2	メーカー
I A B P	ア ン ギ オ 室	3	ME	結 石 破 砕 装 置	放 射 線 科	1	メーカー
保 育 器	5 西・6 西・NICU	20	ME	調 剤 支 援 シ ス テ ム (薬 袋 プ リ ン タ)	薬 剤 部	2	メーカー
イ ン フ ァ ン ト ウ ォ ー マ ー	5 西・NICU・手術室	6	ME	調 剤 支 援 シ ス テ ム (錠 剤 分 包 機)	薬 剤 部	2	メーカー
搬 送 用 保 育 器	5 西・NICU	4	ME	調 剤 支 援 シ ス テ ム (散 薬 分 包 機)	薬 剤 部	2	メーカー
エ コ ー	各 部 署	22	ME	調 剤 支 援 シ ス テ ム (サ ー バ)	薬 剤 部	1	ME
除 細 動 器	各 部 署	20	ME	注 射 薬 自 動 支 払 い シ ス テ ム (機 器)	薬 剤 部	1	メーカー
心 電 計	各 部 署	13	ME	注 射 薬 自 動 支 払 い シ ス テ ム (サ ー バ)	薬 剤 部	2	ME
セ ン ト ラ ル モ ニ タ ー	各 部 署	19	ME	薬 液 滅 菌 装 置	薬 剤 部	1	メーカー
ベ ッ ト サ イ ド モ ニ タ ー	各 部 署	38	ME	製 剤 系 機 器 一 式	薬 剤 部	1	メーカー
分 娩 胎 児 集 中 監 視 装 置	5 西	6	ME	自 動 血 液 ガ ス 分 析 装 置	N I C U	2	メーカー
光 源 装 置	各 部 署	23	ME	畜 尿 装 置	各 部 署	8	ME
電 気 メ ス	各 部 署	26	ME	輸 血 シ ス テ ム (サ ー バ)	検 査 科	2	ME
輸 液 ポ ン プ	各 部 署	83	ME	臨 床 ・ 細 菌 検 査 シ ス テ ム (サ ー バ)	検 査 科	1	ME
シ リ ン ジ ポ ン プ	各 部 署	96	ME	心 電 図 フ ァ イ リ ン グ シ ス テ ム (サ ー バ)	検 査 科	1	ME
無 菌 操 作 用 装 置	7 西	3	ME	生 体 情 報 モ ニ タ リ ン グ シ ス テ ム (サ ー バ)	ICU・NICU・手術室	1	ME
人 工 透 析 装 置	7 東・ICU	6	ME	血 管 造 影 画 像 フ ァ イ リ ン グ シ ス テ ム (サ ー バ)	放 射 線 科	1	ME
R O 水 製 造 装 置	7 東・ICU・薬剤	3	ME	3 D 画 像 ワ ー ク ス テ ー シ ョ ン (サ ー バ)	放 射 線 科	1	ME
自 動 精 算 機	医 事 課	8	ME	内 視 鏡 超 音 波 画 像 フ ァ イ リ ン グ シ ス テ ム (サ ー バ)	検 査 科	1	ME
自 動 再 来 受 付 シ ス テ ム	医 事 課	6	ME	心 エ コ ー 画 像 フ ァ イ リ ン グ シ ス テ ム (サ ー バ)	検 査 科	1	ME
リ ラ イ ト カ ー ド リ ー ダ イ タ	医 事 課	16	ME	眼 科 用 フ ァ イ リ ン グ シ ス テ ム (サ ー バ)	眼 科 外 来	1	ME
診 察 券 発 行 機	医 事 課・救急外来	6	ME	分 娩 胎 児 集 中 監 視 操 作 装 置 (サ ー バ)	5 西	1	ME
リ ニ ア ッ ク	放 射 線 科	2	メーカー	病 理 細 胞 診 査 業 務 支 援 シ ス テ ム (サ ー バ)	病 理 検 査	1	ME
C T	放 射 線 科	3	メーカー	P A C S	放 射 線 科	2	メーカー
位 置 決 め C T	放 射 線 科	2	メーカー	松 葉 杖 一 式	外 来	4	ME
位 置 決 め 装 置	放 射 線 科	2	メーカー	ホ ー タ ブ ル 血 液 分 析 装 置	I C U	4	メーカー
R I	放 射 線 科	3	メーカー	安 全 キ ャ ビ ネ ッ ト	検 査 科	1	メーカー
M R I	放 射 線 科	4	メーカー	超 音 波 白 内 障 手 術 装 置	手 術 室	1	メーカー
マ ン モ グ ラ フ ィ ー 装 置	放 射 線 科	2	メーカー	歯 科 パ ノ ラ マ 撮 影 装 置	歯 科 外 来	1	メーカー
ア ン ギ オ 撮 影 装 置	放 射 線 科	3	メーカー	放 射 線 パ ノ ラ マ 撮 影 装 置	放 射 線 科	1	メーカー
上 部 消 化 管 X 線 テ レ ビ 装 置	放 射 線 科	1	メーカー	ホ ル マ リ ン 消 毒 装 置	メ デ ィ エ ー ト	1	メーカー
下 部 消 化 管 X 線 テ レ ビ 装 置	放 射 線 科	1	メーカー	聴 覚 検 査 シ ス テ ム	リ オ ン	1	ME
内 視 鏡 用 X 線 テ レ ビ 装 置	放 射 線 科	1	メーカー	分 注 器	安 西 メ テ ィ カ ル	1	メーカー
一 般 撮 影 装 置	放 射 線 科	3	メーカー	総 計		566	

栄養科の現況

1. スタッフ

係長 黒田 昇平（管理栄養士）

係長以下管理栄養士 2 人、調理師 6 人、P F I 協力企業職員 33 人

2. 業務内容

1) 病院給食業務

治療の一環として食事をとらせ、食事を通して疾病の改善に努めることを目標に食事提供を実施している。適時適温給食の実施、選択食の実施、行事食の導入により、美味しく食事をして頂く為の努力をしている。

2) 栄養指導業務

個々の疾病と生活習慣に合わせた食生活改善を目的とした個人栄養指導と「糖尿病食事療法のための食品交換表」をもとに、統一した内容による食事療法の基本を理解することを目的とした集団栄養指導を実施している。

3) 栄養管理業務

栄養管理計画書の作成と N S T（栄養サポートチーム）委員会への参加により、入院中の栄養管理を行っている。チーム医療の一環として多職種による栄養管理が行われているなかで、食事など管理栄養士が担うべき側面から栄養管理活動を実施している。

3. 業務体制

個人栄養指導に関しては、火曜日から金曜日の 9 時～・9 時 45 分～・10 時 30 分～の 3 枠と、火曜日・第 1 水曜日・第 3 水曜日・第 5 水曜日の 13 時～・13 時 45 分～・14 時 30 分～の 3 枠の栄養指導予約枠を設けている。

集団栄養指導に関しては、第 1 金曜日・第 2 木曜日・第 3 金曜日・第 4 木曜日・第 5 木曜日の 13 時 30 分～定員 10 名枠の栄養指導予約枠を設けている。集団栄養指導については、糖尿病食事療法を対象とした指導内容となっている。

4. 業務実績

病院年報の業務実績における各種業務状況項の記載通り、栄養指導実施状況については前年度実績数を上回り 44%の伸びであった。給食業務実施状況については、前年度実績数を上回っている。給食業務実施状況においては、一般食と特別食の比率は 6：4 と前年度とほぼ同じである。特別食（加算）実施状況においては、糖尿病食・腎臓病食・肝臓病食・心臓病食が特別食（加算）実施食数全体の 7 割以上を占めている。栄養指導実施状況においては、肝臓病と脂質異常症の指導件数が減少し、糖尿病と腎臓病の指導件数が大幅に増加した。

5. 各種業務状況

◆給食業務状況

(単位：食)

区 分		食数	比率(%)
食 種	普通食	114,054	43.1%
	軟食等	43,311	16.4%
	特別食(加算)	68,952	26.1%
	特別食(非加算)	38,148	14.4%
	計	264,465	100.0%
1日平均		725	—
1回平均		242	—
一般食の比率(%)		—	60
特別食の比率(%)		—	40

◆特別食(加算)実施状況

(単位：食)

区 分		食数	比率(%)
食 種	糖尿病食	20,251	29.4%
	腎臓病食	9,688	14.0%
	肝臓病食	10,665	15.5%
	心臓病食	8,994	13.0%
	膵臓病食	3,512	5.1%
	潰瘍食	8,822	12.8%
	術後食	2,818	4.1%
	その他	4,202	6.1%
	計	68,952	100.0%
	1日平均		189
1回平均		63	—

◆栄養指導実施状況

(単位：人)

区 分	
糖尿病	447
腎臓病	125
肝臓病	14
脂質異常症	41
消化管術後	45
その他	66
計	738

薬剤部の現況

1. スタッフ

薬局長 但馬 重俊

薬局長以下薬剤師 16 人（正職員 15 人（うち 1 人 平成 23. 3. 31 退職）、医療嘱託員 1 人）

2. 業務内容

DPC 対象病院として医薬品購入に関する経費削減と医療経営上の利益確保の両面から後発品採用拡大に向けて検討を進めた。また、地域医療連携ネットワーク上の薬薬連携を推進する目的で、地域のかかりつけ薬局と薬剤部との退院時共同指導モデル事業を継続して実施した。

1) 調剤業務

調剤業務の安全性向上及び調剤業務の効率化・省力化を目的とし、オーダーリングシステム情報を利用したシステムにて入院処方せん及び院内処方せんの調剤業務を行っている。

2) 薬剤管理指導業務

POS の有用性を最大限に発揮することを目標において、オーディオット、症例検討会等を通してスタッフの資質向上を目指した。月 1 回開催の糖尿病教室では新病院開院以来 4 名のスタッフ間でローテーションを組み集団患者教育に取り組んでいる。集中治療部における活動を開始した。

3) 医薬品情報管理業務

年 6 回開催される薬事委員会事務局としての業務を行っており、院内採用品目の適正化に向けた資料作成等を順次作成した。

4) 医薬品管理業務

定期的に薬剤部、SPC、SPD が会議を行い、効率的な医薬品の使用動向につき検討し、また使用量と医事データとの突合、不一致原因の追求を実施した。昨年度に引き続き使用期限が切迫した医薬品の使用促進を図ることで不良在庫の軽減を行った。

5) 注射薬調製業務

電子カルテレジメン機能を利用することにより、がん化学療法プロトコールの管理と医薬品の無菌調製といった両面からがん化学療法の安全性の確保に寄与している。

6) 治験管理業務

昨年度より検討していた治験・臨床研究・製造販売後調査における審査体制の改編を実施した。このことにより受託研究申請受付の一元化、審査委員会の定期開催が実現可能となった。今年度、新規受託数は無かったが、新規申請の施設選定をクリアしており治験受託へ向けて動き出した 1 年であった

受託研究の受け入れ	(1) 臨床治験及び製造販売後臨床試験	1 件	(新規受託 0 件)
	(2) 臨床研究	26 件	
	(3) 製造販売後調査等	60 件	(新規受託 20 件)

7) TDM業務

塩酸バンコマイシン、硫酸アルベカシン及び注射用テイコプラニンの投与設計件数は 115 件であった。また、これらの薬剤における初期投与量設計件数は 63 件であった。投与設計件数及び初期投与量設計件数ともに経年的な増加を認め、TDM業務は院内での抗菌薬の適正使用に大きく貢献したと考える。

	初期投与量設計件数	投与設計件数
塩酸バンコマイシン	32 件	74 件
硫酸アルベカシン	15 件	16 件
注射用テイコプラニン	16 件	25 件

3. 研究・研修活動

1) 院内研修

医薬品安全対策勉強会(年1回)

勉強会 (週1回)

2) 院外研修

第21回がん臨床試験セミナー

第48回日本癌治療学会学術集会

平成22年度病院診療所薬剤師研修会

第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会

大阪府病院薬剤師会第39回新入局薬剤師研修会

4. 薬学生・薬学部生実務実習(11週間実習)の受入

1) 平成22年5月17日～平成22年7月30日(4名)

近畿大学(2名)、大阪大谷大学(1名)、神戸薬科大学(1名)

2) 平成23年1月11日～平成23年3月28日(4名)

大阪大谷大学(1名)、大阪薬科大学(1名)、京都薬科大学(2名)

5. 薬剤部統計

(ア) 採用医薬品数(平成23年3月現在)

(単位: 薬品数)

	先発品	後発品	後発率	総数
院内採用医薬品数	957	130	11.96%	1,087
院内患者限定	91	0	0.00%	91
院外採用医薬品数	307	10	3.15%	317
院外患者限定	30	0	0.00%	30
合計	1,385	140	9.18%	1,525

(イ) 外来処方せん枚数

(単位: 件)

	院外処方			疑義照会	院内処方			合計			院外処方 発行率
	枚数	件数	剤数	枚数	枚数	件数	剤数	枚数	件数	剤数	
4月	7,156	16,762	22,689	125	927	1,904	2,645	8,083	18,666	25,334	88.53%
5月	6,416	14,603	19,781	103	1,341	2,900	3,982	7,757	17,503	23,763	82.71%
6月	7,119	16,345	21,954	117	893	1,844	2,537	8,012	18,189	24,491	88.85%
7月	6,882	15,890	21,157	126	1,164	2,352	3,225	8,046	18,242	24,382	85.53%
8月	7,217	16,284	21,739	136	1,016	2,055	2,731	8,233	18,339	24,470	87.66%
9月	6,792	15,310	20,213	117	799	1,537	2,028	7,591	16,847	22,241	89.47%
10月	6,990	15,962	21,334	113	907	1,837	2,572	7,897	17,799	23,906	88.51%
11月	7,092	16,211	21,917	125	1,007	2,048	2,786	8,099	18,259	24,703	87.57%
12月	7,493	17,468	23,419	150	1,281	2,539	3,428	8,774	20,007	26,847	85.40%
1月	6,580	15,252	20,385	110	1,658	3,489	4,545	8,238	18,741	24,930	79.87%
2月	5,890	13,986	18,638	151	876	1,870	2,585	6,766	15,856	21,223	87.05%
3月	7,568	17,045	22,992	141	1,045	2,086	2,880	8,613	19,131	25,872	87.87%
合計	83,195	191,118	256,218	1,514	12,914	26,461	35,944	96,109	217,579	292,162	86.56%

(ウ) 入院処方せん枚数

(単位：枚数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
処方区分別	定期	161	123	119	113	105	126	106	107	130	140	185	179	1,594
	臨時	2,513	2,236	2,214	2,444	2,605	2,325	2,515	2,552	2,449	2,395	2,273	2,688	29,209
	緊急	1,348	1,292	1,230	1,198	1,226	1,164	1,230	1,226	1,224	1,215	1,080	1,349	14,782
	退院	515	494	490	511	522	457	508	521	564	443	492	507	6,024
合計	枚数	4,543	4,145	4,053	4,266	4,458	4,072	4,359	4,406	4,367	4,193	4,030	4,723	51,609
	件数	7,556	6,951	6,518	7,037	7,241	7,002	7,290	7,428	7,360	6,760	6,597	7,529	85,269
	剤数	40,564	34,293	34,480	35,500	36,759	37,822	38,837	39,123	41,388	34,512	36,437	39,905	449,620

(エ) 外来注射件数

(単位：オーダー数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
処方区分別	予約注射	283	216	234	252	262	282	370	368	413	335	337	391	3,743
	通院治療センター	238	211	280	253	286	288	374	293	373	200	241	314	3,351
	抗がん剤注射	1,828	1,620	1,750	1,679	1,964	1,752	1,779	1,742	1,723	1,599	1,700	2,033	21,169
	実施済注射	1,343	1,421	1,288	1,577	1,872	1,435	1,417	1,279	1,546	1,484	1,190	1,374	17,226
	当日注射	516	419	426	390	382	361	346	384	400	319	311	600	4,854
合計	4,208	3,887	3,978	4,151	4,766	4,118	4,286	4,066	4,455	3,937	3,779	4,712	50,343	

(オ) 入院注射件数

(単位：オーダー数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
処方区分別	定時注射	16,960	16,586	15,449	15,586	17,407	16,052	16,019	16,089	17,831	18,084	14,976	17,126	198,165
	緊急注射	5,144	4,784	4,289	4,328	4,799	4,337	4,607	4,461	5,677	4,541	3,694	5,503	56,164
	臨時注射	5,130	5,007	4,761	4,737	5,791	5,301	5,385	5,742	4,798	5,636	4,438	5,546	62,272
	抗がん剤注射	880	623	712	1,181	964	929	968	713	675	726	844	984	10,199
	実施済注射	3	6	0	0	2	0	2	4	3	0	0	8	28
合計	28,117	27,006	25,211	25,832	28,963	26,619	26,981	27,009	28,984	28,987	23,952	29,167	326,828	

(カ) がん化学療法無菌調製件数

(単位：算定件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
外来	内科	29	31	39	39	50	47	55	54	50	44	59	66	563
	外科	194	167	183	161	191	174	165	163	155	138	141	163	1,995
	産婦人科	2	2	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	10
	泌尿器科	27	20	25	28	26	28	25	21	18	20	26	29	293
	放射線科	2	2	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	11
	入院	内科	34	35	28	38	47	41	26	20	24	27	27	51
	循環器内科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	外科	28	23	43	27	28	46	70	25	33	42	31	43	439
	産婦人科	9	6	8	8	7	8	12	20	14	6	10	10	116
	耳鼻咽喉科	5	0	5	0	0	0	0	5	5	0	5	0	25
	泌尿器科	11	8	19	20	21	26	14	6	3	9	19	21	177
	歯科口腔外科	5	6	4	5	0	0	5	5	5	0	0	0	35
合計		347	301	354	328	370	368	373	320	312	289	318	383	4,063

(キ) 高カロリー輸液製剤調製件数

(単位：算定件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
外来	外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
入院	内科	92	128	46	91	97	71	119	114	113	199	209	242	1,521
	循環器内科	19	24	15		7	31	37	60	78	78	73	108	530
	外科	52	49	20	52	29	25	78	37	53	41	8	1	445
	耳鼻咽喉科	41	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
	泌尿器科	0	0	0	2	22	3	0	9	3	19	27	30	115
合計		204	220	81	145	155	130	234	220	247	337	318	381	2,672

(ク) 院内製剤数量

品名	数量	品名	数量
0.05%クリスタルバイオレット液	1,000mL	ブロー氏液	300mL
2%ピオクタニンブルー液	800mL	マンデル氏液	600mL
2%酢酸水	1,500mL	院方ルゴール	500mL
4%P-ヒドロキシ安息香酸エチル	400ml	柿煎	15,000mL
M o h s 軟膏	1,050g	含そう用アロプリノール液	16,500mL
10%硝酸銀液	70mL	鼓膜麻酔液	15mL
アズノール・クリダマシン軟膏	1,650g	礬里液	1,000mL
ピオクタニン亜鉛華軟膏	100g	滅菌オリーブ油	8,000mL
ウリナスタチン膾坐薬	1,840個	滅菌グリセリン	750mL
チラーゼンS坐薬 100 μ g	15個	滅菌墨汁	180mL
ナーベル散	500g		

(ケ) 薬剤管理指導業務

(単位：算定件数)

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
内科	228	165	180	187	217	190	197	237	184	201	194	227	2,407
循環器科	46	31	42	47	50	44	32	53	42	59	33	40	519
外科	112	97	83	98	87	90	113	122	133	131	117	133	1,316
整形外科	25	22	28	25	32	34	41	37	14	25	37	28	348
産婦人科	29	28	30	36	31	33	45	43	49	42	36	46	448
小児科	87	68	87	106	119	101	119	125	165	116	135	140	1,368
眼科	33	35	38	34	41	36	41	39	22	36	43	36	434
耳鼻咽喉科	82	70	80	89	113	89	84	88	65	63	58	98	979
皮膚科	0	1	1	6	7	3	1	2	2	1	2	5	31
形成外科	6	7	14	12	11	8	8	12	12	9	13	13	125
泌尿器科	61	60	61	60	78	53	54	57	63	65	69	64	745
歯科口腔外科	15	12	12	20	17	14	15	10	12	13	17	13	170
合計	724	596	656	720	803	695	750	825	763	761	754	843	8,890

(コ) 製剤別血液及び血液成分製剤の使用本数

(単位：本)

		A-	A+	AB-	AB+	B-	B+	O-	O+	計	前年度
自 己 血	1 単位	0	4	0	1	0	2	0	5	12	24
	2 単位	0	41	1	14	0	17	0	32	105	134
濃厚赤血球 (MAP) (全て白血球除製剤)	1 単位	0	2	0	2	0	1	0	2	7	20
	2 単位	8	529	2	81	3	232	0	336	1,191	1,221
新鮮凍結血漿 (FFP)	1 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	2 単位	1	68	0	15	0	26	0	21	131	90
	5 単位	0	2	0	0	0	28	0	0	30	65
濃厚血小板 (PC) (HLA適合製剤を含む) (白血球除去製剤を含む)	総単位	10	1,665	0	310	20	720	45	1,345	4,115	3,433
	2 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	10 単位	1	113	0	22	2	61	3	101	303	218
	15 単位	0	17	0	6	0	6	1	13	43	59
人 全 血	20 単位	0	14	0	0	0	1	0	7	22	18
	1 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*1単位=200ml献血由来相当分

*集計対象日は輸血実施入力日

(サ) 薬効別医薬品使用状況

項 目	割合	分類 番号	主な薬効別分類	割 合
1 神経系及び感覚器官用医薬品	3.80%	11	中枢神経系用薬	1.85%
		12	抹消神経系用薬	0.55%
		13	感覚器官用薬	1.41%
2 個々の器官系用医薬品	19.78%	21	循環器官用薬	2.11%
		22	呼吸器官用薬	0.83%
		23	消化器官用薬	3.05%
		24	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含)	12.23%
		25	泌尿生殖器官肛門用薬	0.78%
		26	外皮用薬	0.74%
		27	歯科口腔用薬	0.04%
3 代謝性医薬品	10.40%	29	その他の個々の器官系用医薬	0.00%
		31	ビタミン剤	0.11%
		32	滋養強壯薬	1.67%
		33	血液・体液用薬	4.11%
		34	人工透析用薬	0.05%
4 組織細胞機能用医薬品	27.41%	39	その他の代謝性医薬品	4.46%
		42	腫瘍用薬	24.92%
		43	放射性医薬品	2.33%
5 生薬及び漢方処方にに基づく医薬品	0.04%	44	アレルギー用薬	0.16%
		51	生薬	0.00%
6 病原生物に対する医薬品	31.60%	52	漢方製剤	0.04%
		61	抗生物質製剤	5.74%
		62	化学療法剤	5.32%
		63	生物学的製剤	20.51%
7 治療を主目的としない医薬品	5.38%	64	寄生動物用薬	0.02%
		71	調剤用薬	0.10%
		72	診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	4.69%
		73	公衆衛生用薬	0.04%
8 麻薬	1.53%	79	治療を主目的としない	0.56%
		81	アルカロイド系麻薬	0.53%
9 その他	0.07%	82	非アルカロイド系麻薬	1.00%
		99	その他	0.07%

(シ) 科別血液及び血液成分製剤の使用本数

(単位：本)

科	区分	自己血	MAP	FFP	PC	HLAPC	人全血	WRC	計	前年度
内	科	0	1,191	222	3,420	0	0	0	4,843	4,196
	一般内科	0	140	24	185	0	0	0	349	124
	血液内科	0	689	34	3,195	10	0	0	3,928	3,180
	消化器内科	0	362	164	40	0	0	0	566	892
	循環器科	0	98	8	20	0	0	0	126	157
	呼吸器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	96
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	糖尿病・代謝内科	0	12	0	0	0	0	0	12	00
外	科	0	426	90	105	0	0	0	621	867
	一般外科	0	276	54	70	0	0	0	400	544
	消化器外科	0	142	36	35	0	0	0	213	287
	乳腺外科	0	8	0	0	0	0	0	8	36
	化学療法科	0	30	0	135	0	0	0	165	0
	整形外科	63	104	0	20	0	0	0	187	149
	形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	産婦人科	37	82	50	20	0	0	0	189	342
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	新生児集中治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	眼科	0	0	0	10	0	0	0	10	0
	耳鼻咽喉科	0	10	0	0	0	0	0	10	42
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科	120	260	32	315	0	0	0	727	619
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペインクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科口腔外科	2	0	0	0	0	0	0	2	43
救	急	0	176	10	60	0	0	0	246	162
	救急総合診療科	0	174	10	60	0	0	0	244	162
	内科救急科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小児救急科	0	2	0	0	0	0	0	2	0
合	計	222	2,389	412	4,105	10	0	0	7,138	6,699

* 1単位=200ml 献血由来相当分で、上記本数は1単位分の本数

* 集計対象日は検査依頼日(輸血予定日)

地域医療連携室の現況

1. スタッフ

室長 高瀬 俊夫 医療ソーシャルワーカー 北村 尚洋
看護師長 西井 梅子 (平成 23. 3. 31 退職)
看護師長以下看護師 2 人
P F I 協力企業職員 常勤 5 人、非常勤 2 人 広報担当者 2 人

2. 業務内容

1) 広報・地域連携調整業務

広報誌の編集・発行や地域医療機関への訪問。地域医師会との連絡調整等。

- ①「やさしい笑顔」：患者さんや一般向けのミニ広報誌。(平成 16 年 7 月から月 1 回発行)
900 部発行。

内 容 病院の基本理念 (表紙に出しています)
病気や治療についてのわかりやすい話、病院からのお知らせ、
院内各科の紹介、かかりつけ医の推奨、紹介・逆紹介の説明、
医療・福祉関連情報

配布場所 院内 外来・病棟
院外 市役所・図書館・出張所・八尾市調剤薬局等
市役所イントラネットの電子書庫及び病院ホームページに掲載

- ②「地域医療連携室だより」：医療機関向けの広報誌。(平成 17 年 2 月に第 1 号発行)
約 900 部発行。

内 容 診療体制の他に講座やイベント、地域連携システムなどの情報提供を 2 ヶ月
に 1 回作成し、地域医療機関に送付。また、診療時間予定表については、毎月
送付している。

- ③「地域医療連携室 診療のご案内」：年 1 回改定 (平成 16 年 10 月初版作成)

内 容 各科医師の専門分野や当院で可能な検査の説明を、写真を用いて掲載した広
報誌。毎年更新している。

活用状況 医療機関訪問ツールとして、活用し当院への紹介がスムーズに行われるよう
にしている。訪問時は医療機関のご意見、ご要望を伺い、又当院の状況の説
明を行い、より良い連携を目指し活動している。平成 22 年度は 700 部を印
刷配布している。(平成 21 年度は 600 部)

2) 相談・転退院支援業務

看護師の専門性をいかした看護相談と共に医療ソーシャルワーカーによる医療相談を充実させ、
外来及び入院患者や家族の様々な相談に対応している。

またニーズに沿った転院や退院の支援を目指し、高齢化社会にも対応した保健・医療・福祉サ
ービスの支援を行っている。退院後も在宅支援業者や他の医療機関とも連携し適切な療育が継続

できるようにしている。

3) 連携事務業務

紹介患者さんの予約受付と窓口対応を一体として行っている。事前予約受付（診察・各種検査）については、夜診のある地域の医療機関に配慮して、午前8時30分から午後8時までの受入れ体制をとっています。また、時間内のFAXでの予約依頼は、当日中に予約票を返信している。電話対応も午後8時30分まで行っている。夜診時間帯に対応する事前予約受付をしている病院は、現状ではまだ少ないため、好評を得ている。50件/日程度の事前予約を行い、待ち時間の短縮や専門医での診察が受けられるように配慮している。

3. 紹介率・逆紹介率の状況

近隣医療機関、介護施設等と連携を積極的に行い、地域の先生方に信頼され、患者さんに満足・安心して医療を受けて頂けるようにしている。八尾市医師会を始め、地域の医療機関、関係者の協力により、紹介率が平成21年度47.8%、平成22年度52.4%となっており今年度は顕著な増加傾向がみられる。逆紹介率は平成21年度41.7%、平成22年度49.4%とこちらについても、医療機関の機能分担をすすめた成果である。今後も地域の急性期医療をになう中核病院として、医療連携をさらに強固なものとするべく改革している。（紹介率・逆紹介率については、地域医療支援病院規程に準ずる）

診療情報管理室の現況

1. スタッフ

室長 佐々木 洋

PFI協力企業職員 5人

2. 業務内容

平成22年度は、診療報酬改定があり、DPC（診断群分類別包括評価）の医療機関別係数＝調整係数＋機能評価係数Ⅰ＋機能評価係数Ⅱと変更された。医療資源を最も投入した傷病名の詳細不明コードの削減に取り組んだ。DPC（診断群分類別包括評価）様式1の調査項目の全てが必須項目となったため、入力漏れの確認を強化すると共に、DPCワーキング・適切なコーディングに関する委員会にも参加し精度向上に努めた。

がん登録は、DPC様式3に件数を入力する必要があることから、登録件数の増加を目指すと共に、チーム医療推進委員会、大阪府がん診療拠点病院がん登録部会、関西がんチーム医療研究会などへも積極的に参加し、がん登録を推進した。また、平成23年3月21日には電子カルテシステムの仮導入に際し、旧システムから必要なデータの移行を行った。

1) 退院患者統計

① 対象患者

平成22年4月1日～平成23年3月31日の期間に退院（転院）した患者

② 集計方法

- ・統計に必要な情報は、退院時要約及び入院カルテより抽出
- ・1退院を1件として集計
- ・疾病分類は、厚生労働省大臣官房調査部編第10回修正「疾病、傷害および死因統計分類提要ICD-10準拠」を使用

③ 統計

- ・ICD-10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・診療科別 上位3疾病退院患者数
- ・診療科別・男女別・ICD-10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・年齢別・男女別・ICD-10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・悪性新生物患者数（部位別・男女別）
- ・大分類別・男女別・国際疾病分類統計（死亡統計）
- ・年齢別・診療科別・国際疾病分類統計（死亡統計）

◆国際疾病分類統計／退院患者数

(単位:人)

章	ICD-10 分類	分類	退院患者		総計
			退院	死亡	
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	512	12	524
II	C00-D48	新生物	1,902	193	2,095
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	82	3	85
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	159	0	159
VI	F00-F99	精神および行動の障害	6	0	6
V	G00-G99	神経系の疾患	96	3	99
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	308	0	308
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	248	0	248
IX	I00-I99	循環器系の疾患	414	41	455
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	1,725	28	1,753
XI	K00-K93	消化器系の疾患	1,409	9	1,418
XII	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	118	0	118
VIII	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	168	1	169
XIV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	394	5	399
XV	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	819	0	819
XVI	P00-P99	周産期に発生した病態	135	1	136
XVII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	34	0	34
XVIII	R00-R99	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8	0	8
XIX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	371	0	371
総計			8,908	296	9,204

◆診療科別 上位3位疾病退院患者数

(単位:人)

診療科	ICD-10	病名	合計
全科	K635	大腸ポリープ	416
	O800	自然頭位分娩	397
	J180	気管支肺炎	317
内科	K635	大腸ポリープ	371
	C220	肝癌	115
	J189	急性肺炎	74
循環器科	I209	狭心症	44
	I509	心不全	44
	I500	うっ血性心不全	36
外科	C509	乳癌	156
	K409	鼠径ヘルニア	87
	C20	直腸癌	63
整形外科	S7200	大腿骨頸部内側骨折	47
	M179	変形性膝関節症	25
	M169	変形性股関節症	12
産婦人科	O800	自然頭位分娩	397
	C56	卵巣癌	63
	O021	稽留流産	61
小児科	J180	気管支肺炎	276
	J209	急性気管支炎	141
	J205	RS ウイルス気管支炎	101

診療科	ICD-10	病名	合計
眼科	H259	加齢性白内障	156
	H250	皮質性加齢性白内障	72
	H251	核硬下症性白内障	53
耳鼻咽喉科	J350	慢性扁桃炎	170
	H912	突発性難聴	88
	J329	慢性副鼻腔炎	63
形成外科	S6261	開放骨折	8
	D481	皮下腫瘍	7
	S681	指切断	35
皮膚科	B029	帯状疱疹	10
	L039	蜂窩織炎	3
	D485	皮膚腫瘍	2
泌尿器科	C61	前立腺癌	231
	C679	膀胱癌	119
	N40	前立腺肥大症	45
麻酔科	E162	低血糖発作	1
	—	—	—
	—	—	—
歯科口腔外科	K090	含歯性のう胞	31
	K092	顎骨のう胞	11
	L032	頬部蜂窩織炎	9

◆診療科別/男女別 国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分類	内科		循環器科		外科		整形外科		産婦人科		小児科		眼科	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	64	79	1		2	3				3	188	145		
II	C00-D48	新生物	326	235	6	1	302	373	3	4		286		1		
III	D50-D89	血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	20	14		2		3				3	18	23		
IV	E00-E90	内分泌、栄養、代謝疾患	61	45	7	6	1	1				2	14	19		
V	F00-F99	精神および行動の障害				1		1					2	1		
VI	G00-G99	神経系の疾患	7	5	2				3	3			24	25		
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患											1	1	121	
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	1	3		1	1	1					23	5		
IX	I00-I99	循環器系の疾患	58	40	212	117	9	6				2	4	5		
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	137	94	45	22	8	4				1	546	460		
XI	K00-K93	消化器系の疾患	511	352			269	147				1	22	18		
XII	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	2	8	2	3	1		8	6			23	21		
XIII	M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	3	5	2	1	1	1	37	64			26	20		
XIV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	23	34	5	4	5	9			1	70	32	10		
XV	000-099	妊娠、分娩及び産褥										819				
XVI	P00-P96	周産期に発生した病態									7	11	72	46		
XVII	Q00-Q99	先天奇形、変形及び染色体異常							2			2	8	2		
XVIII	R00-R99	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの											1	1		
XIX	S00-T98	損傷、中毒及びその他の外因の影響	7	9	1	2	2	12	106	118		5	9			
総計			1,220	923	283	160	601	561	159	195	8	1,205	1,013	803	121	183

◆年齢別/男女別 国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分類	6歳未満		6歳未満合計	6歳以上10歳未満		6歳以上10歳未満合計	10歳以上16歳未満		10歳以上16歳未満合計	16歳以上20歳未満		16歳以上20歳未満合計	20歳代		20歳代合計
			男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性	
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	146	113	259	28	21	49	14	12	26	9	4	13	7	7	14
II	C00-D48	新生物	3	4	7		2	2	1		1	1	3	4	2	17	19
III	D50-D89	血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	8	12	20	8	8	16	3	3	6	2	1	3			
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	7	9	16	2	4	6	5	6	11	1		1	2	2	4
V	F00-F99	精神および行動の障害	2	1	3											1	1
VI	G00-G99	神経系の疾患	17	17	34	3	5	8	4	3	7	1		1	1		1
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	1	2	3										1		1
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	36	18	54	14	4	18	4	3	7	2	1	3	8	4	12
IX	I00-I99	循環器系の疾患	1	1	2	2	2	2	1	4	5				1	1	2
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	490	399	889	86	54	140	61	46	107	16	5	21	38	22	60
XI	K00-K93	消化器系の疾患	15	12	27	12	4	16	13	14	27	9	5	14	21	21	42
XII	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	15	13	28	5	4	9	6	4	10		1	1	5	3	8
XIII	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	26	18	44	1	2	3	1	1	2	5		5	3	1	4
XIV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	25	5	30	6	3	9	4	2	6		4	4	3	11	14
XV	000-099	妊娠、分娩および産褥											11	11		288	288
XVI	P00-P96	周産期に発生した病態	79	57	136												
XVII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	13	5	18	2		2	3	2	5	3	1	4			
XVIII	R00-R99	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	1	2								1		1		
XIX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	6	1	7	5	2	7	14	5	19	13	10	23	31	5	36
総計			891	688	1,579	174	113	287	134	105	239	63	46	109	123	383	506

(単位:人)

耳鼻咽喉科		形成外科		皮膚科		泌尿器科		麻酔科		歯科口腔外科		総計	男性 総計	男性 比率	女性 総計	女性 比率
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性					
9	16			5	7	1	1					524	270	51.53%	254	48.47%
35	19	13	12	1	2	386	53			24	13	2,095	1,096	52.32%	999	47.68%
2												85	40	47.06%	45	52.94%
						2			1			159	85	53.46%	74	46.54%
											1	6	2	33.33%	4	66.67%
18	10		1								1	99	54	54.55%	45	45.45%
			2									308	122	39.61%	186	60.39%
103	110											248	128	51.61%	120	48.39%
			2									455	283	62.20%	172	37.80%
278	155									1	2	1,753	1,015	57.90%	738	42.10%
9	5		1			3				41	39	1,418	855	60.30%	563	39.70%
4	4	11	3	4	3	4	1			2	8	118	61	51.69%	57	48.31%
		6	2			1						169	76	44.97%	93	55.03%
						148	58					399	214	53.63%	185	46.37%
												819	0	0.00%	819	100.00%
												136	79	58.09%	57	41.91%
6	6	1				6				1		34	24	70.59%	10	29.41%
6												8	7	87.50%	1	12.50%
4	5	67	12			1	2			5	4	371	202	54.45%	169	45.55%
474	330	98	35	10	12	552	115	0	1	74	68	9,204	4,613	50.12%	4,591	49.88%

(単位:人)

30歳代		30歳代 合計	40歳代		40歳代 合計	50歳代		50歳代 合計	60歳代		60歳代 合計	70歳代		70歳代 合計	80歳代		80歳代 合計	90歳以上		90歳 以上 合計	総計	
男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性			男性									
9	14	23	5	12	17	10	8	18	23	21	44	14	23	37	3	17	20	2	2	4	524	
11	84	95	26	147	173	101	131	232	337	281	618	452	228	680	143	90	233	19	12	31	2,095	
3	3	6	2	1	3		1	1	1	9	10	8	4	12	4	3	7	1		1	85	
5	3	8	8	1	9	10	4	14	23	13	36	14	16	30	7	11	18	1	5	6	159	
																2	2				6	
2	2	4	7	2	9	5	2	7	3	2	5	10	7	17	1	4	5		1	1	99	
	1	1	2		2	6	4	10	21	38	59	65	86	151	25	50	75	1	5	6	308	
5	10	15	7	10	17	8	18	26	18	30	48	23	21	44	3	1	4				248	
5	2	7	13	4	17	37	9	46	98	30	128	86	72	158	33	35	68	6	14	20	455	
65	38	103	31	18	49	37	24	61	54	44	98	75	33	108	49	39	88	13	16	29	1,753	
46	40	86	93	34	127	101	63	164	219	144	363	265	138	403	60	76	136	1	12	13	1,418	
10	3	13	4	2	6	5	2	7	4	8	12	5	11	16	2	6	8				118	
3	3	6	4	3	7	4	2	6	13	15	28	12	39	51	3	7	10	1	2	3	169	
7	22	29	7	38	45	14	13	27	52	18	70	77	38	115	16	21	37	3	10	13	399	
	486	486		34	34																819	
																						136
1	2	3				1		1				1		1							34	
						2		2	2		2	1		1							8	
29	12	41	24	2	26	15	18	33	29	33	62	27	41	68	5	32	37	4	8	12	371	
201	725	926	233	308	541	356	299	655	897	686	1,583	1,135	757	1,892	354	394	748	52	87	139	9,204	

◆悪性新生物患者数（部位別/男女別）

（単位：人）

中分類	中分類部位	男性		女性		合計		総計
		退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	
口唇、口腔および咽頭	C02 舌のその他および部位不明	5		2		7		7
	C03 歯肉	4	1	5	1	9	2	11
	C04 口腔底	2	1			2	1	3
	C06 その他および部位不明の口腔			1		1		1
	C07 耳下腺				1		1	1
	C10 中咽頭	1				1		1
	C11 上咽頭	4				4		4
	C13 下咽頭	2	1			2	1	3
	合計	18	3	8	2	26	5	31
消化器	C15 食道	40	8	1		41	8	49
	C16 胃	103	19	73	10	176	29	205
	C17 小腸	3	1	1	1	4	2	6
	C18 結腸	56	6	70	8	126	14	140
	C19 直腸S状結腸移行部	3	2	11		14	2	16
	C20 直腸	33	3	30	3	63	6	69
	C22 肝および肝内胆管	114	14	37	5	151	19	170
	C23 胆のう	4	1	7		11	1	12
	C24 その他および部位不明の胆道	14	4	15	4	29	8	37
	C25 膵	24	13	14	8	38	21	59
	合計	394	71	259	39	653	110	763
呼吸器および胸腔内臓器	C30 鼻腔および中耳			3		3		3
	C32 喉頭	1				1		1
	C34 気管支および肺	10	5	3	1	13	6	19
	合計	11	5	6	1	17	6	23
骨および関節軟骨	C41 その他および部位不明の骨および関節軟骨	2	1			2	1	3
	合計	2	1			2	1	3
皮膚の黒色腫およびその他	C43 皮膚	4				4		4
	C44 皮膚のその他	2		2		4		4
	合計	6		2		8		8
中皮および軟部組織	C49 その他の結合組織および軟部組織	4	1	7	1	11	2	13
	合計	4	1	7	1	11	2	13
乳房	C50 乳房	1		160	13	161	13	174
	合計	1		160	13	161	13	174
女性生殖器	C52 陰				1		1	1
	C53 子宮頸部			16	3	16	3	19
	C54 子宮体部			40		40		40
	C56 卵巣			60	4	60	4	64
	合計			116	8	116	8	124
男性生殖器	C61 前立腺	225	7			225	7	232
	C62 精巣<嚢丸>	4				4		4
	合計	229	7			229	7	236
腎尿路	C64 腎盂を除く腎	20	3	7	1	27	4	31
	C65 腎盂	5	1	2	1	7	2	9
	C66 尿管	14		10	1	24	1	25
	C67 膀胱	95	3	25	1	120	4	124
	C68 その他および部位不明の尿路			3		3		3
	合計	134	7	47	4	181	11	192
甲状腺およびその他の内分泌腺	C73 甲状腺	1		3		4		4
	合計	1		3		4		4
部位不明および続発部位	C77 リンパ節の続発性および部位不明	6				6		6
	C78 呼吸器および消化器の続発性	14		19		33		33
	C79 その他の部位の続発性	9		13		22		22
	C80 部位の明示されない	6	2	1	3	7	5	12
	合計	35	2	33	3	68	5	73
リンパ組織、造血組織および関連組織	C81 ホジキン	3				3		3
	C82 ろ胞性〔結節性〕非ホジキンリンパ腫	5	1	12		17	1	18
	C83 びまん性非ホジキンリンパ腫	5	3	6	1	11	4	15
	C84 末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	4	1			4	1	5
	C85 非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明の型	21	2	16	2	37	4	41
	C90 多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	12	1	3		15	1	16
	C91 リンパ性白血病	6	1	4	4	10	5	15
	C92 骨髄性白血病	7	3	3	2	10	5	15
	C95 細胞型不明の白血病			3		3		3
	合計	63	12	47	9	110	21	131
上皮内新生物	D06 子宮頸部			14		14		14
	D09 その他および部位不明	2				2		2
	合計	2	0	14	0	16	0	16
	総計	900	109	702	80	1,602	189	1,791

◆大分類別/診療科別 国際疾病分類統計（死亡統計）

（単位：人）

章	分類	分類コード	ICD-10		内科		循環器科		外科		産婦人科		小児科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		歯科口腔外科		総計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
I	感染症および寄生虫症	A00-B99	A4	2	4																	6		
			B1	2	3																		5	
			B3	1																			1	
II	新生物	C00-D48	C0	1											1				1	1		4		
			C1	7	2	1		28	17					1									56	
			C2	21	12			14	8														55	
			C3	3		2	1																6	
			C4	1	1												1						3	
			C5							13		8											21	
			C6			1											13	4					18	
			C8	8	5							1			1								15	
			C9	5	6																		11	
			D4	3	1																		4	
III	血液・造血器・免疫の障害	D50-D89	D6	1																	1			
			D7	1																		1		
			D8	1																		1		
VI	神経系の疾患	G00-G99	G0		1																1			
			G9			2																2		
IX	循環器系の疾患	I00-I99	I2		1	1	1															3		
			I3				1	1															2	
			I4	2	1	1	3	2	3														12	
			I5	2	4	4	6	1															17	
			I6		2		1	2																5
			I8	1	1																			2
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	J1	5	5		2															12		
			J4			2																	2	
			J6	3	2			1															6	
			J8		1	1																	2	
			J9	3	2	1																		6
XI	消化器系の疾患	K00-K93	K6					1	1													2		
			K7	4	1			1															6	
			K9		1																		1	
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	M3		1																1			
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	N1	1		1	2															4		
			N3	1																			1	
XVI	周産期に発生した病態	P00-P96	P0									1										1		
診療科別/男女別合計				79	57	17	17	51	42	0	9	0	1	2	1	14	4	1	1			296		
総計				136		34		93		9		1		3		18		2				296		

◆年齢別/診療科別 国際疾病分類統計（死亡統計）

（単位：人）

年代別	内科		循環器科		外科		産婦人科		小児科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		歯科口腔外科		総計				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
6歳未満									1								1				
20歳代	1																1				
30歳代					1		1										2				
40歳代	1	1	2	1	4		1										10				
50歳代	7	2			6	5	3					1					24				
60歳代	19	10	1	2	16	14	3				1	3	2				71				
70歳代	30	15	4	4	20	12	1					8	2	1	1		98				
80歳代	15	19	6	6	9	4					1	1	2				63				
90歳以上	6	10	4	4		2											26				
診療科別/男女別合計				79	57	17	17	51	42	0	9	0	1	2	1	14	4	1	1		296
総計				136		34		93		9		1		3		18		2			296

医療安全管理室の現況

1. スタッフ

室長 星田 四朗
医療安全管理者 榊井 敏子
事務 3人（企画運営課 2人、SPC 1人）

2. 活動内容

医療安全全体統括のため、医療安全管理室内の会議を定期的で開催し、以下の通り医療安全に関する活動に取り組んだ。

- ①インシデント事例報告の収集・分析・評価
- ②アクシデント報告の収集・分析・評価
- ③医療事故防止対策の具体的内容の検討
- ④委員会決定事項の伝達
- ⑤医療事故防止の教育・啓発
- ⑥医療事故のサポート
- ⑦セーフティマネージャーの統括・指導
- ⑧医療安全推進院内ラウンド
- ⑨医療安全全国共同行動への参加
- ⑩患者相談窓口
- ⑪コンクリフトマネジメントへの取り組み

3. 活動実績

1) インシデント/アクシデントの分析

インシデント/アクシデントについては、医療安全管理委員会（毎月第2月曜日開催）や医療安全推進部会（毎月第4月曜日開催）を通じ情報の提供・改善を行い周知を図っている。

- ①月報（インシデント・アクシデントの集計や傾向）
- ②研修会の内容報告
- ③インシデント事例から

- ・ルート・チューブ抜去事例に対する対策
- ・転倒・転落に対する対策
- ・取り違え・患者誤認に対する対策
- ・針刺し事故防止対策

2) 医療安全推進部会による院内ラウンド 6月から2月（第1・第2水曜日/月）

医療安全に必要な項目（注射手技、環境、物品・薬剤、器械・器材、基準遵守状況）を院内ラウンドによりチェックし改善対応策を検討するとともに、改善方針の院内周知を図った。

3) 部署別セーフティカンファレンスの実施（1回以上/月）

院内で発生したインシデントを分析し、発生部署においてセーフティカンファレンスを行い、改善を図るとともに再発防止に努めた。

4) 教育・研修の実施

- ①研修医及び新規採用者・中途採用者（看護師）・看護補助へのセーフティ研修

当院の医療安全体制や医療事故発生時の対応・手順やインシデント・アクシデントの報告制度についての周知を行った。

- ②全職員を対象としたセーフティ研修（2回/年）

年間計画を策定し、様々な視点から、安全な医療への意識向上を目的に研修を実施した。

5) 医療事故防止対策標語の設定（12枚発行）

6) 院内医療安全情報の発行（6枚発行）

7) 医療安全共同行動に参加

- ①行動目標「危険薬の誤投与防止」2か月毎に行動内容報告
- ②月別死亡退院患者数の報告
- ③標準化病院死亡比（HSMR）モニター病院としての登録

（HSMRとは、医療安全の取り組みが死亡数の軽減にどれだけ貢献したかを測る指標で、当院は、期待値=396.7 HSMR値=115.5であり妥当との結論を得た。）

8) コンフリクトマネジメント研修への参加

医療コンフリクトマネジメントセミナー（認定病院患者安全推進協議会）の受講

看護部の現況

看護部の現況

看護部の理念

1. 親切、思いやり、優しさをもって看護します。
2. 安全で良質な看護を提供します。
3. 患者さんのニーズ・権利を尊重した看護を提供します。

看護体制について

平成 22 年度は正職員 289 人、非正職員 43 人合計 332 人でスタートした。年間退職者は 23 人、離職率は 8 % で昨年同様変化はなかったものの看護師不足は続いている。アルバイト職員を採用し人員確保を行っているが病床稼働率が上昇しているため、人員確保については努力を要した。7 対 1 看護配置基準は長期休暇（産休・育休）、長期研修者による稼働人員の減少と病床稼働率の上昇に伴い苦戦をしたが、外来や I C U ・ N I C U ・ 中央手術部の応援および協力体制で維持することができた。

看護部は、常に医療社会の現状を踏まえ地域の中核病院として機能を果たすべく、看護のあり方、信頼される患者中心の看護サービスが提供できるよう環境づくりを心掛けている。患者さんが安心して医療が受けられる安全な療養環境と職員が働きやすい安全な職場環境を整え、また、看護職員が専門職としての職責が果たせるよう、教育と自己啓発支援、キャリア開発に最善を尽くしてきた。平成 22 年度より新人看護師教育体制が導入されたことにより、教育プログラムの見直しを行い教育内容の充実と離職防止に努めた。1 年以内の離職はなかったものの新人教育の在り方やメンタル面でのフォロー体制の重要性を痛感している。各認定看護師は院内外の研修の企画・実施・評価を行い、看護の質向上にも大きく貢献している。また、認定教育課程では、がん化学療法看護・乳がん看護・手術室看護を受講し、23 年度は 4 人の認定看護師が誕生する予定である。大阪府がん診療拠点病院に認定されている当院にとっては、認定後の活躍が大いに期待できる。

人材確保は重要な課題であり、働きやすい職場環境を整え、教育システムを充実し、個性が活かされるような配置するとともに、病院見学の継続・看護学生の受け入れ拡大・就職説明会出席・ホームページの充実等の P R 活動の充実化を図り、また多様な勤務形態等についての検討もしながら人員確保に努力し、7 対 1 看護配置基準の維持継続を図っていきたい。

看護内容について

- 1) 質の高い看護を提供するための人材育成を行います。

質の高い看護を提供すべく各部署が計画的に目標を設定し取り組んだ結果、8 西病棟と N I C U が 85 %、手術室 84.2 %、全体的な平均目標達成率は、78 %（総合評価 B）であり期待をやや下回る結果であった。人材育成のための教育の必要性は重要であり、今後も倫理面をふまえた人材育成と質の向上に向けての取組みをおこなっていく必要がある。本年度より新人看護師教育制度が導入され、新人教育プログラムの見直しを行い教育の充実を図った。新人看護職研修責任者研修に派遣したので、今後は更なる教育の充実に向けて検討を行う必要である。充実した教育内容

にして働きやすい職場作りを行なっていきたい。

院内研修参加者数は延べ 1,601 名で、院外研修は看護協会をはじめとする研修に 217 名の参加があった。院内研修においては大幅に増加し、内容的にも専門的な研修内容であり自己のキャリアアップに対する意識の向上が見られた。これは認定看護師がスタッフのキャリアアップのための専門的研修の企画・実践・評価を目的に実施し、看護業務実践の質向上に繋がっていると評価している。また、看護学校の講師や講演活動及び A C L S のインストラクターとして院外で活躍する者も多くなった。これは、病院の P R にも多いに貢献すると共に、人材確保の一端をも担っており、更に活躍の場を拡大していきたいと考えている。

2) 業務の統一化を図り、効果的な看護を提供します。

業務の統一化に対する全部署の目標達成率は、7階西病棟 90%、N I C U が 87.5%、I C U が 85.5%で、全体的な平均目標達成率は 79.9%（総合評価 B）であった。看護業務を行う上で基本となる看護基準・手順やマニュアルを遵守することが重要であり、それらは現場で実践可能なものとして、今後、変化する医療情勢を鑑み、最新情報を取り入れながら随時見直していきたい。効果的な看護を実践するためにはエビデンスに基づいた看護実践が必要不可欠であり、看護職員への指導強化を今後も継続的に実施していきたい。

3) コスト意識を持ち、病院の経営に積極的に参加します。

全部署の目標達成率は、I C U が 95.8%、8階西病棟 91.5%、8東病棟 90%、全体的な平均目標達成率は 85.2%（総合評価 A）であり評価が高かった。改革プラン 2 年目で病院経営に関して、スタッフ一人ひとりが経営に関心を寄せていることがわかった。看護部では、「入院は断らない」を合い言葉に適切なベッドコントロールを実施してきた。入院患者数・病床利用率は計画を若干下回ったが、外来患者数は大きく上回り、患者一人一日の単価も上回ったことから増収となった。危機的な財政状況から脱却を目指してスタッフが一丸となって取り組んだ成果が出てきていると評価できる。今後もこのような継続的な取組みを意識しながら実施していきたい。

4) 明るい笑顔と丁寧な対応で、患者さんに信頼される看護を提供します。

目標達成が高かったのは N I C U で 90%、手術室 85.4%、7階東病棟 85%で平均達成率は 78.9%（総合評価 B）であった。目標の中で 46.2%がこの目標に設定しており、職員一人一人が接遇の重要性を認識している。病床稼働率が上昇し業務が繁雑になってきている中でも、患者さんや家族の方たちへ誠実で丁寧な対応を心がけるようにしている。これは定期的なラウンドを行うことにより意識の向上につながったと評価できる。「私の一言」では、お褒めの言葉やお礼の言葉をいただく反面、お叱りの言葉をいただくこともあるので、今後もシンボルマークの常時携帯と接遇目標シートによる取組みで接遇の強化を図っていきたい。

平成 22 年度の看護部目標

- I. 質の高い看護を提供するための人材育成を行います。
- II. 業務の統一化を図り、効果的な看護を提供します。
- III. コスト意識を持ち、病院の経営に積極的に参加します。
- IV. 明るい笑顔と丁寧な対応で、患者さんに信頼される看護を提供します。

1. 看護部委員会活動状況

委員会名	目的	計画	活動内容
業務委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠に基いた看護業務を実践するため、業務の見直しを行い、必要に応じた業務改善を行い、看護手順を整備し活用度を高める。 2. 診療報酬の改姓、病棟編成、静脈注射技術認定制度の開始など、日々変化する看護業務が円滑に行えるように活動する。 3. 病院経営を意識した能率的で効果的な看護実践を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全てのスタッフが、統一した看護が提供できるよう、看護基準、手順の追加、改定を行い看護職員に周知徹底する。 2. 看護業務の把握のため業務量調査を行い、現場の問題点を抽出する。 3. 医療の質を落とさない、経費削減を考慮した、診療材料の変更や看護用具の購入を計画的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護業務を円滑に行うために、看護基準の見直しや手順の追加、改訂は担当メンバーを決め、計画的に実施できた。しかし、まだまだ、不足している手順があるため追加は必要である。また、病床の運用上、なれない病棟で患者を受け入れる事も発生するため、必要器材の取り扱いが十分理解できる運用手順が必要であり随時変更を心掛けた。しかし、器材の変更は随時行われるため、タイムリーな変更には至らなかった。 2. 全病棟のスタッフと委員会の業務量調査メンバーの協力で、4日間の業務量調査を実施できた。調査内容に関しては、今後結果を各部署にフィードバックして、業務改善の資料として活用することが課題である。業務量から、医師の指示受けに関する業務時間の延長が見られ、医師との連携をスムーズに行うために対策が必要である。 3. 診療材料に関しては、SPDの協力で消耗品に関して随時見直しが行われた。品質面ではサンプル調査を行い移行されている。しかし、問題もあるため、費用対効果を考えて使用状況と使用者側の評価を今後も継続的に行う必要がある。
教育委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職業人として自主的に学び質の高い看護を実施・提供できる看護師の育成。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護職員研修の充実を図る。 2. 看護に必要な最新の知識を取得し、看護実践に結びつく研修を計画する。 3. 認定看護師の育成・支援。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護職員研修では、中央手術部・ICU・救急外来へのローテーション研修を昨年より期間延長することによりそれぞれの部署で有益な経験を積み重ねることで、昨年より充実した研修となり評価も良かった。感染・褥瘡・BLS研修では認定看護師の協力を得ることができた。リスク研修においては危機回避能力向上を目的として時期の変更を試みた。来年度に向けて、実地指導者の研修を今年度末より企画・実施した。 2. 院外研修ではキャリアに応じた参加を呼びかけた。看護協会の研修では121名の参加、またトピックスは自主参加とし96名の参加があった。卒後10年以上を対象としたキャリアアップ研修(接遇・感染・リスク)の3ヵ年計画は一応終了した。次年度は卒後5～10年目を対象とした研修を企画する。 3. 今年度の目標を『質の高い看護を提供するために知識及び技術の伴った看護力向上を目指しましょう』とした。IV技術認定看護師の育成はIV研修を受講後、院内で定められた評価基準を基に40名のIV技術認定看護師が誕生した。今後も引き続き研修を企画する。感染や救急の認定看護師は各部署に向向して個々のスタッフに直接指導を行ったり、シナリオを設定してシュミレーションすることで、実践力の向上を図った。
臨床指導者会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部の看護に対する考えと技術を土台とし、対象の生活場面を通して疾病及び健康への援助を学習させると共に、社会に貢献しうる看護師を育成する。 2. 看護の実践を通して、広い視野での物の見方や判断力、思いやる心の大切さを身に付けさせ、気づかせる。 3. 魅力ある病院での実習をアピールする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有意義に実習ができる環境を整える。 2. 総合オリエンテーションを各スタッフで円滑に運営できる。 3. 指導システムの構築を行う 4. 学生が目標とする看護師として指導できるよう各部署の指導者を育成する。 5. 勉強会の開催。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の病院減少の現状を踏まえ、各看護師教育施設からの実習受け入れ要望にできる限り応じてきた。学生数の増加に合わせ、各病棟の協力を得ながら、実習の実践内容に留意し、今後の展望と課題探究にも努めた。 2. オリエンテーションの年間計画を作成し、実施者と援助者2名でオリエンテーションを行う。援助者は実施者の援助と見学を行い、援助者は次回実施者となり、全員がオリエンテーションを実施できるようになった。今後は、手元の資料を見ずにスムーズにオリエンテーションを行えるよう各自が熟知して行いたい。 3. 実習指導の受け入れは複雑で、年間計画や、受け入れ時の準備(セキュリティの申請や休憩所の確保、ロッカールームの手配、各学校との打ち合わせ、など多岐にわたる準備が必要である)が必要である。委員全員が実習受け入れを理解でき、指導者会で行わなければならない手配や手続きをスムーズに行えるようシステム化できるよう割り当てをし、実施している。 4. 委員会の内容を検討し、報告事項や内容が重複しないよう、申し送り表の評価を行い、報告の内容を変更し、1時間内での会議にとどめるように改正できた。カリキュラムに沿った内容と、学校の実習要綱の内容を考え指導方法を変更しているところである。指導者は、スタッフとともに、魅力ある看護師として、見本となるような言動を心がけ、目標になるよう努力している。その他、学生の実習状況を一括に受け、現状を把握できるようラウンドを行い、学生一人一人に声をかけるよう働きかけてもいる。 5. 実習指導をより円滑に行えるよう、指導体制や、現在の教育カリキュラムなどを交え、主任師長勉強会を行い、委員会では最新の实習指導に関する講習や、研修に参加した者からの伝達講習を行った。

委員会名	目的	計画	活動内容
<p style="text-align: center;">接 遇 委 員 会</p>	<p>1. 接遇マナーの向上を図り、質の良い看護を提供しよう。</p>	<p>1. 接遇マナーの実践力を高める。</p> <p>2. 八尾市立病院の看護師スタイルの徹底。</p> <p>3. 接遇に関する啓蒙活動への取り組みを計画し、現場で実行できるように働きかける。</p>	<p>1. 接遇目標の設定 接遇マナーの向上に向けてスタッフ全員で取り組んだ。目標達成度は総合的に毎月80%を越えた。(5ヶ月は90%以上達成)</p> <p>2. 接遇強化月間・ラウンドの実施 院内全体で10月の一ヶ月間を強化月間として取り組んだ。期間内看護師に対するクレームはなくスタッフ全員で取り組んだ成果と評価できる。 6月は看護師スタイルの徹底を図るため、身嗜みのチェックを行った。10月は身嗜みに加え、接遇マナーに関するチェックを行い現場での指導に活用した。</p> <p>3. 勉強会の開催 接遇マナーに関する題材で毎月勉強会を開催できた。 院内全体でも外部講師による接遇研修が開催できた。</p>
<p style="text-align: center;">研 究 推 進 委 員 会</p>	<p>1. 看護における科学的根拠を基に、創意工夫、研究心を養い、看護師として研究に対する知識・理論を深め、質の高い看護を提供する。</p> <p>2. 研究計画書の内容の充実を図り継続性のある研究に取り組む。</p>	<p>1. 研究計画書のチェックと見直し及び発表までのサポートを行う。</p> <p>2. 院外研究発表への充実を図る。</p>	<p>1. 院内研究発表 ・平成22年11月18日(対象者卒後2年)4題提出 看護研究に関するアンケート調査(研究推進委員会) ・平成23年2月17日 6題提出</p> <p>2. 院外研究発表 ・第35回大阪府医師会夏期看護研修会(平成22年8月21日) 「退院に向けての実態調査 ～ペースメーカー埋め込み患者～」 ・第22回大阪府看護研究学会(平成22年10月2日) 「臍処置方法の検討」 ・第49回全国自治体病院学会(平成22年10月14・15日) 「ストーマ造設患者のQOL調査と当院の傾向」 ・日本看護協会府東支部看護研究会(平成23年2月25日) 「切断指で緊急手術を受けた患者への指導の一考察」</p> <p>3. 新人研修(平成22年12月3日) ・看護研究の意義、計画書の記入方法、論文の書き方、文献検索について(16名参加)</p>

2. 認定看護師の活動状況

領域	目的	計画	活動内容
救急看護	<ol style="list-style-type: none"> 救急蘇生ガイドによる心肺蘇生法の普及を図る。 救急医療現場において医師及び他の医療従事者と情報を共有し調整的役割を発揮する。 救急医療の資質向上を図る。 救急看護領域の発展に寄与する 	<ol style="list-style-type: none"> 院内で一次救命処置、二次救命処置研修を開催する。 委員会活動を通じて救急医療の構築をする。 院内ACLS研修を行う。 院外活動に参加し救急看護の啓蒙活動を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> 外来看護婦を対象に一次救命、二次救命処置研修を年二回延べ108名に行った。 ・教育委員会からの依頼で新規採用看護師22名に一次二次救命処置研修を行った。 ・臨床検査技師、放射線科技師20名に対し一次救命技術指導を行った。 外来運営委員会、救急運営委員会、外来主任会、危機管理マニュアル部会に委員として参加し、救急医療の現状と問題点を共有し救急医療の構築に参加している。 ・防災訓練の企画運営に参画し防災マニュアルの検証を行っている ACLS大阪の協力を得て、院内でACLS研修を開催し、医師5名看護師13名が参加した。 院外研修に参加した。 ・中河内救急医療懇話会 ・平成22年度救急医療週間大阪大会 ・日本救急看護学会 ・近畿救急看護学会 大阪府看護協会府東支部で一次救命処置研修にインストラクターとして参加した。 大阪府看護協会の一次救命処置研修にインストラクターとして2回参加した。
WOCナース (皮膚・排泄ケア認定看護)	<ol style="list-style-type: none"> 皮膚・排泄ケアの創傷・オストミー・失禁の3分野において専門的知識・技術を伝達し院内看護師のケア・アセスメント能力向上に努める。 医療チームと連携を図り、協同することで院内の問題解決・改善を図る。 地域連携(MSWを主体)の協力のもと入院中より退院後の患者の生活環境を整え生活環境改善ができるよう支援していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 術前・術後・退院後のストーマ造設患者への専門性の高い、QOL向上が図れる看護の実践を行う。 失禁患者の問題をアセスメントし、治療支援を行いQOL、可能な環境改善を行う。 褥瘡部会チーム・褥瘡委員会のスタッフとともに褥瘡予防の徹底と褥瘡患者へスキンケアおこなうとともに創傷管理を行い症状の改善にあたる。 創傷管理と共に、スキンケア指導をおこない各症状にあわせたケアの実施を行う。 ・フットケア ・リンパ浮腫ケア ・ストーマケア ・瘻孔ケア ・スキントラブル対応 専門分野での院内・院外教育を行う(実施したもの)。 	<ol style="list-style-type: none"> 術前：事前に外来や病棟で面接を実施。不安の強い患者に対しては訴えを確認し患者の欲する内容に関して情報提供や不安の軽減がはかれるような介入を実施した。 術後：病棟スタッフとともに患者の状況や時期にあった装具選択を行い患者の苦痛や負担の軽減を図り、セルフケア指導と自立への支援を実施し(外科・泌尿器科・婦人科にて)必要時早期にMSWに退院調整を依頼した。 退院後：ストーマ外来で、治療経過とともに観察し必要時は助言や薬剤・放射線による副作用の出現を最小限にとどめながら自宅での生活支援やQOLの向上を考えそのステージにあった支援を実施した。 研修：JSSCR学会・ET/WOC学会・関西STOMA研究会に参加した。 外来および病棟で失禁患者の状態をアセスメントし、治療支援を行いながら、可能な環境改善を行った。また代用膀胱造設術後には排尿管理を行うとともにCICが必要な患者に対しては、排尿日誌を記載し、排尿時間の観察・評価・調整を行い自立支援を実施した(JSSCRにて事例研究発表を実施)。 委員会で院内褥瘡発生・持ち込み患者の検討会を行い現状の把握や今後の対処方法についてメンバー皆で検討。病棟・主治医に対しての助言やコメントをつけ、状況の改善に努めた。 3-1 院内研修 院内褥瘡研修を2回/年 実施(講師依頼)。 3-2 研修:日本褥瘡学会・近畿褥瘡学会に参加した。 創傷管理と共に、スキンケア指導を実施 4-1 フットケア：静脈性下腿潰瘍・動脈性血栓症による潰瘍(難治性潰瘍・糖尿病指導料 1回/月) 4-2 リンパ浮腫ケア：大腸がん・子宮がん術後のリンパ浮腫患者に、マッサージ方法の指導及び弾性ストッキングの紹介を実施した。(指導料：術後・退院1ヵ月後に各1回) 4-3 ストーマケア：外来で医師の指示のもと在宅療養指導管理料・ストーマ処置料をいただき、ケアを実施した。 4-4 瘻孔ケア：術後必要時にパウチングやVAC療法を実施した。 4-5 スキントラブル対応：小児・術後便失禁など肛門部の糜爛。抗がん剤使用時の副作用に対するセルフケア指導の実施した。(外科・形成外科・整形外科・婦人科・泌尿器科対応) 院内：新人褥瘡教育研修を2回/年実施した。(教育委員主催) 学生教育:院内看護臨地実習生に対してストーマ講習を実施した。 院外：関西STOMA講習会で講習を実施した。

領域	目的	計画	活動内容
緩和ケア	<p>1. 医療チームと連携を図り、協同することで緩和ケアを必要としている患者の問題解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者・家族の苦痛に対して専門的知識を用いてアセスメントを行い看護職員に対し助言・指導を行う。 <p>2. 緩和医療に関する最新知識の情報取得および提供を行う。</p>	<p>1. 緩和ケアでのラウンドを1回/週行い、緩和ケアを必要としている患者への精神的・身体的サポートを行う。</p> <p>2. 緩和ケアに関する研修への参加と院内での勉強会を企画する。</p>	<p>1. 毎週水曜日に担当病棟ラウンドを行い、年間約 60 件の患者へ疼痛へのマネジメントや精神的援助介入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和チームに依頼があった患者には疼痛のアセスメントを行い関わる時間が持てた。しかし、依頼の無いがん患者には独自に関わる事が出来なかった。今後の課題である。 ・ラウンド内容としては <ul style="list-style-type: none"> ①疼痛コントロールの状況を確認する。 ②がん患者さんの入院状況の把握（病状・告知の内容について・今後の治療方針など） ③口腔ケアについての援助・指導 ④リンパ浮腫の患者さんへのセルフケア指導 ⑤化学療法・放射線療法を受けている患者さんへの心理的なサポートなどを行った。 <p>2. 教育実施 院内看護師への教育企画：勉強会を開催し、参加者は 29 名であった。参加者を増やすには開催時間や内容など検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員対象の研修では外部講師を依頼した。 ・認定看護師が勤務する病棟スタッフへは看護場面を通じて疼痛緩和に使用する薬剤の知識やオピオイドの使い方、レスキュードーズの使用方法についてレクチャーした。 ・開院 60 周年記念講演会・市民向け特設コーナー『「緩和ケア」ってなあ〜に？』にて緩和ケアチーム活動のアピールを行い、市民の方からの相談にも応じた。 ・病棟看護師からの相談には電話で対応した。

事務局の現況

事務局企画運営課の現況

1. スタッフ

局長	福田 一成
次長兼課長	鶴田 洋介
参事	山本 佳司、山内 雅之（兼企業出納員）
課長補佐	朴井 晃、松倉 信裕（兼係長）、永井 哲男（嘱託員）
係長	植村 佳子、宮田 克爾、小山 修司、山本 恵一
職員	11人

2. 業務内容

事務局企画運営課は3つの係で病院事務業務を行っている。各係の業務内容は以下の通り。

1) 企画運営係

病院事業の企画運営及び事業計画に関する業務、PFI事業に関する業務、医療法その他関係法令に基づく諸手続きに関する業務、医療事故及び医事紛争並びに医事業務の総括に関する業務、医療情報開示に関する業務、総合医療情報システムの総括に関する業務、施設の管理の総括に関する業務、公印の管理及び文書事務に関する業務、調査・統計に関する業務、その他病院の庶務に関する業務

2) 経理係

病院事業の経営分析及び財政計画に関する業務、予算・決算及び出納検査等企業会計に関する業務、資金計画に関する業務、資産及び物品等の会計事務の検査及び指導連絡に関する業務、収入及び支出の審査に関する業務、現金出納その他会計事務に係る企業出納員所管事務の補助に関する業務、その他病院の経理に関する業務

3) 人事係

職員の人事及び給与に関する業務、職員の服務・研修及び福利厚生に関する業務、職員団体及び労働組合との連絡に関する業務、臨床研修に関する業務

3. 業務体制・総括

事務局では、平成22年度に新たな試みとして診療局より1名の医療職（薬剤師）を配置し、業務体制を強化しつつ、総勢22名で病院事務業務を行った。また、平成22年度の主な事業として以下のことを行った。

- ・病院改革プランに基づく経営健全化の取り組み
- ・八尾市立病院開院60周年記念講演会の開催及び60周年記念誌の発行
- ・院内TQM活動（2年目）
- ・市災害医療センターとして大規模災害時のトリアージ訓練の実施

- ・研修医確保にむけた院内会議の設置及び研修医対象の合同説明会への参加
- ・地域医療支援病院の承認に向けた院内委員会の立ち上げ
- ・がん診療連携クリティカルパスの導入に向けた調整
- ・総合医療情報システムの更新に向けた調整
- ・P F I 事業検証結果に基づいた改善の取り組み
- ・病院P F I 連絡協議会への参加による病院P F I に関する情報交換

4. 会議

- ・大阪府公立病院協議会定期総会
- ・大阪府公立病院協議会理事会
- ・大阪府公立病院協議会事務（局）長会議
- ・大阪府公立病院協議会理事・理事病院事務（局）長合同会議
- ・大阪府自治体病院開設者協議会定時総会
- ・全国自治体病院協議会理事・幹事・代議員・支部長・支部事務局長合同会議
- ・全国自治体病院協議会事務長部会
- ・全国病院事業管理者・事務責任者会議
- ・全国自治体病院協議会近畿・東海地方会議
- ・全国公立病院連盟近畿・中国・四国支部総会
- ・大阪府がん診療連携協議会
 - 地域クリティカルパス部会
 - がん登録部会
 - 緩和ケア部会
 - がん診療情報提供のあり方検討部会

5. 研修

- ・全国自治体病院学会
- ・全国自治体病院協議会事務長部会研修会
- ・三府県公立病院事務長合同研修会
- ・大阪府公立病院協議会研修会
- ・医療情報学連合大会
- ・管理職研修
- ・中堅職員研修
- ・新規採用職員研修

P F I 事業の現況

八尾医療PFI株式会社（SPC）の現況

1. スタッフ

代表取締役（非常勤）	増田 尚紀	ゼネラルマネージャー	門井 洋二
ゼネラルマネージャー補佐	草刈 敦	ファシリティマネージャー	三谷 直行
ITマネージャー	坂本 清蔵	ITマネージャー補佐	竹内 良平
メディカルサポートマネージャー	山本 恵郎	メディカルサポートマネージャー	廣瀬 淳
財務マネージャー	小田 直子	常勤監査役	古東 文夫

2. 事業内容

八尾市立病院の維持管理・運営事業をPFI方式で運営している。事業内容は以下の通り。

- 1) 病院施設等の一部整備業務、専らSPC業務の用途となる設備等の整備業務
病院施設・設備の一部整備に対する改善提案業務
- 2) 建設・設備維持管理（ファシリティ・マネジメント）業務
設備管理、外構施設保守管理、警備、環境衛生管理、植栽管理
- 3) 病院運営業務（医療法に基づく政令8業務）
検体検査、滅菌消毒、食事の提供、医療機器の保守点検、医療ガスの供給設備の保守点検、洗濯、清掃
- 4) その他病院運営業務
医療事務、看護補助、物品管理・物流管理（SPD）、医療機器類の整備・管理、医療機器類の更新、総合医療情報システムの運営・保守管理、利便施設運営管理（食堂、売店等）、一般管理（経営改善提案含む）、廃棄物処理関連、その他（危機管理・健診センター・電話交換・図書室運営、会議室管理・院内保育・その他サービス）

3. 事業総括・実績

平成22年度は「要求水準に対する主体的な視点を持った活発な取り組みの実践」「病院の一部門（部署）・一職員として機能」の2つを基本方針として掲げていた。その基本方針をベースに、平成22年度の重点課題として以下に取り組んだ。

1) 八尾市立病院改革プランの実践

①診療報酬請求精度の向上

平成22年4月の診療報酬改定に伴い、診療報酬委員会やDPCワーキングチームなどの活動を通じて、新たな加算・指導管理料の算定や適切な診療報酬の請求に努めた。その結果、改定時の厚生労働省の提示による「医科入院3.03%、医科外来0.31%アップ」に対し、診療単価ベースで「入院単価6.66%、外来単価3.11%アップ」となった。

②材料費（診療材料・医薬品）の縮減

PFI事業者だけでなく現場の医療職等、病院全体で「後発医薬品の購入検討」「診療材料の削減活動」に積極的に取り組んだ結果、材料費の対医業収益比率は目標の19.8%に対し19.1%の実績となった。

③光熱水費の縮減

院内に対する呼びかけだけでなく、「警備巡回時の消灯・空調停止の確認」「院内各所への節電・節水のステッカー貼付」「灌水装置の改良（自動→手動）」「電球のLED化」「コ・ジェネシステムの運転見直し（冬期1機・夏期2機運転）」等の対策に取り組んだ。

④経営支援機能の評価

病院経営・運営支援としては、経営指標の集計・幹部会議等への提出・説明、運営課題についての提案実施に取り組んだ。特に平成22年度は、地域医療支援病院に向けた要件整備・課題整理を提案し推進に貢献した。また広報支援として、通常の広報活動・広報誌の発刊以外に、市政日より12月号と1月号に「病院だより」を掲載し、病院機能のPRに努めた。

2) SPCによるマネジメント機能の強化

①協力企業とのコミュニケーション強化

「問題発生ベースの業務管理」から「課題発見型の業務管理」への移行を目指し、SPCと協力企業との定例ミーティングの実施や毎月のSPC全体会議の開催を行った。

②業務仕様・マニュアルの見直し

SPCと協力企業との定例会議の中で見直しが必要な業務について対応した。

3) PFI事業検証報告での指摘事項への取り組み

①調達コストの改善

「1）－②材料費（診療材料・医薬品）の縮減」を参照。

②実施コストに改善の余地のある個別業務のコスト適正化

植栽管理、環境衛生管理業務においては平成23年度から業務範囲を縮小しサービス対価を縮減するよう協議を行った。また食事の提供業務においては、従来病院職員と業務分担していたものを、平成23年度から全面的にPFI事業で実施することとなった。

③経営状況に見合った業務の縮小（要求水準の見直し又は一部解除）

看護補助業務についてはその業務特性と「急性期看護補助体制加算」が新設されたことを勘案し、平成23年4月より病院直営業務とすることとなった。また、総合医療情報システムの運営におけるヘルプデスク（常駐オペレータ）運用についても24時間365日常駐体制から、平日日中のみの運用に変更を検討している（実施時期、運用時間については詳細検討中）。

④モニタリングシステムの見直しと個別業務の向上

平成22年度より新たに「SPC事業計画」の遂行状況のモニタリングを開始。毎月進捗を確認することにより、実施が遅延しているものや実施困難な計画についてタイムリーに把握し、原因の究明や改善の検討が可能になると考えている。

4) SPCの経営・運営体質の改善

SPCの経営については平成22年度時点で過去の累計損失を解消するに至った。このことにより、従来出資企業に様々な負担を依頼していた部分について、平成23年度以降は当初予定計画に近い予算計画を立てることが可能になった。また、経営体質が安定することにより、SPC運営に関する出資企業等の理解・協力も得やすくなっており、経営支援業務の充実等において積極的な施策・展開を推進していきたいと考えている。

経 営 状 況

1. 収益費用明細書（税抜）

(1) 収益の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考		
病院事業収益				9,598,836,682			
	医業収益			8,676,984,966			
		入院収益			5,656,433,441		
			入院収益		5,656,433,441		
		外来収益			2,373,783,526		
			外来収益		2,373,783,526		
		その他医業収益			646,767,999		
			室料差額収益		153,794,369		
			公衆衛生活動収益		11,666,143		
			医療相談収益		89,360,735		
			一般会計負担金		356,761,000		
			その他医業収益		35,185,752		
		医業外収益			873,859,169		
			受取利息及び配当金			1,950,777	
				預金利息		1,950,777	
			他会計補助金			787,347,000	
	一般会計補助金				787,347,000		
	補助金				19,310,000		
			国庫補助金		7,767,000		
			府補助金		11,543,000		
	その他医業外収益				65,251,392		
			不用品売却収益		125,998		
			その他医業外収益		65,125,394		
	特別利益				47,992,547		
		過年度損益修正益			11,286,397		
			過年度損益修正益		11,286,397		
		その他特別利益			36,706,150		
その他特別利益				36,706,150			

(2) 費用の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考	
病院事業費用	医療費用			9,849,933,710		
		給与費		4,653,011,709		
		給料		1,604,340,561		
		手当		1,676,926,549		
		賃金		230,840,256		
		報酬		350,018,356		
		法定福利費		592,888,987		
		退職給与金		197,997,000		
		材料費		1,654,592,550		
		薬品費		1,154,174,749		
		診療材料費		500,417,801		
		経費		1,925,773,516		
		厚生福利費		7,020,480		
		報償費		1,621,411		
		旅費交通費		237,714		
		職員被服費		279,480		
		消耗品費		552,542		
		消耗備品費		40,119		
		光熱水費		242,049,558		
		燃料費		149,191		
		食料費		132,376		
		印刷製本費		13,928,141		
		修繕費		32,420		
		保険料		38,209,756		
		借借料		11,675,248		
		委託料		1,599,371,264		
		通信運搬費		4,004,108		
		諸会費		1,542,000		
		手数料		3,441,363		
		負担金		909,971		
		交際費		52,571		
		雑費		523,803		
		減価償却費		964,979,368		
		建物減価償却費		222,940,077		
		建物附帯設備減価償却費		474,125,512		
		構築物減価償却費		11,451,878		
		器械備品減価償却費		256,238,386		
		車両減価償却費		223,515		
		資産減耗費		27,418,389		
		たな卸資産減耗費		6,256,182		
		固定資産除却費		21,162,207		
		研究研修費		23,475,868		
		研究材料費		1,536,670		
		謝金		47,619		
		図書費		7,300,084		
		旅費		9,731,319		
		研究雑費		4,860,176		
		医療外費用			570,401,857	
		支払利息及び企業債取扱諸費			335,089,101	
		繰延勘定償却			54,495,696	
		控除対象外消費税額償却			54,495,696	
		紛争処理費			1,250,000	
		雑費			1,250,000	
雑支出			179,567,060			
雑費			179,567,060			
(消費税雑支出計上分)						
特別損失			30,280,453			
過年度損益修正損			30,280,453			
過年度損益修正損			30,280,453			

2. 資本的収入及び支出明細書（税抜）

（1）資本的収入の部

（単位：円）

款	項	目	節	金額	備考
資本的収入	出資金			583,186,000	
				581,027,000	
		他会計出資金		581,027,000	
		一般会計出資金		581,027,000	
	補助金			2,159,000	
		府補助金		2,159,000	
		府補助金		2,159,000	

（2）資本的支出の部

（単位：円）

款	項	目	節	金額	備考
資本的支出	建設改良費			911,876,823	
				190,336,770	
		資産購入費		146,326,770	
		器械備品		146,326,770	
		工事費		44,010,000	
		工事請負費		44,010,000	
	企業債償還金			721,540,053	
		企業債償還金		721,540,053	
		企業債償還金		721,540,053	

3. 比較貸借対照表（税抜）

（単位：円）

項	目	平成23年3月31日	平成22年3月31日	増減
有形固定資産		17,607,421,450	18,403,226,255	△ 795,804,805
土地		3,465,722,244	3,465,722,244	0
償却資産		23,189,906,581	23,216,006,247	△ 26,099,666
減価償却累計額		△ 9,048,807,375	△ 8,279,102,236	△ 769,705,139
その他有形固定資産		600,000	600,000	0
無形固定資産		141,800	141,800	0
流動資産		2,667,155,869	2,400,953,783	266,202,086
現金預金		1,174,366,102	1,017,990,104	156,375,998
未収金		1,426,506,081	1,314,948,325	111,557,756
貯蔵品		44,830,635	46,743,268	△ 1,912,633
前払費用		18,087,015	16,446,050	1,640,965
前払金		3,366,036	4,826,036	△ 1,460,000
繰延勘定		683,724,733	738,220,429	△ 54,495,696
控除対象外消費税額		683,724,733	738,220,429	△ 54,495,696
資産合計		20,958,443,852	21,542,542,267	△ 584,098,415
固定負債		678,793,447	594,746,420	84,047,027
引当金		565,400,179	481,353,152	84,047,027
その他固定負債		113,393,268	113,393,268	0
流動負債		1,251,904,604	1,530,598,965	△ 278,694,361
未払金		1,218,693,678	1,499,739,935	△ 281,046,257
預り金		33,210,926	30,859,030	2,351,896
資本金		30,317,511,885	30,458,024,938	△ 140,513,053
自己資本金		12,086,367,277	11,505,340,277	581,027,000
借入資本金		18,231,144,608	18,952,684,661	△ 721,540,053
剰余金		△ 11,289,766,084	△ 11,040,828,056	△ 248,938,028
資本剰余金		865,951,400	863,792,400	2,159,000
欠損金		12,155,717,484	11,904,620,456	251,097,028
前期繰越欠損金		11,904,620,456	10,766,300,045	1,138,320,411
当期純損失		251,097,028	1,138,320,411	△ 887,223,383
当期純利益		-	-	-
負債資本合計		20,958,443,852	21,542,542,267	△ 584,098,415

4. 経営分析表

項 目	算 式	22年度	21年度
病 床 利 用 率	$\frac{\text{年延入院患者数 (118,714人)}}{\text{年延病床数 (138,700床)}} \times 100$	85.6 %	84.6 %
外 来 入 院 患 者 比 率	$\frac{\text{年延外来患者数 (189,186人)}}{\text{年延入院患者数 (118,714人)}} \times 100$	159.4 %	159.9 %
平均在院日数	$\frac{\text{年延在院患者数 (109,509人)}}{\{(\text{新入院数 } 9,261\text{人}) + (\text{退院数 } 9,205\text{人})\} \times 1/2}$	11.9 日	11.9 日
平均外来1人 当り通院回数	$\frac{\text{年延外来患者数 (189,186人)}}{\text{年延新来患者数 (36,763人)}}$	5.1 回	5.0 回
職員1人1日当り 患 者 数	入 院 $\frac{\text{年延入院患者数 (118,714人)}}{\text{年延職員数 (127,658人)}}$	0.9 人	0.9 人
	外 来 $\frac{\text{年延外来患者数 (189,186人)}}{\text{年延職員数 (127,658人)}}$	1.5 人	1.5 人
	合 計 $\frac{\text{年延入院、外来患者数 (307,900人)}}{\text{年延職員数 (127,658人)}}$	2.4 人	2.4 人
患者1人1日当り 診 療 収 入	入 院 $\frac{\text{入院収益 (5,656,433千円)}}{\text{年延入院患者数 (118,714人)}}$	47,648 円	45,132 円
	外 来 $\frac{\text{外来収益 (2,373,784千円)}}{\text{年延外来患者数 (189,186人)}}$	12,547 円	12,235 円
	合 計 $\frac{\text{入院、外来収益 (8,030,217千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (307,900人)}}$	26,081 円	24,892 円
職員1人1日当り 診 療 収 入	$\frac{\text{入院、外来収益 (8,030,217千円)}}{\text{年延職員数 (127,658人)}}$	62,904 円	59,872 円
患者1人1日当り 薬 品 費	投 薬 $\frac{\text{投薬薬品費 (104,603千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (307,900人)}}$	340 円	356 円
	注 射 $\frac{\text{注射薬品費 (886,094千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (307,900人)}}$	2,878 円	2,770 円
	その他 $\frac{\text{その他薬品費 (163,478千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (307,900人)}}$	531 円	481 円
	合 計 $\frac{\text{薬品費 (1,154,175千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (307,900人)}}$	3,749 円	3,607 円
薬品使用効率	$\frac{\text{薬品収入 (1,165,229千円)}}{\text{薬品払出原価 (990,697千円)}} \times 100$	117.6 %	118.7 %
医療材料消費率	$\frac{\text{医療材料費 (1,654,593千円)}}{\text{入院、外来収益 (8,030,217千円)}} \times 100$	20.6 %	20.8 %
医業収益に対する 医療材料費の割合	$\frac{\text{医療材料費 (1,654,593千円)}}{\text{医業収益 (8,676,985千円)}} \times 100$	19.1 %	19.2 %
医業収益に対する 給与費の割合	$\frac{\text{給与費 (4,653,012千円)}}{\text{医業収益 (8,676,985千円)}} \times 100$	53.6 %	57.0 %
病床100床当り 職 員 数	$\frac{\text{年度末職員数 (501.3人)}}{\text{年度末病床数 (380床)}} \times 100$	131.9 人	129.4 人
累積欠損金比率	$\frac{\text{累積欠損金 (12,155,717千円)}}{\text{医業収益 (8,676,985千円)}} \times 100$	140.1 %	144.4 %
不良債務比率	$\frac{\text{流動負債 (1,251,905千円) - 流動資産 (2,667,156千円)}}{\text{医業収益 (8,676,985千円)}} \times 100$	- %	- %

5. 財務分析表

項目	算式	22年度	21年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産 (17,607,563 千円)}}{\text{資産合計 (20,958,444 千円)}} \times 100$	84.0 %	85.4 %
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債(678,793千円)+借入資本金(18,231,145千円)}}{\text{負債・資本合計(20,958,444千円)}} \times 100$	90.2 %	90.7 %
固定比率	$\frac{\text{固定資産 (17,607,563 千円)}}{\text{自己資本金(12,086,367千円)+剰余金(△11,289,766千円)}} \times 100$	2,210 %	3,962 %
固定資産対長期資本比率	$\frac{\text{固定資産 (17,607,563 千円)}}{\text{資本金(30,317,512千円)+剰余金(△11,289,766千円)+固定負債(678,793千円)}} \times 100$	89.3 %	92.0 %
固定資産回転率	$\frac{\text{医業収益 (8,676,985 千円)}}{\text{〔期首固定資産(18,403,368千円)+期末固定資産(17,607,563千円)〕} \times 1/2}$	0.5 回	0.4 回
自己資本構成比率	$\frac{\text{自己資本金(12,086,367千円)+剰余金(△11,289,766千円)}}{\text{負債・資本合計(20,958,444千円)}} \times 100$	3.8 %	2.2 %
流動比率	$\frac{\text{流動資産 (2,667,156 千円)}}{\text{流動負債 (1,251,905 千円)}} \times 100$	213.0 %	156.9 %
現金比率	$\frac{\text{現金預金 (1,174,366 千円)}}{\text{流動負債 (1,251,905 千円)}} \times 100$	93.8 %	66.5 %
流動資産回転率	$\frac{\text{医業収益 (8,676,985 千円)}}{\text{〔期首流動資産(2,400,954千円)+期末流動資産(2,667,156千円)〕} \times 1/2}$	3.4 回	4.2 回
未収金回転率	$\frac{\text{医業収益 (8,676,985 千円)}}{\text{〔期首未収金(1,314,949千円)+期末未収金(1,426,506千円)〕} \times 1/2}$	6.3 回	6.3 回
総資本利益率	$\frac{\text{当年度経常利益 (△268,809 千円)}}{\text{〔期首総資本(21,542,542千円)+期末総資本(20,958,444千円)〕} \times 1/2}$	△1.3 %	△5.1 %
総収益対総費用比率	$\frac{\text{総収益 (9,598,837 千円)}}{\text{総費用 (9,849,934 千円)}} \times 100$	97.5 %	88.8 %
経常収益対経常費用比率	$\frac{\text{経常収益 (9,550,844 千円)}}{\text{経常費用 (9,819,653 千円)}} \times 100$	97.3 %	88.9 %
医業収益対医業費用比率	$\frac{\text{医業収益 (8,676,985 千円)}}{\text{医業費用 (9,249,251 千円)}} \times 100$	93.8 %	86.0 %
企業債償還額対減価償却費比率	$\frac{\text{企業債償還額 (721,540 千円)}}{\text{減価償却費 (964,979 千円)}} \times 100$	74.8 %	56.5 %
企業債償還額対料金収入比率	$\frac{\text{企業債償還額 (721,540 千円)}}{\text{料金収入 (8,030,217 千円)}} \times 100$	9.0 %	9.3 %
企業債利息対料金収入比率	$\frac{\text{企業債利息 (335,089 千円)}}{\text{料金収入 (8,030,217 千円)}} \times 100$	4.2 %	4.6 %
企業債元利償還額対料金収入比率	$\frac{\text{企業債元利償還額 (1,056,629 千円)}}{\text{料金収入 (8,030,217 千円)}} \times 100$	13.2 %	13.9 %
利子負担率	$\frac{\text{支払利息 (335,089 千円)}}{\text{有利子負債(0千円)+借入資本金(18,231,145千円)}} \times 100$	1.8 %	1.8 %
減価償却率	$\frac{\text{当年度減価償却費 (964,979 千円)}}{\text{償却資産 (23,189,907 千円)}} \times 100$	4.2 %	5.4 %

業 務 状 況

1. 患者状況

(1) 外来患者数

◆診療科別外来患者数

	①21年度	②22年度	差異②-①	対前年増減率
内 科	46,560人	46,039人	△521人	△1.12%
循 環 器 科	9,170人	9,653人	483人	5.27%
神 経 内 科	391人	497人	106人	27.11%
外 科	18,652人	18,806人	154人	0.83%
整 形 外 科	8,790人	8,682人	△108人	△1.23%
脳 神 経 外 科	1,513人	1,560人	47人	3.11%
産 婦 人 科	19,499人	19,819人	320人	1.64%
小 児 科	24,331人	24,072人	△259人	△1.06%
眼 科	8,703人	9,886人	1,183人	13.59%
耳 鼻 咽 喉 科	10,378人	11,035人	657人	6.33%
形 成 外 科	3,540人	3,393人	△147人	△4.15%
皮 膚 科	5,895人	4,917人	△978人	△16.59%
泌 尿 器 科	14,720人	16,109人	1,389人	9.44%
放 射 線 科	5,185人	4,740人	△445人	△8.58%
リハビリテーション科	73人	148人	75人	102.74%
麻 酔 科	4,349人	4,128人	△221人	△5.08%
歯科口腔外科	5,988人	5,702人	△286人	△4.78%
合 計	187,737人	189,186人	1,449人	0.77%

◆1日平均外来患者数(対前年比較)

	①21年度	②22年度	差異②-①	増減率
4-3月累計実績	787.8人	793.7人	5.9人	0.7%

◆初診外来患者数

	①21年度	②22年度	差異②-①	増減率
4-3月累計実績	37,787人	36,763人	△1,024人	△2.7%

◆1日平均初診外来患者数

	①21年度	②22年度	差異②-①	増減率
4-3月累計実績	156人	151人	△5人	△3.2%

◆初診率(初診外来患者数÷外来患者数)

	①21年度	②22年度	差異②-①
4-3月累計実績	20.1%	19.4%	△0.7%

(2) 入院患者数

◆診療科別入院患者数

病床数	①21年度	②22年度	差異(②-①)	対前年増減率
内 科 111	37,693人	39,514人	1,821人	4.83%
循 環 器 科 30	7,627人	8,075人	448人	5.87%
外 科 63	17,366人	18,695人	1,329人	7.65%
整 形 外 科 30	9,904人	8,113人	△1,791人	△18.08%
産 婦 人 科 39	10,871人	10,245人	△626人	△5.76%
小 児 科 45	13,514人	14,085人	571人	4.23%
眼 科 7	2,644人	2,472人	△172人	△6.51%
耳 鼻 咽 喉 科 15	6,563人	6,055人	△508人	△7.74%
形 成 外 科 8	1,265人	1,432人	167人	13.20%
皮 膚 科 2	83人	187人	104人	125.30%
泌 尿 器 科 20	8,334人	8,216人	△118人	△1.42%
麻 酔 科 5	14人	2人	△12人	△85.71%
歯科口腔外科 5	1,527人	1,623人	96人	6.29%
合 計 380	117,405人	118,714人	1,309人	1.11%

※病床数：ICU・救急病床を含む

◆病棟別 病床利用率(4月～3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
5階東	87.6%	84.8%	72.7%	76.2%	91.0%	85.4%	81.1%	90.3%	86.8%	89.6%	91.5%	92.4%	85.8%
5階西	79.1%	73.6%	69.1%	64.5%	74.9%	63.9%	77.8%	81.7%	75.4%	72.0%	78.8%	84.0%	74.5%
6階東	81.9%	82.2%	85.9%	85.4%	91.6%	85.7%	91.9%	88.0%	79.9%	82.4%	87.9%	95.8%	86.5%
6階西	100.8%	98.8%	86.0%	73.9%	82.1%	74.4%	81.3%	86.7%	90.2%	73.1%	79.9%	94.8%	85.2%
NICU	97.2%	88.7%	76.7%	44.6%	53.8%	71.1%	79.0%	80.6%	104.3%	82.3%	91.1%	98.4%	80.5%
7階東	79.3%	79.4%	82.4%	87.6%	88.4%	87.9%	86.3%	79.9%	82.3%	76.5%	85.8%	89.9%	83.8%
7階西	90.2%	84.3%	81.2%	84.4%	88.7%	89.4%	92.1%	90.4%	90.6%	94.2%	94.6%	94.2%	89.5%
8階東	92.1%	93.5%	86.4%	87.9%	92.6%	92.0%	90.7%	87.5%	83.2%	86.0%	97.0%	90.5%	89.9%
8階西	88.9%	83.8%	86.4%	80.8%	93.2%	89.5%	88.6%	88.7%	81.9%	89.0%	93.1%	92.1%	88.0%
ICU	88.0%	69.0%	88.0%	85.8%	74.2%	70.7%	80.0%	89.3%	88.4%	92.9%	77.9%	78.1%	81.9%
合計	87.6%	84.9%	81.5%	80.1%	87.6%	83.9%	86.4%	86.7%	84.3%	83.6%	89.0%	91.7%	85.6%

(3) 外来・入院別、診療科別、月別患者数

区分	月 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		人	人	人	人	人	人	人
外来	内科	3,739	3,377	3,902	4,009	4,048	3,664	3,726
	循環器科	857	758	839	808	819	775	825
	神経内科	36	31	41	38	45	51	42
	外科	1,566	1,511	1,619	1,679	1,559	1,622	1,582
	整形外科	755	690	830	671	819	757	697
	脳神経外科	144	132	143	104	115	139	139
	産婦人科	1,643	1,532	1,630	1,670	1,738	1,603	1,567
	小児科	2,072	2,164	2,063	2,011	1,946	1,536	1,826
	眼科	884	713	835	881	766	892	828
	耳鼻咽喉科	875	718	958	917	984	911	942
	形成外科	234	225	260	271	275	304	292
	皮膚科	502	461	396	449	437	352	458
	泌尿器科	1,233	1,231	1,372	1,394	1,417	1,290	1,341
	放射線科	379	358	488	455	412	364	349
	リハビリテーション科	8	2	11	11	21	15	14
	麻酔科	381	306	340	348	389	372	351
	歯科口腔外科	476	425	537	473	499	452	473
合計	15,784	14,634	16,264	16,189	16,289	15,099	15,452	

診療日数＝ 243 日(内科・循環器科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科)
(耳鼻咽喉科・形成外科・皮膚科・泌尿器科・放射線科・歯科口腔外科)

区分	月 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		人	人	人	人	人	人	人
入院	内科	3,090	3,061	2,787	2,936	3,523	3,293	3,335
	循環器科	662	596	657	604	649	644	581
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0
	外科	1,758	1,857	1,504	1,613	1,541	1,595	1,569
	整形外科	612	562	714	554	735	584	859
	脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0
	産婦人科	914	845	807	778	896	725	925
	小児科	1,383	1,453	1,146	950	1,002	957	1,125
	眼科	199	187	214	227	199	247	263
	耳鼻咽喉科	516	506	449	572	613	529	587
	形成外科	75	114	157	212	139	128	128
	皮膚科	0	7	1	45	39	17	3
	泌尿器科	626	624	645	784	856	679	678
	麻酔科	2	0	0	0	0	0	0
	歯科口腔外科	150	190	208	166	124	171	122
合計	9,987	10,002	9,289	9,441	10,316	9,569	10,175	

11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
					延患者数	1日平均患者数
人 3,825	人 4,162	人 3,999	人 3,593	人 3,995	人 46,039	人 189.5
823	846	744	774	785	9,653	39.7
37	42	44	45	45	497	10.1
1,532	1,594	1,415	1,389	1,738	18,806	77.4
683	716	641	642	781	8,682	35.7
140	121	131	123	129	1,560	11.0
1,655	1,705	1,624	1,645	1,807	19,819	81.6
1,965	2,204	2,074	1,822	2,389	24,072	99.1
764	758	768	827	970	9,886	40.7
951	1,042	837	844	1,056	11,035	45.4
305	305	276	304	342	3,393	14.0
353	432	332	329	416	4,917	20.2
1,445	1,319	1,246	1,380	1,441	16,109	66.3
457	387	293	370	428	4,740	19.5
21	10	5	12	18	148	3.0
318	357	309	296	361	4,128	17.0
461	521	407	441	537	5,702	23.5
15,735	16,521	15,145	14,836	17,238	189,186	793.7

142 日(脳神経外科)

49 日(神経内科)

50 日(リハビリテーション科)

11月	12月	1月	2月	3月	合 計		
					延患者数	1日平均患者数	平均在院日数
人 3,414	人 3,179	人 3,724	人 3,419	人 3,753	人 39,514	人 108.3	日 17.0
676	816	883	658	649	8,075	22.1	19.3
0	0	0	0	0	0	0	—
1,363	1,498	1,425	1,494	1,478	18,695	51.2	15.0
690	518	667	744	874	8,113	22.2	21.6
0	0	0	0	0	0	0.0	—
959	926	802	750	918	10,245	28.1	7.4
1,228	1,394	1,048	1,024	1,375	14,085	38.6	6.7
187	155	153	205	236	2,472	6.8	7.2
554	463	367	341	558	6,055	16.6	6.5
91	121	28	116	123	1,432	3.9	9.7
23	20	1	9	22	187	0.5	7.2
618	774	650	593	689	8,216	22.5	11.3
0	0	0	0	0	2	0.0	10.4
83	62	98	119	130	1,623	4.4	1.0
9,886	9,926	9,846	9,472	10,805	118,714	325.2	11.9

年間日数＝ 365 日

(4) 地域別患者数

◆外来患者数

年 度 地 域		21年度		22年度		対前年度増減	
		延患 者数	構 成 比 率	延患 者数	構 成 比 率	延患 者数	構 成 比 率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本庁地区	23,501	12.5	22,685	12.0	△ 816	△ 3.5
	龍華地区	32,880	17.4	31,873	16.7	△ 1,007	△ 3.1
	久宝寺地区	7,111	3.8	7,107	3.8	△ 4	△ 0.1
	西郡地区	2,318	1.2	2,217	1.2	△ 101	△ 4.4
	大正地区	9,884	5.3	10,238	5.4	354	3.6
	山本地区	18,017	9.6	16,803	8.9	△ 1,214	△ 6.7
	竹濑地区	5,072	2.7	5,393	2.9	321	6.3
	南高安地区	5,018	2.8	4,956	2.6	△ 62	△ 1.2
	高安地区	3,095	1.6	3,024	1.6	△ 71	△ 2.3
	曙川地区	11,598	6.2	11,447	6.1	△ 151	△ 1.3
	志紀地区	12,213	6.5	12,012	6.3	△ 201	△ 1.6
	(小計)	130,707	69.6	127,755	67.5	△ 2,952	△ 2.3
大阪市	平野区	25,578	13.6	29,423	15.6	3,845	15.0
	他の大阪市	3,254	1.8	3,630	1.9	376	11.6
	(小計)	28,832	15.4	33,053	17.5	4,221	14.6
府下市町村	柏原市	8,232	4.4	7,944	4.2	△ 288	△ 3.5
	藤井寺市	2,149	1.1	2,189	1.2	40	1.9
	東大阪市	8,917	4.8	9,253	4.9	336	3.8
	松原市	1,024	0.5	1,011	0.5	△ 13	△ 1.3
	羽曳野市	1,054	0.6	1,027	0.5	△ 27	△ 2.6
	富田林市	147	0.1	121	0.1	△ 26	△ 17.7
	堺市	860	0.4	859	0.5	△ 1	△ 0.1
	府下その他	1,903	1.0	1,969	1.0	66	3.5
	(小計)	24,286	12.9	24,373	12.9	87	0.4
他府県	奈良県	2,319	1.2	2,200	1.2	△ 119	△ 5.1
	和歌山県	39	0.1	237	0.1	198	507.7
	兵庫県	590	0.3	614	0.3	24	4.1
	その他府県	964	0.5	954	0.5	△ 10	△ 1.0
	(小計)	3,912	2.1	4,005	2.1	93	2.4
合 計	187,737	100.0	189,186	100.0	1,449	0.8	

◆入院患者数

年 度 地 域		21年度		22年度		対前年度増減	
		延患 者数	構 成 比 率	延患 者数	構 成 比 率	延患 者数	構 成 比 率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本庁地区	14,918	12.7	14,030	11.8	△ 888	△ 6.0
	龍華地区	17,883	15.2	16,961	14.3	△ 922	△ 5.2
	久宝寺地区	4,371	3.7	4,341	3.7	△ 30	△ 0.7
	西郡地区	1,972	1.8	1,424	1.2	△ 548	△ 27.8
	大正地区	5,173	4.4	5,689	4.8	516	10.0
	山本地区	12,462	10.6	11,209	9.4	△ 1,253	△ 10.1
	竹濑地区	2,960	2.5	3,013	2.5	53	1.8
	南高安地区	3,690	3.1	3,350	2.8	△ 340	△ 9.2
	高安地区	2,300	2.0	1,648	1.4	△ 652	△ 28.3
	曙川地区	7,406	6.3	7,055	6.0	△ 351	△ 4.7
	志紀地区	6,415	5.5	7,096	6.0	681	10.6
	(小計)	79,550	67.8	75,816	63.9	△ 3,734	△ 4.7
大阪市	平野区	17,284	14.7	20,632	17.4	3,348	19.4
	他の大阪市	2,599	2.2	2,773	2.3	174	6.7
	(小計)	19,883	16.9	23,405	19.7	3,522	17.7
府下市町村	柏原市	5,332	4.5	5,206	4.4	△ 126	△ 2.4
	藤井寺市	1,047	0.9	1,185	1.0	138	13.2
	東大阪市	6,025	5.1	7,045	5.9	1,020	16.9
	松原市	868	0.8	584	0.5	△ 284	△ 32.7
	羽曳野市	952	0.8	668	0.6	△ 284	△ 29.8
	富田林市	240	0.2	38	0.0	△ 202	△ 84.2
	堺市	402	0.4	375	0.3	△ 27	△ 6.7
	府下その他	954	0.8	1,545	1.3	591	61.9
	(小計)	15,820	13.5	16,646	14.0	826	5.2
他府県	奈良県	895	0.8	1,097	0.9	202	22.6
	和歌山県	43	0.0	104	0.1	61	141.9
	兵庫県	254	0.2	186	0.2	△ 68	△ 26.8
	その他府県	960	0.8	1,460	1.2	500	52.1
	(小計)	2,152	1.8	2,847	2.4	695	32.3
合 計	117,405	100.0	118,714	100.0	1,309	1.1	

(5) 診療科別救急取扱患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	患者数	610	786	606	856	892	732	708	723	896	1,155	755	711	9,430
	平日	122	91	119	174	185	155	126	126	156	303	134	116	1,807
	時外	216	240	232	291	341	227	234	254	271	192	279	291	3,068
	休日	168	345	131	229	196	206	214	203	326	460	200	183	2,861
	深夜	104	110	124	162	170	144	134	140	143	200	142	121	1,694
	(内搬送患者)	121	156	153	258	296	201	204	198	214	204	192	213	2,410
循環器科	患者数	15	13	15	16	14	13	14	3	1	0	9	11	124
	平日	7	7	10	8	10	11	10	3	1	0	5	7	79
	時外	3	3	3	5	3	2	2	0	0	0	4	1	26
	休日	3	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	3	12
	深夜	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7
	(内搬送患者)	9	6	4	8	8	9	6	1	0	0	6	5	62
神経内科	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	患者数	99	132	100	138	147	119	115	123	153	202	125	116	1,589
	平日	14	13	17	23	26	21	17	20	27	53	19	16	266
	時外	37	41	39	48	59	39	40	44	48	34	48	50	527
	休日	30	60	23	39	33	35	36	35	53	80	35	30	489
	深夜	18	18	21	28	29	24	22	24	25	35	23	20	287
	(内搬送患者)	18	24	24	39	46	31	31	33	37	36	30	32	381
整形外科	患者数	11	23	30	17	27	30	20	22	33	29	33	26	301
	平日	9	17	25	15	24	30	19	21	30	25	29	16	260
	時外	1	2	2	2	0	0	1	1	0	2	0	5	16
	休日	1	4	3	0	3	0	0	0	3	2	3	4	23
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	(内搬送患者)	8	13	23	13	18	22	18	17	30	24	30	23	239
脳神経外科	患者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
産婦人科	患者数	122	126	95	112	115	97	114	89	89	121	81	95	1,256
	平日	9	7	13	14	8	16	13	13	6	24	10	9	142
	時外	54	34	35	50	45	40	41	33	29	13	29	33	436
	休日	28	47	16	21	21	6	25	18	18	50	21	23	294
	深夜	31	38	31	27	41	35	35	25	36	34	21	30	384
	(内搬送患者)	4	5	7	5	5	3	7	6	3	5	1	5	56
小児科	患者数	747	1,015	724	856	719	486	689	703	856	960	735	794	9,284
	平日	64	65	77	66	81	27	60	46	68	123	42	45	764
	時外	443	558	425	498	390	311	394	384	477	451	463	540	5,334
	休日	92	257	98	120	135	69	103	163	121	223	95	109	1,585
	深夜	148	135	124	172	113	79	132	110	135	190	163	135	1,601
	(内搬送患者)	39	38	46	48	62	29	35	35	43	71	32	57	535
眼科	患者数	0	1	0	6	1	1	0	3	4	4	2	1	23
	平日	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	8
	時外	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1	1	6
	休日	0	0	0	2	0	0	0	2	3	1	1	0	9
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	4
耳鼻咽喉科	患者数	30	30	31	44	37	50	63	46	50	35	31	39	486
	平日	2	2	5	9	4	5	1	4	5	1	4	2	44
	時外	13	14	14	17	16	19	27	19	20	19	13	19	210
	休日	14	14	12	17	17	26	34	23	25	15	14	18	229
	深夜	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	(内搬送患者)	1	2	5	7	3	5	1	3	5	1	3	3	39
形成外科	患者数	4	7	10	6	6	9	10	7	7	4	6	6	82
	平日	4	6	9	6	6	9	9	6	7	4	6	3	75
	時外	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	5
	休日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	3	6	8	5	5	8	6	6	7	3	6	4	67
皮膚科	患者数	3	6	6	4	3	5	4	5	4	3	1	3	47
	平日	0	0	0	4	0	3	10	7	21	1	0	3	49
	時外	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	4
	休日	0	0	0	1	0	2	5	2	6	0	0	1	17
	深夜	0	0	0	0	0	0	5	5	15	1	0	0	26
	(内搬送患者)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
泌尿器科	患者数	2	8	6	9	9	7	8	8	3	4	6	4	74
	平日	1	3	4	4	7	2	3	6	0	0	3	2	35
	時外	0	1	1	3	0	3	3	0	1	0	1	1	14
	休日	1	4	1	0	1	1	1	2	1	4	2	1	19
	深夜	0	0	0	2	1	1	1	0	1	0	0	0	6
	(内搬送患者)	0	2	2	4	2	1	5	5	1	0	2	1	25
放射線科	患者数	0	9	1	0	0	1	0	0	12	0	0	0	23
	平日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	時外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休日	0	9	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	21
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	患者数	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	4
	平日	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	時外	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
歯科口腔外科	患者数	8	10	5	7	8	5	6	1	10	2	3	7	72
	平日	3	0	0	4	1	1	1	1	4	1	0	3	19
	時外	4	9	5	3	6	4	3	0	3	0	2	3	42
	休日	1	1	0	0	1	0	2	0	3	1	1	1	11
	深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(内搬送患者)	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	6
合計	患者数	1,649	2,161	1,623	2,072	1,975	1,553	1,758	1,735	2,135	2,519	1,786	1,813	22,779
	平日	235	213	280	328	353	280	260	247	304	537	252	220	3,509
	時外	772	902	757	920	860	647	751	738	856	712	840	947	9,702
	休日	338	744	285	430	407	343	421	451	580	838	372	373	5,582
	深夜	304	302	301	394	355	283	326	299	395	432	322	273	3,986
	(内搬送患者)	204	253	272	389	446	311	314	305	341	346	302	345	3,828
(内入院)	236	285	203	265	301	250	252	231	234	267	200	249	2,973	

(6) 紹介率

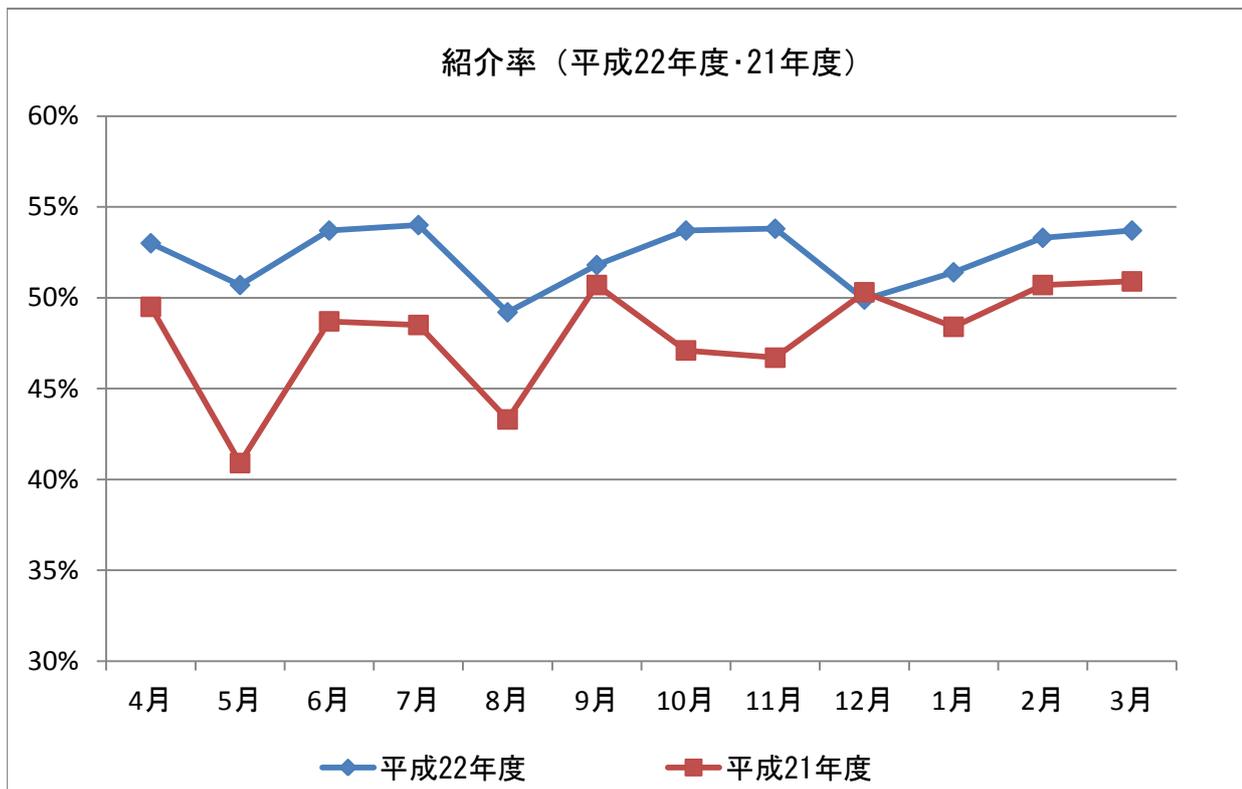
◆紹介率算出式

$$\frac{\text{初診紹介患者数} + \text{初診救急入院の患者数}}{\text{初診患者数} - \text{休日・夜間の初診患者数}} \times 100$$

◆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	初診紹介患者数(人)	初診救急入院患者数(人)	休日・夜間初診患者数(人)	紹介率
22年 4月	3,043	1,057	51	953	53.0%
5月	3,121	857	62	1,310	50.7%
6月	3,073	1,107	43	930	53.7%
7月	3,172	1,020	55	1,182	54.0%
8月	3,198	990	67	1,050	49.2%
9月	2,620	894	49	801	51.8%
10月	2,769	934	47	943	53.7%
11月	2,935	1,001	51	979	53.8%
12月	3,261	966	40	1,244	49.9%
23年 1月	3,431	866	66	1,618	51.4%
2月	2,898	905	53	1,101	53.3%
3月	3,242	1,116	51	1,069	53.7%
年度計	36,763	11,713	635	13,180	52.4%

※地域医療支援病院の紹介率の計算式



(7) 診療科別月別紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	54.7%	49.2%	59.9%	59.1%	52.3%	59.2%	58.3%	60.8%	57.9%	54.3%	59.6%	59.4%
神経内科	100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%
外科	50.7%	53.9%	43.6%	50.7%	47.6%	49.6%	47.3%	60.7%	44.4%	56.3%	47.6%	59.7%
整形外科	26.7%	28.7%	30.1%	25.5%	25.5%	37.1%	31.8%	26.7%	25.0%	23.5%	26.9%	31.0%
脳神経外科	23.1%	11.1%	26.9%	21.4%	19.0%	31.8%	27.6%	17.4%	18.2%	31.6%	33.3%	14.3%
産婦人科	31.5%	32.4%	29.8%	30.1%	37.0%	31.8%	40.4%	25.2%	25.2%	29.6%	37.7%	32.7%
小児科	44.9%	42.2%	46.2%	46.5%	36.8%	37.2%	45.1%	42.8%	42.7%	39.0%	45.3%	42.4%
眼科	32.0%	48.1%	35.5%	36.3%	24.7%	34.5%	48.6%	32.5%	30.1%	40.6%	31.0%	37.1%
耳鼻咽喉科	94.3%	94.4%	94.7%	97.0%	94.1%	93.7%	94.7%	90.8%	94.8%	95.6%	94.9%	89.7%
形成外科	68.0%	48.4%	35.5%	35.7%	39.0%	42.5%	41.0%	54.8%	55.6%	52.5%	36.8%	40.0%
皮膚科	16.0%	6.5%	15.2%	20.5%	10.0%	16.4%	8.1%	7.7%	16.4%	27.7%	23.1%	13.7%
泌尿器科	52.9%	53.7%	51.0%	55.2%	54.7%	55.4%	50.0%	60.2%	59.5%	58.6%	53.6%	46.2%
放射線科	98.3%	96.6%	98.5%	99.2%	97.7%	99.0%	98.8%	98.2%	100.0%	93.8%	97.8%	98.4%
リハビリテーション科	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
麻酔科	60.0%	80.0%	60.0%	60.0%	63.6%	100.0%	100.0%	60.0%	75.0%	100.0%	75.0%	75.0%
歯科口腔外科	74.5%	67.9%	70.1%	75.0%	70.8%	61.6%	69.9%	61.3%	59.1%	67.4%	68.3%	66.9%
合計	53.0%	50.7%	53.7%	54.0%	49.2%	51.8%	53.7%	53.8%	49.9%	51.4%	53.3%	53.7%

(8) 逆紹介率

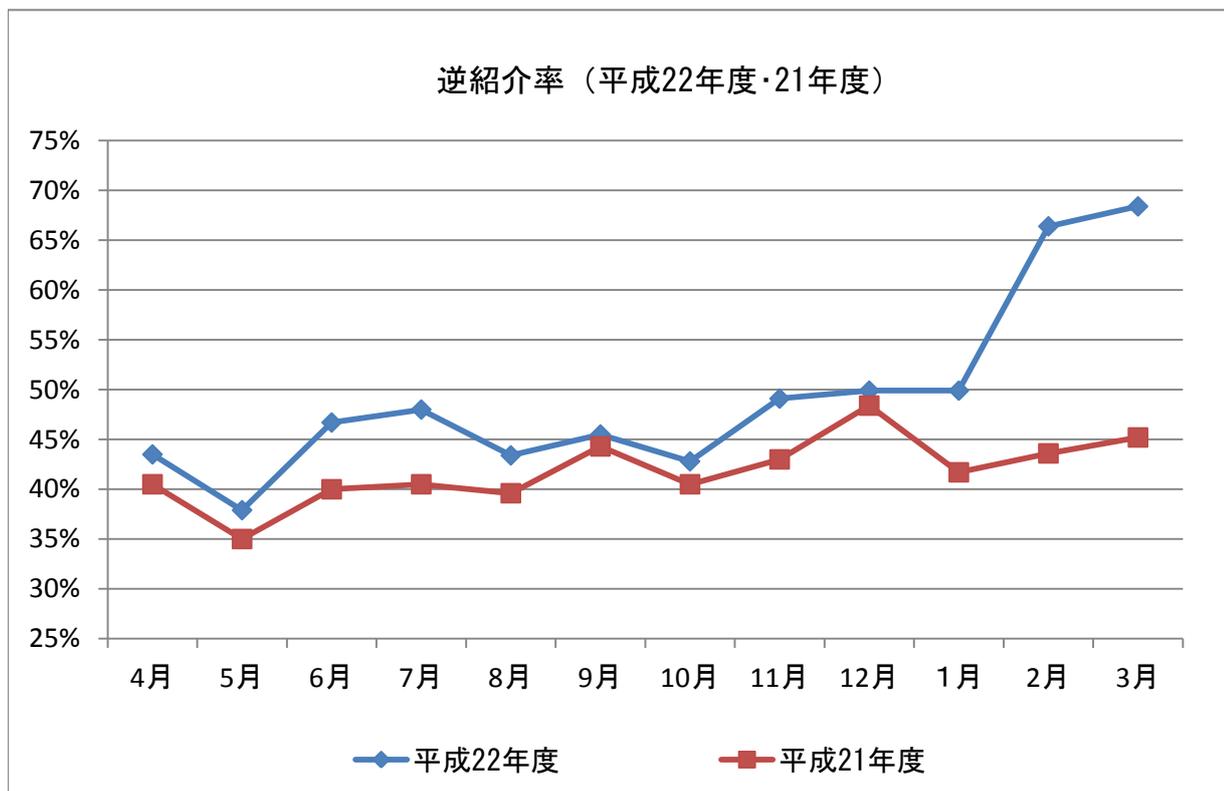
◆逆紹介率算出式

$$\frac{\text{診療情報提供書を算定した患者数}}{\text{初診患者の数} - \text{休日・夜間の初診患者}} \times 100$$

◆逆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	休日・夜間初診患者数(人)	診療情報提供数(人)	逆紹介率
22年 4月	3,043	953	910	43.5%
5月	3,121	1,310	687	37.9%
6月	3,073	930	1,001	46.7%
7月	3,172	1,182	956	48.0%
8月	3,198	1,050	932	43.4%
9月	2,620	801	828	45.5%
10月	2,769	943	782	42.8%
11月	2,935	979	961	49.1%
12月	3,261	1,244	1,006	49.9%
23年 1月	3,431	1,618	904	49.9%
2月	2,898	1,101	1,194	66.4%
3月	3,242	1,069	1,487	68.4%
年度計	36,763	13,180	11,648	49.4%

* 地域医療支援病院の紹介率の計算式



2. 診療収益状況

(1) 医業収益（外来）

◆診療科別 外来収益・患者数・単価（4-3月累計）

	外来収益 (円)	占有率 (%)	患者数 (人)	占有率 (%)	1人1日 単価 (円)
内 科	639,370,331	26.9	46,039	24.4	13,888
循環器科	81,311,202	3.4	9,653	5.1	8,423
神経内科	3,100,175	0.1	497	0.3	6,238
外 科	442,834,613	18.7	18,806	9.9	23,548
整形外科	61,079,721	2.6	8,682	4.6	7,035
脳神経外科	17,664,428	0.7	1,560	0.8	11,323
産婦人科	93,493,246	3.9	19,819	10.5	4,717
小 児 科	415,783,432	17.5	24,072	12.7	17,272
眼 科	94,886,474	4.0	9,886	5.2	9,598
耳鼻咽喉科	94,643,126	4.0	11,035	5.8	8,577
形成外科	23,167,979	1.0	3,393	1.8	6,828
皮膚科	20,880,811	0.9	4,917	2.6	4,247
泌尿器科	230,697,071	9.7	16,109	8.5	14,321
放射線科	89,580,628	3.8	4,740	2.5	18,899
リハビリテーション科	456,764	0.0	148	0.1	3,086
麻 酔 科	13,242,707	0.6	4,128	2.2	3,208
歯科口腔外科	51,590,818	2.2	5,702	3.0	9,048
合 計	2,373,783,526	100.0	189,186	100.0	12,547

(2) 医業収益（入院）

◆診療科別 入院収益・患者数・単価（4-3月累計）

	入院収益 (円)	占有率 (%)	患者数 (人)	占有率 (%)	1人1日 単価 (円)
内 科	1,366,301,448	24.2	39,514	33.3	34,578
循環器科	403,467,844	7.1	8,075	6.8	49,965
神経内科	0	0.0	0	0.0	—
外 科	1,077,708,824	19.1	18,695	15.7	57,647
整形外科	404,605,652	7.2	8,113	6.8	49,871
脳神経外科	0	0.0	0	0.0	—
産婦人科	607,688,255	10.7	10,245	8.6	59,316
小 児 科	807,044,432	14.3	14,085	11.9	57,298
眼 科	113,785,236	2.0	2,472	2.1	46,030
耳鼻咽喉科	312,146,112	5.5	6,055	5.1	51,552
形成外科	114,072,092	2.0	1,432	1.2	79,659
皮膚科	5,633,367	0.1	187	0.2	30,125
泌尿器科	368,988,097	6.5	8,216	6.9	44,911
麻 酔 科	202,040	0.0	2	0.0	101,020
歯科口腔外科	74,790,042	1.3	1,623	1.4	46,081
合 計	5,656,433,441	100.0	118,714	100.0	47,648

◆外来収益（対前年比較）

（単位：円）

	①21年度	②22年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	2,296,944,936	2,373,783,526	76,838,590	3.3%

◆入院収益（対前年比較）

（単位：円）

	①21年度	②22年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	5,298,751,192	5,656,433,441	357,682,249	6.8%

◆外来患者数（対前年比較）

（単位：人）

	①21年度	②22年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	187,737	189,186	1,449	0.8%

◆入院患者数（対前年比較）

（単位：人）

	①21年度	②22年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	117,405	118,714	1,309	1.1%

◆外来1日1人単価（対前年比較）

（単位：円）

	①21年度	②22年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	12,235	12,547	312	2.6%

◆入院1日1人単価（対前年比較）

（単位：円）

	①21年度	②22年度	差異(②-①)	増減率
4-3月累計実績	45,132	47,648	2,516	5.6%

(3) 診療科別診療収益

区分 診療科	外来収益		入院収益		その他医業収益	合計	
	金額(円)	比率(%)	金額(円)	比率(%)	金額(円)	金額(円)	比率(%)
内科	639,370,331	26.9%	1,366,301,448	24.2%	---	2,005,671,779	24.1%
循環器科	81,311,202	3.4%	403,467,844	7.1%	---	484,779,046	5.8%
神経内科	3,100,175	0.1%	0	0.0%	---	3,100,175	0.0%
外科	442,834,613	18.7%	1,077,708,824	19.1%	---	1,520,543,437	18.3%
整形外科	61,079,721	2.6%	404,605,652	7.2%	---	465,685,373	5.6%
脳神経外科	17,664,428	0.7%	0	0.0%	---	17,664,428	0.2%
産婦人科	93,493,246	3.9%	607,688,255	10.7%	---	701,181,501	8.4%
小児科	415,783,432	17.5%	807,044,432	14.3%	---	1,222,827,864	14.7%
眼科	94,886,474	4.0%	113,785,236	2.0%	---	208,671,710	2.5%
耳鼻咽喉科	94,643,126	4.0%	312,146,112	5.5%	---	406,789,238	4.9%
形成外科	23,167,979	1.0%	114,072,092	2.0%	---	137,240,071	1.7%
皮膚科	20,880,811	0.9%	5,633,367	0.1%	---	26,514,178	0.3%
泌尿器科	230,697,071	9.7%	368,988,097	6.5%	---	599,685,168	7.2%
放射線科	89,580,628	3.8%	0	0.0%	---	89,580,628	1.1%
リハビリテーション科	456,764	0.0%	0	0.0%	---	456,764	0.0%
麻酔科	13,242,707	0.6%	202,040	0.0%	---	13,444,747	0.2%
歯科口腔外科	51,590,818	2.2%	74,790,042	1.3%	---	126,380,860	1.5%
室料差額収益	---	---	---	---	153,794,369	153,794,369	1.9%
公衆衛生活動収益	---	---	---	---	11,666,143	11,666,143	0.1%
医療相談収益	---	---	---	---	89,360,735	89,360,735	1.1%
その他の医業収益	---	---	---	---	35,185,752	35,185,752	0.4%
合計	2,373,783,526	100.0%	5,656,433,441	100.0%	290,006,999	8,320,223,966	100.0%

3. TQM活動

◆目的

八尾市立病院では、21年度よりTQM活動を実施している。この活動は、患者さんの快適・満足を感じていただける医療・環境を創り上げていくために、医師・看護師をはじめ院内全スタッフでチームごとにテーマを設けて取り組み、医療の質や患者さんの満足度を向上させるために、チームの成果を病院全体で定着化させることが目的である。

◆発表チーム

22年度は特別招待の市立吹田市民病院地域医療連携部、医療相談室を含む16チームによる発表となった。

	チーム名	部署	発表内容
1	タイムキーパーガールズ	5階東病棟	時間内の指示受け確認を目指す
2	「N」仕分け人	新生児集中治療室	コスト意識による消耗品のコスト削減を目指す
3	統一化せんとくん	6階東病棟	入院オリエンテーションをパンフレット作成にて統一する
4	愉快な牧場の羊たち	集中治療部	コスト漏れ対策の事後入力をなくし、看護業務に専念
5	オペ場エピルン滞在期	中央手術部	麻酔科医との連携を密にすることで患者さんへの不安解消
6	ミツコのお薬逆ギレ調査隊	8階西病棟	定期処方の定着化、臨時・緊急処方の管理による薬切れ防止
7	脱！内服仕分け7西蓮舩隊	7階西病棟	薬切れ防止の為、16時以降の臨時処方の削減、定期処方化
8	皮膚トラブルなくし隊	8階東病棟	ドレーン挿入等のテープによる皮膚トラブルの防止
9	★★★★★（星五つ）	給食	味付け・盛付け等の見直しにより喫食率を向上
10	X線隊準備するンジャー	放射線科	放射線科検査での脱衣・アクセサリ外しの理解度を高める
11	劇団 地デジカ	7階東病棟	院内放送による入院オリエンテーションの時間短縮
12	お母さんを安心させ隊	6階西病棟	入院を快適に過ごす為、入院オリエンテーション冊子見直し
13	ニコニコ地域隊	地域医療連携室	紹介患者の非効率な待ち時間を解消する
14	外来おまわりさん's	外来	独立した院内案内図で患者さんを迷わず目的部署に誘導
15	やすっちと謎かけシスターズ	5階西病棟	感染予防の為、周産期センター等の面会制限の徹底
16	[特別招待] 市立吹田市民病院 地域医療連携部・医療相談室 受け入れサンQ隊		開業医からの紹介時、当日の診察依頼を5分以内、入院依頼を15分以内に受入可否を返事し、スムーズな受入を目指す

◆活動状況

【22年6月13日】 TQM活動研修会を実施

【22年9月17日】 第1回TQM活動実践指導ヒアリングを実施

【22年11月16日】 第2回TQM活動実践指導ヒアリングを実施

【23年2月19日】 TQM活動発表会を開催

今回の第2回TQM活動発表会では、最優秀賞には「劇団 地デジカ」、優秀賞には「脱！内服仕分け7西蓮舩隊」「やすっちと謎かけシスターズ」がそれぞれ受賞した。

また、各グループによりテーマごとに取り組む上で周知用のものや成果をまとめたポスターを作成し、発表会場前廊下に掲示してコンテスト形式で競い合い、発表会見学者による投票においても、最優秀賞を受賞した「劇団 地デジカ」がW受賞した。

今回のTQM活動は2回目ということもあり前年よりパワーアップした内容や発表になった。また、この活動も定着化しつつあり、組織横断的なマネジメントが少しずつ進んでおり、医療と経営の質の向上に寄与している。

4. チーム医療活動

◆目的

現在の医療は多くの職種が関わりながら進めるチーム医療が重要となっており、当院としては、チーム医療の推進を要としてとらえ、推進を図ってきた。その取り組みは最新の医療環境では重要であり、積極的に取り組むことにより、医療の質の向上、更には経営の改善にもつながる。

◆推進チーム

八尾市立病院チーム医療推進委員会（委員長：佐々木 洋院長）がチーム医療の推進を図り、21年度の6チームに3チーム（化学療法運営委員会、院内感染対策（ICT）部会、地域医療連携室）を加え、22年度は9チームにて活動を行った。

- ・栄養管理チーム（NST）委員会
- ・褥瘡対策委員会
- ・緩和ケアチーム委員会
- ・在宅医療支援部会
- ・化学療法運営委員会
- ・院内感染対策（ICT）部会
- ・がん相談支援センター
- ・診療情報管理室（がん登録）
- ・地域医療連携室

◆活動状況

【22年6月17日】 22年度の参加チーム、スケジュール、及び各チームの目標設定の確認を行った。

【22年11月9日】 各チームが設定した目標に対する活動状況を確認した。

【23年4月12日】 平成22年度チーム医療発表会を開催した。

4月12日チーム医療発表会はチーム医療推進委員会委員長の佐々木 洋院長のあいさつに始まり、17時30分から20時まで各チームとも熱心な発表が行われた。

チーム名	主な取り組み結果
栄養管理チーム委員会	栄養管理チームによる介入により症例数が61件となった
褥瘡対策委員会	スクリーニング強化や体圧分散寝具の機能にあった使用により新規褥瘡発生率実質0.3%以下となった
緩和ケアチーム委員会	緩和ケアチームによる新規介入件数を56件に増加した
在宅医療支援部会	退院調整が必要な患者に入院時スクリーニングを導入し、在宅療養パスを運用して円滑な医療連携を図り、23件の実績が上がった
化学療法運営委員会	外来では化学療法等を通院治療センターに集約した
院内感染対策部会	感染メンバーによる院内ラウンドの回数を増やし、アウトブレイク0を維持した
がん相談支援センター	大阪府がん診療拠点病院としてがんに関する相談、及び情報提供を行った
診療情報管理室	がん登録件数のアップ、死亡診断書からがん登録を実施した
地域医療連携室	近隣病院の機能情報を集約し、機能分担及び後方支援に役立てた

5. 大規模災害時のトリアージ訓練

◆目的

平成 22 年 9 月 12 日（日）の「八尾市防災訓練」に合わせ、当院で大規模災害時の対応訓練（患者搬送～トリアージ～応急救護）を実施した。

今回の訓練は「防災マニュアル」に記載されている大規模災害時の救急医療体制について、診療行為よりも基本的な流れの確認を重視し実施した。

◆訓練概要

実施日時 : 平成 22 年 9 月 12 日（日） 9:00 ～ 12:00

スケジュール :

9:00 大規模災害発生

9:00 院内災害本部の設置 ～ トリアージ ～ 応急救護所の設置

- ・院内対策本部を 2 階地域医療連携室前に設置。
- ・本部長は救急医療体制に必要な各機能の設置を指示し、要員の配置等を行う。
- ・院内トリアージセンターの設置[1 階まちなかステーション]。
- ・応急救護所（軽症者用、中・重症者用）の設置[1 階まちなかステーション]。
- ・後方ベッドの設置[4 階大会議室]。

9:45 八尾市災害対策本部へ受け入れ可能連絡（入院可能数等）

- ・院内対策本部連絡員により八尾市災害対策本部[八尾市防災訓練会場]に連絡。
- ・搬送者に関する事前情報（人数、症状等）が分かれば受け入れ部署（トリアージセンター・応急救護）に連絡。

10:30 救急隊による搬送患者到着 ～ トリアージ ～ 応急救護

- ・正面玄関前ロータリーに救急搬送者到着。正面玄関から患者をトリアージセンターに誘導（必要に応じてストレッチャー・車椅子）。
- ・トリアージセンターで受付要員がカルテを作成。
- ・医師・看護師にてトリアージ。トリアージ結果に基づき応急救護所（軽症者用、中・重症者用）に誘導・搬送する。
- ・軽症者は応急救護所にて診療後、帰宅（診療費用は後日精算）
- ・中症者は応急救護所にて診察後、医師の判断で入院か帰宅かの判断を行う。帰宅の場合、診療費用は後日精算とする。
- ・重症者は救急外来処置室へ搬送し緊急処置を行い、診察後、後方ベッドへ搬送。

11:00 訓練終了 ～ 撤収作業

11:30 ミーティング

◆今後の課題

今回の訓練は、新病院開院後初めて行ったもので、偽装患者担当の八尾市消防本部員の真剣さに圧倒されながらも、病院職員が必死に対応したことにより、所期の目的は達成できたと思われる。今後の課題としては、トリアージ設営場所等の十分な仕切り、患者受け入れの情報の共有化、患者受け入れ時のトリアージ体制の確立を図るほか担当職員がそれぞれの役割を十分理解する必要がある。また、医療機器、診療材料、薬剤の十分な配置を確認する必要があることも認識された。

6. 業績集

(1) 刊行論文、著書

題名	著者	雑誌名、巻号
自己免疫性肝炎の新しい国際診断基準の検証	金子 晃、久保光彦、福井弘幸、平松直樹、竹原徹郎、林 紀夫	日本消化器病学会誌 107 ; 732-742, 2010
慢性リンパ球性白血病の治療中に合併した慢性骨髄性白血病の一症例	服部英喜、桑山真輝、古武 剛、烏野隆博	癌と化学療法 2011年 第38巻 第2号
The clinical characteristics of CD7 ⁺ CD56 ⁺ acute myeloid leukemias other than MO	Suzuki R, Ohtake S, Takeuchi J, Nagai M, Kodera Y, Hamaguchi M, Miyawaki S, Karasuno T, Shimodaira S, Ohno R, Nakamura S, Naoe T	Int J Hematol(2010) 91 : 303-309
Intravascular large B-cell lymphoma presenting pulmonary arterial hypertension as an initial manifestation	Kotake T, Kosugi S, Takimoto T, Nakata S, Shiga J, Nagate Y, Nakagawa T, Take H, Katagiri S	Internal Medicine(2010) 49 : 51-54
慢性リンパ性白血病の治療中に合併した慢性骨髄性白血病の一症例	服部英喜、桑山真輝、古武 剛、烏野隆博	癌と化学療法
ハサミ(剪刀)	佐々木洋、橋本和彦、横山茂和、松山 仁、森田俊治、福島幸男	手術 64(6) : 717-721, 2010
肝・胆道系症候群(第2版)-その他の肝・胆道系疾患を含めて-Ⅱ肝臓編(外) XIV 肝細胞癌以外の肝腫瘍 肝内胆管癌(腺癌)	佐々木洋、橋本和彦、横山茂和	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No14、日本臨床社 : 188-192, 2010
A conundrum for randomized controlled trials: experience from a small hepatocellular carcinoma trial	Sato K, Sato T, Furuse J, Kasugai H, Konishi M, Kosuge T, Saito A, Sasaki Y, Takasaki K, Okusaka T	Jpn J Clin Oncol 40(10) : 949-953, 2010
2回の肝切除と2回の肋骨転移切除を施行した肝細胞癌の一例	橋本和彦、佐々木洋、横山茂和、平木将之、松本伸治、松山 仁、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝、竹田雅司	癌と化学療法 37(12) : 2664-2666, 2010
Clinical significance of ASB9 in human colorectal cancer	Tokuoka M, Miyoshi N, Hirota T, Mimori K, Tanaka F, Shibata K, Ishii H, Sekimoto M, Doki Y, Mori M	Int J Oncol 37(5) : 1105-1100, 2010
Assessing clinical benefit response in the treatment of gastric malignant ascites with non-measurable lesions: a multicenter phase II trial of paclitaxel for malignant ascites secondary to advanced/recurrent gastric cancer	Imamoto H, Oba K, Sakamoto J, Ishii H, Narahara H, Yumiba T, Morimoto T, Nakamura M, Oriuchi N, Kakutani C, Morita S, Shiozaki H	Gastric Cancer 14 : 81-90, 2011
Generic and epigenetic characteristics of human hepatocellular carcinoma	Taniguchi T, Yamada T, Sasaki Y, Katoh K	BMC Cancer 10 : 530, 2010
Liver metastasis from colorectal cancer with macroscopic portal vein tumor thrombosis: a case report and review of the literature	Tomimaru Y, Sasaki Y, Yamada T, Gotoh K, Noura S, Miyashiro I, Ohigashi H, Yano M, Ishikawa O, Imaoka S	J Med Case Reports 26(4) : 382, 2010
肩関節鏡手術のための麻酔と麻酔下徒手検査	武 靖浩	スキル関節鏡下手術アトラス肩関節鏡下手術 28-32
整形外科疾患 脱臼整復手技	三岡智規	今日の治療指針 701-702
インフルエンザAに合併した気管支粘液塞栓により呼吸不全が遷延した一学童例	濱田匡章、上田 卓、道之前八重、内田優美子、土井政明、柴田真理、大村真曜子、井崎和史、高橋 完、小角卓也、高瀬俊夫	小児救急医学会雑誌 9(1) : 41-45, 2010
陰性ミオクローヌスに対してエトクスシドが有効であった非定型良性部分てんかんの一例	大坪 麻、坂上哲也、高塚英雄、西野正人	小児科臨床 63(8) : 1823-1828, 2010
Altered immunoglobulin A and M levels associated with changes in BAFF and APRIL after administration of intravenous immunoglobulin to treat Kawasaki disease	Doi M, Takeda T, Sakurai Y, Kato J, Hayashi T, Fukuda K, Takase T, Shima M	J Incestig Allergol Clin Immunol 2010, Vol. 20(5) : 413-418
Transient immunoglobulin-complexed aspartate aminotransferase in infancy caused by maternal immunoglobulin G	Yasuhara H, Moriyama T, Higuchi B, Nishigucui M, Nakanou A, Sakaue T, Morimoto H, Sakagami Y, Sawamoto Y, Takase T	Pediatrics International 52(5) : 827-831, 2010

題名	著者	雑誌名、巻号
The Pharmacological Characteristics of Molecular-Based Inherited Salt-Losing Tubulopathies.	Nozu K, Iijima K, Kanda K, Nakanishi K, Yoshikawa K, Satomura K, Kaito H, Hashimura Y, Nonchoji T, Komatsu H, Kamei K, Miyashita R, Kugo M, Ohashi H, Yamazaki H, Mabe H, Otsubo A, Igarashi T, Matsuo M	The Journal of Clinical Endocrinology Metabolism 95(12) : E511-8, 2010
強皮症の血管障害による進行性足趾壊死に対するシルデナフィルによる治療経験	三宅ヨシカズ	日本下肢救済・足病学会誌 2(2) : 153-158, 2010
足の創傷に対するPRP療法	三宅ヨシカズ	多血小板血漿 (PRP) 療法入門 -キズ・潰瘍の治療からしわの美容治療まで- 編: 楠本健司
美容医療におけるPRP療法	三宅ヨシカズ	多血小板血漿 (PRP) 療法入門 -キズ・潰瘍の治療からしわの美容治療まで- 編: 楠本健司
尿路上皮癌	長沼俊秀、岩井友明、玉田 聡、田中智章、川嶋秀紀、上田真紀子	総合臨床 59(7) : 1670-1677, 2010
腎移植レシピエントの尿中アルブミン排泄量に対するアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬の効果	町田裕一、内田潤次、長沼俊秀、桑原伸介、岩井友明、仲谷達也	腎移植・血管外科 22(1) : 14-18, 2010
腎移植ムロモナブCD3により発作性心房細動を発症した一例	岩井友明、内田潤次、長沼俊秀、町田裕一、仲谷達也	今日の移植 23(3) : 434-436, 2010
自宅飼育オウムによってCAPDカテーテルが破損した腹膜透析患者の一例	芝野伸太郎、鎌田良子、長沼俊秀、武本佳昭、仲谷達也	腎と透析 69別冊 594-595, 2010
冠動脈バイパス術におけるフェンタニルとレミフェンタニルの比較	今宿康彦	日本集中治療医学会雑誌 17
新しい気道確保器具は老視麻酔科医の挿管に有用か	今宿康彦	臨床麻酔 34巻11号
Large epidermoid cyst in lateral floor of mouth and submandibular region	E. T. Isomura, Matsuoka Y, Hamaguchi M, Yamamoto Y, Yonemitsu K	Asian J. Of maxillofacial surgery 23 P99-101 20 Jan 2011
胃悪性リンパ腫に合併した胃印環細胞癌の一例	今田慎也、平尾素宏、藤谷和正、安井昌義、池永雅一、宮崎道彦、三島秀行、中森正二、竹田雅司、辻仲利政	日本外科系連合学会誌 35(1) : 34-38
自閉症の膀胱がん患者に対する臨床心理士の介入	長井直子、橋本和彦、井澤初美、山田智子、本多紀子、内藤 敦、井谷裕香、佐々木洋	日本緩和医療学会 Palliat Care Res 2010 ; Vol. 5 : pp.323-326
薬業連携(退院時共同服薬指導)支援のためのウェブシステムの開発	初田泰敏、小川雅史(大阪大谷大薬)、但馬重俊、長谷圭悟、小枝伸行(八尾市病院 薬剤部)、滝野清美、山村万里子、勝山千男(八尾市薬剤師会)、高岡由美、塩谷一裕(大阪府藤井寺保健所)、高田充孝、北小路学(近畿大薬)	日本医薬品情報学会総会・学術大会 Vol.13th Page.95 (2010.07.05)

(2)学会発表

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
NASHの組織学的線維化の進展に関与する因子の検討	佐藤雅子、渋川成弘、平松直樹、福井弘幸、竹原徹郎、林 紀夫	第46回日本肝臓学会総会 2010/5/27 山形市
Real time PCR法を用いたHCV-RNA測定系におけるC型肝炎に対するPeg-IFN/Ribavirin併用療法の治療効果予測	小瀬嗣子、平松直樹、福井弘幸、竹原徹郎、林 紀夫	第46回日本肝臓学会総会 2010/5/28 山形市
心タンポナーデで発症した胃癌の一症例	小西章仁、藤田 実、氣賀澤齊史、巽 理、上田高志、岩永佳久、福井弘幸、篠田幸紀、星田四朗、竹田雅司	第192回日本内科学会近畿地方会 2010/9/11 大阪市
多量の吐血を契機に発見された胃GISTの一例	柳本涼子、上田高志、小西章仁、氣賀澤齊史、井上浩一、藤田 実、巽 理、岩永佳久、福井弘幸、福島幸男、竹田雅司	第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18 大阪市
Genotype2型C型肝炎non-RVR症例に対するPeg-IFN/Ribavirin長期投与の有効性について	井上裕子、小瀬嗣子、平松直樹、福井弘幸、竹原徹郎、林 紀夫	第14回日本肝臓学会大会 2010/10/13 横浜市
慢性膵炎膵液瘻による膵性腹水に対して内視鏡的経乳頭膵管ドレナージ術が奏功した一例	上田高志、氣賀澤齊史、柳本涼子、井上浩一、藤田 実、巽 理、岩永佳久、福井弘幸	第52回日本消化器病学会大会 2010/10/15 横浜市
肝生検後に遅発性胆道出血を生じた一例	井上浩一、上田高志、小西章仁、氣賀澤齊史、柳本涼子、藤田 実、巽 理、福井弘幸、竹田雅司、吉田重幸	第94回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5 大阪市
潰瘍瘻痕により小腸狭窄をきたした一例	氣賀澤齊史、岩永佳久、井上浩一、柳本涼子、藤田 実、巽 理、上田高志、福井弘幸、横山茂和、竹田雅司、佐々木洋	第86回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2011/3/12 京都市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
外来通院患者の腎機能の季節変動性	星 步	第53回日本糖尿病学会年次学術集会 岡山市
肺結核感染が起因であった血球貪食症候群症例	原嶋一幸、佐守友博、寺田勝彦、服部英喜	第30回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会 2010/12/12 奈良市
慢性リンパ性白血病の治療中に合併した慢性骨髄性白血病	古武 剛、高森弘之、桑山真輝、服部英喜、鳥野隆博	第94回近畿血液学地方会 2010/11/6 京都
入院前投薬のアスピリンと硝酸薬は急性冠症候群の進展様式に異なる形で関与する	井城延明、橋村一彦、足立孝好、中川隆文、篠田幸紀、星田四朗	第58回日本心臓病学会学術集会 2010/9/17-19 東京
動脈硬化疾患発症前において頸動脈IMTと最も相関する動脈硬化指標の検討	篠田幸紀、橋村一彦、足立孝好、井城延明、中川隆文、星田四朗	第58回日本心臓病学会学術集会 2010/9/17-19 東京
肝細胞癌に対するわれわれの肝切除の歩みと今後の展望	佐々木洋、山田晃正、今岡真議	第110回日本外科学会定期学術集会 2010/4/8-10 名古屋
大腸癌切除困難症例に対する治療方針についての検討	森田俊治、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、福島幸男、森本 卓、野村 孝、佐々木洋	第110回日本外科学会定期学術集会 2010/4/8-10 名古屋
乳癌センチネルリンパ節生検術中1個のみ転移例の検討	森本 卓、野村 孝、松本伸治、平木将之、内藤 敦、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、森田俊治、福島幸男、佐々木洋	第110回日本外科学会定期学術集会 2010/4/8-10 名古屋
胆嚢壁肥厚性病変の悪性度診断における拡散強調画像(ADC値)の有用性の検討	橋本和彦、杉原英治、横山茂和、松山 仁、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝、佐々木洋	第22回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2010/5/26-28 仙台
皮下埋め込みチューブステントにて対処した胆管空腸吻合部良性狭窄の一例	横山茂和、佐々木洋、橋本和彦、平木将之、内藤 敦、松本伸治、松山 仁、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝	第22回日本肝胆膵外科学会・学術集会 2010/5/26-28 仙台
当院における乳癌術後晩期再発症例の検討	野村 孝、松本伸治、松山 仁、橋本和彦、鳥野隆博、森本 卓、竹田雅司	第18回日本乳癌学会総会 2010/6/24-25 札幌
濃厚な前治療歴がある再発乳癌二例へのラパニチブ使用経験	森本 卓、野村 孝、松本伸治、平木将之、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、福島幸男、竹田雅司	第18回日本乳癌学会総会 2010/6/24-25 札幌
当院における男性乳癌の検討	松本伸治、野村 孝、徳岡優佳、松山 仁、森本 卓、佐々木洋	第18回日本乳癌学会総会 2010/6/24-25 札幌
進行再発大腸癌に対するCapecitabine+Oxaliplatin(XELOX)療法の経験	森田俊治、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、福島幸男、森本 卓、野村 孝、鳥野隆博、佐々木洋	第65回日本消化器外科学会総会 2010/7/14-16 山口
The usefulness of diffusion-weighted MR imaging for detecting gallbladder carcinoma	Hashimoto K, Sasaki Y, Sugihara E, Yokoyama S, Tokuoka M, Matsuyama J, Morita S, Morimoto T, Fukushima Y, Nomura T	9th International Conference of The Asian Clinical Oncology Society 2010/8/25-27 Gifu City
切除不能食道癌症例に対する早期胃瘻造設術の意義	松山 仁、福島幸男、平木将之、松本伸治、徳岡優佳、橋本和彦、横山茂和、森田俊治、森本 卓、野村 孝、佐々木洋	第64回日本食道学会学術集会 2010/8/31-9/1 福岡
Management of single node metastasis in sentinel lymph node biopsy during breast cancer operation	Morimoto T, Nomura T, Takeda M	ESSO2010 2010/9/15-17 Bordeaux France
胆嚢壁肥厚性病変の悪性度診断におけるMRI拡散強調画像の有用性 -とくに胆嚢癌と黄色肉芽腫性胆嚢炎との鑑別について-	橋本和彦、佐々木洋、杉原英治、内藤 敦、平木将之、松本伸治、松山 仁、横山茂和、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝	第52回日本消化器病学会大会 2010/10/13-15 横浜
胃癌術後食の妥当性についての検討	松山 仁、福島幸男、平木将之、松本伸治、徳岡優佳、橋本和彦、横山茂和、森田俊治、森本 卓、野村 孝、佐々木洋	第8回日本消化器外科学会大会 2010/10/15-16 横浜
腹腔鏡下リンパ節生検により確定診断した悪性リンパ腫の一例	橋本和彦、佐々木洋、横山茂和、平木将之、松本伸治、徳岡優佳、松山 仁、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝	第23回日本内視鏡外科学会総会 2010/10/18-20 横浜
腹腔鏡補助下大腸手術での鏡視下臓器圧排用スポンジ(エンドラクター)の使用経験	森田俊治、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、森本 卓、福島幸男、野村 孝、佐々木洋	第23回日本内視鏡外科学会総会 2010/10/18-20 横浜
Multicenter phase II trial of 6 cycles Docetaxel plus cyclophosphamide as adjuvant chemotherapy for negative axillary lymph node breast cancer	Morimoto T, Masuda N, Nakayama T, Matsunami N, Nomura T, Ishitobi M, Kamigaki S, Yamamura J, Tsukamoto F	Excellence in Oncology 2010/11/18-20 Athens Greece
当院におけるステレオガイド下マンモトーム生検の成績と合併症対策	野村 孝、森本 卓、竹田雅司、平木将之、松本伸治、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、福島幸男、森田俊治、佐々木洋	第20回日本乳癌検診学会総会 2010/11/19-20 福岡
創感染予防対策としての創部洗浄の小さな工夫	平木将之、森田俊治、松本伸治、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、森本 卓、福島幸男、野村 孝、佐々木洋	第188回近畿外科学会 2010/11/20 大阪

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
腸間膜に発生したCastleman病の一例	松本伸治、橋本和彦、平木将之、徳岡優佳、松山 仁、横山茂和、森本 卓、野村 孝、森田俊治、佐々木洋	第72回日本臨床外科学会総会 2010/11/21-23 横浜
直腸癌低位前方切除術後に直腸精嚢瘻を合併した一例	平木将之、森田俊治、松本伸治、徳岡優佳、野村 孝、福島幸男、森本 卓、横山茂和、橋本和彦、松山 仁、佐々木洋	第72回日本臨床外科学会総会 2010/11/21-23 横浜
膵・胆道癌患者に対する緩和ケアチームの介入状況の検討	橋本和彦、佐々木洋、横山茂和、平木将之、松本伸治、徳岡優佳、松山 仁、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝	第72回日本臨床外科学会総会 2010/11/21-23 横浜
エネルギー充足率の改善を目指した胃癌術後食改良の取り組み	松山 仁、森本 卓、藤本史朗、西田明子	第26回日本静脈経腸栄養学会 2011/2/17-18 名古屋市
S-1による胃癌術後補助化学療法中止症例の検討	松山 仁、福島幸男、平木将之、松本伸治、橋本和彦、横山茂和、森田俊治、森本 卓、野村 孝、佐々木洋	第83回日本胃癌学会総会 2011/3/3-5 弘前市
「骨付き膝蓋腱を用いたACL再建術における移植腱の長さ変化:解剖学的長方形骨孔法とisometric法(等尺性円形骨孔法)との比較」	武 靖浩	第2回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
診断に苦慮した先天性梅毒の一例	大村真曜子、濱田匡章、内田賀子、塚元 麻、柴田真理、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第113回日本小児科学会学術集会 2010/4/23 盛岡市
非侵襲性陽圧換気療法が奏効した乳児R9ウイルス細気管支炎の二症例	内田賀子、濱田匡章、柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第102回日本小児科学会奈良地方会 2010/7/3 天理市
タール便と腹痛を訴え救急受診した口蓋扁桃摘出術後出血の一例	竹田洋子、濱田匡章、柳本嘉時、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第103回日本小児科学会奈良地方会 2010/10/23 橿原市
当院の一絨毛膜二羊膜(MD双胎)についての臨床的検討	道之前八重、竹田洋子、濱田匡章、柳本嘉時、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、内田賀子、芳賀大樹、大村真曜子、石川知美、土井政明、高瀬俊夫	第55回日本未熟児新生児学会 2010/11/7 神戸市
頭頸部領域に転移を来した腎癌の三例	伊藤理恵	第111回日本耳鼻咽喉科学会 2010/5/20 仙台
急性呼吸困難を呈したポリープ様声帯の一例	伊藤理恵	第315回日耳鼻大阪地方連合会 2010/12/4 大阪
頸部リンパ節腫脹と発熱を初発症状としたSLEの一例	森鼻哲生	第316回日耳鼻大阪地方連合会 2011/3/5 大阪
下肢潰瘍におけるMaggot治療の適応についての検討	三宅ヨシカズ	第53回日本形成外科学会総会 2010/4/7-9 金沢
感染・炎症と重症下肢虚血を合併したDiabetic foot症例にみる集学的救済治療体制の重要性	三宅ヨシカズ	第2回日本下肢救済・足病学会 2010/4/24-25 東京
脊損後褥瘡に対するQOLを重視した治療-PRPを使用した創傷治癒促進-	三宅ヨシカズ	第47回日本リハビリテーション医学会 2010/5/20-22 鹿児島
踵褥瘡に対するWound bed preparation-人工真皮貼付とPAT(Perifascial Areolarsue)移植の比較-	三宅ヨシカズ	第12回日本褥瘡学会学術集会 2010/8/20-21 千葉
PRP治療による慢性皮膚潰瘍の創収縮についての検討	三宅ヨシカズ	第40回日本創傷治癒学会 2010/12/2 東京
足病変治療における疼痛治療と心理的变化	三宅ヨシカズ	第9回日本フットケア学会学術集会 2011/2/13 福岡
外腹斜筋腱膜と皮膚移植による母指伸筋腱損傷の一期的再建	三宅ヨシカズ	第29回日本臨床皮膚外科学会総会 2011/2/25-26 沖縄
手指・手背の伸筋腱欠損に対する皮弁を使用しない再建手術	三宅ヨシカズ	第97回日本形成外科学会関西支部学術集会 2011/3/12 滋賀
転移性腎癌に対する分子標的薬の治療成績	玉田 聡、川嶋秀紀、池本慎一、上水流雅人、仲谷達也	第98回泌尿器科学会総会 2010/4/29 岩手
正常血圧腎移植レシピエントの尿中アルブミン排泄量に対するARBの効果	北本興一郎、岩井友明、長沼俊秀、井口太郎、町田裕一、仲谷達也	第98回泌尿器科学会総会 2010/4/30 岩手
高齢者夫婦間preemptive腎移植の二例	町田裕一、内田潤次、北本興一郎、長沼俊秀、仲谷達也、岩井友明	第60回日本泌尿器科学会中部総会 2010/12/2 名古屋
腎移植患者における水痘罹患者例の検討	内田潤次、鎌田良子、北本興一郎、長沼俊秀、仲谷達也、岩井友明	第60回日本泌尿器科学会中部総会 2010/12/2 名古屋
腹腔鏡補助下副腎腫瘍摘出術中に換気不全に陥った一例	園部奨太	第56回日本麻酔科学会関西支部学術集会 2010/9/4 大阪

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
挿管困難が予想される経鼻挿管においてエアウェイスコープ(AWS)とgum elastic bougie (GEB)の併用が有用であった二例	清水彩洋子	第56回日本麻酔科学会関西支部学術集会 2010/9/4 大阪
原因不明の上気道閉塞の一例	園部奨太	第30回日本臨床麻酔学会 2010/11/4-6 徳島
Torsades de Pointsの麻酔経験	園部奨太	第38回日本集中治療医学会学術集会 2011/2/24-26 横浜
免疫抑制状態の肺炎患者に対し呼吸管理を行った一例	今宿康彦	第38回日本集中治療医学会学術集会 2011/2/24-26 横浜
統合失調症に対して内服加療中に水中毒と悪性症候群を併発したと考えられる	福田憲二	第38回日本集中治療医学会学術集会 2011/2/24-26 横浜
口腔定から頸部にかけて発生した巨大な類皮のう胞の一例	松岡裕大、濱口裕弘、磯村恵美子	第64回日本口腔科学会学術集会 2010/6/24-25 札幌
迅速診断時に良悪性の判別が困難であったadenomyoepitheliomaの一例	伊倉義弘、竹田雅司、岩佐葉子、上田真喜子	第99回日本病理学会総会 2010/4/27-29 東京
穿刺吸引細胞診が有用であった甲状腺への乳癌転移の一例	政岡佳久、福田文美、三瀬浩二、竹田雅司、野村 孝	第51回日本臨床細胞学会春季大会 2010/5/29 横浜
当院における乳癌穿刺吸引細胞診の成績	竹田雅司、政岡佳久、福田文美、森本 卓、野村 孝	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
35歳以上の乳房温存術後組織内照射	吉田 謙、田中英一、吉田岑雄、武中 正、山村 順、田中麻紀子、小川昌美、徳田由紀子、竹田雅司、児玉良典、眞能正幸、増田慎三	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
当院における男性乳癌の検討	松本伸治、野村 孝、森本 卓、竹田雅司、橋本和彦、松山 仁	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
センチネルリンパ節にmicrometastasisを認めた際、郭清すべきか	小川昌美、増田慎三、山村 順、田中麻紀子、苅田真子、児玉良典、竹田雅司、徳田由紀子、吉田 謙、眞能正幸、中森正二、辻仲利政	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
当院における乳癌術後晩期再発症例の検討	野村 孝、松本伸治、松山 仁、橋本和彦、鳥野隆博、森本 卓、竹田雅司	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
濃厚な前治療歴があるHER2陽性再発乳癌二例へのラパチニブ使用経験	森本 卓、野村 孝、松本伸治、松山 仁、橋本和彦、鳥野隆博、竹田雅司	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
術前針生検診断の精度と認容性	山村 順、増田慎三、田中麻紀子、小川昌美、苅田真子、児玉良典、眞能正幸、中森正二、辻仲利政、竹田雅司	第18回日本乳癌学会学術総会 2010/6/24-25 札幌
穿刺吸引細胞診にて組織型推定に苦慮した甲状腺腫瘍の一症例	三瀬浩二、政岡佳久、福田文美、竹田雅司	第49回日本臨床細胞学会秋季大会 2010/11/22 神戸
ミニシンポジウム 最適な術前化学療法を行うための組織採取	芝 英一、高原祥子、竹田雅司、中山貴寛、山村 順、杉江知治	第8回日本乳癌学会近畿地方会 2010/12/4 京都
コメディカルシンポジウム 「ここまで分かる心血管診断」「腎動脈エコー」	三木 俊	第19回日本心血管インターベンション治療学会 2010/8/22-24 仙台国際ホテル
動脈硬化疾患発症前における頸動脈IMTと最も相関する動脈硬化指標の検討	三木 俊	第51回日本脈管学会総会 2010/10/14-16 旭川グランドホテル
小児心因性難聴に対する心理的アプローチー早期回復例と慢性例の比較検討ー	長井直子	第7回日本小児心身医学会関西地方会 2011/1/23 大阪国際会議場(大阪市)
患者志向の退院時共同指導服薬指導への取り組み	但馬重俊	第14回近畿薬剤師学術大会 2010/11/7 奈良
八尾市立病院における退院時共同服薬指導への取り組み	長谷圭悟、小枝伸行、森本千穂、佐藤浩二、岡本和恵、但馬重俊、滝野清美、塩谷一裕、小川雅史、高田充隆	第32回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2011/1/22 兵庫
ストマ造設患者のQOL調査と当院の傾向	多田由佳	第49回全国自治体病院学会 2010/10/14-15 秋田県
臍処置方法の検討	沢井ゆかり	第22回大阪府看護研究学会 2010/10/2 大阪府
在宅尿路ストーマ保有者の健康関連QOL	古川智恵	第2回和歌山県立医科大学保健看護学会 2010/8/7 和歌山県
八尾市薬剤師会による退院時共同指導への取り組み	勝山千男、高島敬子、山村万里子、中野道雄、滝野清美、小枝伸行、長谷圭悟、但馬重俊、高岡由美、塩谷一裕	第43回日本薬剤師会学術大会 2010/10/10 長野
病院事業におけるPFI業務の実態調査	小枝伸行、中田亮太、宮田克爾、中野誠吾、朴井 晃	第49回全国自治体病院学会 2010/10/14 秋田
医療情報システム連動のチーム医療補助ツールの開発	小枝伸行、千種保子、大江洋介、鶴田洋介、福田一成、斉藤せつ子	第30回医療情報学連合大会 2010/11/18 静岡

(3)研究会発表

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
胆管チューブステントが逸脱を繰り返し十二指腸穿孔をきたした一例	氣賀澤齊史	第4回臨床消化器病 2010/5/8 大阪市
心タンポナーデで発症した胃癌の一症例	小西章仁	第5回中河内消化器病研究会 2010/6/5 大阪市
本院消化器内科における消化管癌に対する内視鏡治療の現況	岩永佳久	第5回中河内消化器病研究会 2010/6/5 大阪市
痔瘻による十二指腸狭窄・閉塞性黄疸に対しての消化管ステント・胆道ステント留置術で難渋した一症例	上田高志、氣賀澤齊史、柳本涼子、井上浩一、藤田 実、巽 理、岩永佳久、福井弘幸	第32回日本癌局所療法研究会 2010/6/11 奈良市
多量の吐血を契機に発見された胃GISTの一例	柳本涼子、上田高志、小西章仁、氣賀澤齊史、井上浩一、藤田 実、巽 理、岩永佳久、福井弘幸、福島幸男、竹田雅司	第16回中河内消化器病研究会 2011/2/26 八尾市
診断に苦慮した頸部腫瘤の一例	桑山真輝、服部英喜、古武 剛、烏野隆博	第39回北摂血液談話会 2010/6/26 大阪市
多彩な神経症状にて再発をきたしたランゲルハンス細胞組織球症の一例	服部英喜、桑山真輝、古武 剛、烏野隆博、藤田茂樹、辻本正彦、野口教彦、青笹克之	第11回大阪リンパ腫研究会 2010/11/13 大阪市
2回の肝切除と2回の肋骨転移切除を施行した肝細胞癌の一例	橋本和彦、佐々木洋、横山茂和、内藤 敦、平木将之、松本伸治、松山 仁、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝、竹田雅司	第31回日本癌局所療法研究会 2010/6/10 奈良
当院で経験した男性乳癌症例の検討	野村 孝、森本 卓、竹田雅司、平木将之、松本伸治、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、福島幸男、森田俊治、佐々木洋	第48回阪南乳腺疾患研究会 2010/8/21 大阪
門脈ガス血症四例の検討	平木将之、徳岡優佳、松本伸治、松山 仁、橋本和彦、森田俊治、森本 卓、福島幸男、野村 孝、佐々木洋	第13回近畿外科病態研究会 2010/11/13 大阪
診断に苦慮した肝門部胆管狭窄を来した症例	松本伸治、横山茂和、橋本和彦、佐々木洋	第9回専門医を目指す消化器外科セミナー 2010/11/19 大阪市
当院における男性乳癌の検討	松本伸治、野村 孝、平木将之、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、横山茂和、森本 卓、森田俊治、佐々木洋	大阪外科集談会 2010/11/27 大阪
当院における認知症を有する高齢者乳癌に対する治療経験	平木将之、野村 孝、森本 卓、竹田雅司、松本伸治、徳岡優佳、松山 仁、橋本和彦、横山茂一、福島幸男、森田俊治、佐々木洋	第49回阪南乳腺疾患研究会 2011/1/29 堺
ミノリピンが著効した紫斑病性腎炎の一男児例	柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、濱田匡章、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第43回中河内小児科談話会 2010/6/12 八尾市
一歳半健診にて発見されたクル病の一例	柴田真理、柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、石原 卓、濱田匡章、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第43回中河内小児科談話会 2010/6/12 八尾市
小児気管支喘息の検討	濱田匡章、柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第43回中河内小児科談話会 2010/6/12 八尾市
春期学校検尿異常者	高瀬俊夫、濱田匡章、柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓	第43回中河内小児科談話会 2010/6/12 八尾市
口蓋扁桃摘出術後にタール便と腹痛を訴え救急受診した急性出血の一例	濱田匡章、柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第44回中河内小児科談話会 2010/12/10 八尾市
MRI画像にて診断可能となった急性脳症の二例	塚元 麻、濱田匡章、柳本嘉時、竹田洋子、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第44回中河内小児科談話会 2010/12/10 八尾市
乳児RSウイルス細気管支炎に非侵襲性陽圧換気療法が奏効した二例	濱田匡章、柳本嘉時、竹田洋子、塚元 麻、柴田真理、石原 卓、井崎和史、道之前八重、上田 卓、高瀬俊夫	第44回中河内小児科談話会 2010/12/10 八尾市
当科におけるあぶみ骨手術症例の検討	森鼻哲生	大阪大学関連病院臨床研究会 2011/2/19 大阪
皮弁を使用しない手背部伸筋腱欠損に対する新しい再建法 -VASKgraft法(仮称)について-	三宅ヨシカズ	第16回形成外科手術手技研究会 2011/2/5 大阪
結核性腰筋膿瘍の二例	芝野伸太郎、岩井友明、上水流雅人、池本慎一	第32回大阪泌尿器科画像診断研究会 2010/7/29 大阪
2009年に大阪市立大学で施行した腎移植症例の検討	町田裕一、内田潤次、北本興一郎、長沼俊秀、仲谷達也、岩井友明	第75回大阪透析研究会 2010/9/5 大阪

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
高齢者pre-emptive生体腎移植症例の検討	村尾昌輝、町田裕一、内田潤次、長沼俊秀、仲谷達也、岩井友明	第22回腎移植免疫研究会 2010/10/23 大阪
PETが有用であった前立腺癌の一例	芝野伸太郎、岩井友明、上水流雅人、池本慎一	第33回大阪泌尿器科画像診断研究会 2011/1/29 大阪
血管エコー症例提示	寺西ふみ子	第1回血管エコー実技研修会 2010/8/8 大阪府医師共同会館
血流その成り立ちと評価	寺西ふみ子	大阪超音波技術研究会 2010/8/20 住友病院 14階講堂
当院における下肢静脈エコー検査	寺西ふみ子	血管エコー研究会 2011/3/30 東芝メディカルシステムズ(株)
左大腿部腫張の一例	三木 俊	血管エコー研究会 2010/7/23 南森町三井住友ビル
右腎梗塞を発症した左房内血栓の一例	三木 俊	第3回OSAKA心血管エコー研究会 (通算144回) 2010/7/28 関西医大滝井病院
冠動脈異常の一症例	三木 俊	第4回OSAKA心血管エコー研究会 (通算145回) 2010/9/22 関西医大滝井病院
超音波検査にて発見された腎動脈狭窄症二症例	三木 俊	第120回大阪超音波研究会 2010/9/29 大阪国際会議場
インフラボンによるCAVIの改善は喫煙や閉経の有無により異なる -FMDと比較して-	三木 俊	第2回近畿血管バイオメカニクスセミナー 2010/11/20 新大阪ワシントンホテル
胃術前術後の病棟との連携について	黒田昇平	大阪府公立病院栄養士代表者会定例研究会 2011/2/10 八尾市
栄養科の取り組み -栄養だよりの紹介-	高瀬由香利	大阪府八尾保健所管内特定給食研究会 2011/3/25 柏原市
退院に向けての実態調査 -ペースメーカー植え込み患者-	加納知佳	第35回夏期看護研修会 2010/8/21 大阪府
切断指で緊急手術を受けた患者への指導の一考察	佐々木博世	看護協会府東支部看護研究会 2011/2/25 大阪府
乳がん患者の頭皮ケア指導に集団教育を用いた効果の検討	古川智恵	第7回関西がんチーム医療研究会 2010/9/18 大阪府
電子カルテによるがん登録ケースファインディングの検証	細田繁美	第7回関西がんチーム医療研究会 2010/9/18 大阪府
外来通院中・入院患者の健康関連QOLの関連要因	古川智恵	第25回日本がん看護学会学術集会 2011/2/12-13 兵庫県

(4)講演

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
肝炎の臨床:BC肝炎を中心に	福井弘幸	平野区医師会学術講演会 2010/4/20 大阪市平野区
B型・C型肝炎、肝がんをやっつけろ	福井弘幸	市民公開講座 2010/5/30 東大阪市
消化器内科でここまでできるがん治療 肝臓がん	福井弘幸	第9回八尾市立病院公開講座 2010/6/26 八尾市
消化器内科でここまでできるがん治療 胃がん	岩永佳久	第9回八尾市立病院公開講座 2010/6/26 八尾市
消化器内科でここまでできるがん治療 膵胆道がん	藤田 実	第9回八尾市立病院公開講座 2010/6/26 八尾市
C型慢性肝炎の治療	福井弘幸	第3回八尾医療連携セミナー 2010/10/23 大阪市
骨髄異形成症候群の関わり方	服部英喜	八尾市地域医療連携の会 2010/10/23 大阪市
血液疾患の感染症	烏野隆博	研修医(初期・後期)のための血液学セミナー 2010/7/9 大津
がんと闘う	烏野隆博	八尾市立病院開院60周年記念講演会 2010/12/2 大阪
軟骨	武 靖浩	第12回なにわ骨代謝・骨腫瘍研究会
小児の血友病について 最近の治療と日常生活について	高瀬俊夫	小児慢性特定疾患療育指導講演会 2010/10/26 東大阪市

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
急性呼吸困難を呈したポリープ様声帯の一例	伊藤理恵	八尾耳鼻咽喉科医会 2010/11/20 大阪
当科におけるあぶみ骨手術症例の検討	森鼻哲生	八尾耳鼻咽喉科医会 2011/2/26 大阪
尿路系の病期の診断と治療	岩井友明、上水流雅人、池本慎一	第12回八尾市立病院公開講座 2011/3/5
糖尿病と歯周病	濱口裕弘	第2回糖尿病講演会 2010/11/23 リビエールホール(柏原市)
肝臓病を紐解く 肝臓病を画像検査から見る	寺西ふみ子	大臨技第4回学術部講演会 2011/3/12 あべのメディックス6Fホール
ハンズオン講師	寺西ふみ子	日常診療に役立つエコー検査集中セミナー 2010/9/4-5 大阪府医師共同会館
心臓エコーハンズオン講師	寺西ふみ子	第7回心エコー実技研修会 2010/10/10-11 大阪府医師共同会館
血管エコー検査の役割とポイント	三木 俊	Handz On Plus HIMEJI 2010/4/2 姫路赤十字病院
内頸動脈の観察と狭窄度計測の方法	三木 俊	ImTEP 血管障害フォーラム 2010/4/4 東京グランパシフィック LE DAIBA
当院における血管エコー検査と臨床での応用	三木 俊	PeRfCT Seminar in KANAZAWA 2010/5/29 金沢都ホテル
血管エコーハンズオン	三木 俊	エコーライブ2010 2010/6/5 大阪国際会議場
腎動脈エコー描出法	三木 俊	兵庫臨床衛生検査技師会第1回血管超音波講習会 2010/6/27 東芝メディカルシステムズ神戸支店事務所
腎動脈エコー診断	三木 俊	第3回これからはじめる心血管エコーハンズオンセッション 2010/7/4 大阪メディカホール
血管エコー！どうせやるやなら“Full study”	三木 俊	大阪臨床検査技師会生理部門定期講習会 2010/7/22 大阪医療技術学園専門学校
腎動脈狭窄症に対する体表面エコーの診断と手順	三木 俊	Echo seminar for Saiseikai Yokohama East Hospital 2010/7/31 済生会横浜東部病院
技を研ぎものにする！血管エコーの進め方、考え方	三木 俊	第1回血管エコー実技研修会 2010/8/8 大阪府医師協同会館
頸動脈エコー・下肢動脈エコー描出法	三木 俊	エコー検査集中セミナー 2010/9/4-5 大阪府医師協同会館
腎動脈エコー Full study	三木 俊	第11回八戸心血管コメディカルカンファレンス 2010/10/30 はちのへハートセンタークリニック
閉塞性動脈硬化症の超音波診断 ーみかた、とりかた、考えかたー	三木 俊	第10回宮城県北末梢血管障害研究会 2010/11/5 宮城県大崎市古川駅前大通り6-2-8 芙蓉閣
「Case Based Canference」 「大動脈描出法」	三木 俊	エコー淡路2010 2010/11/7 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
頸動脈エコーの臨床的評価および有用性について	三木 俊	第1回中河内脳卒中カンファレンス 2011/2/12 大阪セラトロン都ホテル
血管エコーFull study ー頸部超音波検査レポートを中心にー	三木 俊	高知血管疾患研究会 2011/2/18 ホテル日航高知旭ロイヤル
下枝閉塞性動脈硬化症の超音波診断 ー取り組みから報告書作成までー	三木 俊	山形県臨床検査技師会地方会 2011/3/5 山形大学付属病院
腎動脈エコー描出法	三木 俊	第4回神戸血管エコーセミナー 2011/3/12 ホテル日航高知旭ロイヤル
心臓エコーハンズオン講師	三木 俊	第7回心エコー実技研修会 2010/10/10-11 大阪府医師共同会館
血管エコーハンズオン講師	三木 俊	第3回神戸血管エコーセミナー 2010/11/7 神戸市宮野医療器

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
心臓エコーハンズオン講師	三木 俊	兵庫臨床衛生検査技師会心臓超音波講習会 2011/2/27 兵庫県臨床検査技師会研修センター
退院時共同指導に向けて 一病院の立場から	長谷圭悟	中河内地域医療連携フォーラム 2010/6/5 近畿大学薬学部(東大阪市)
病院薬剤師として 一現状と将来一	但馬重俊	大阪府病院薬剤師会第40回新入局薬剤師研修会 2010/10/5 薬業年金会館(大阪市)
薬業連携の推進について	但馬重俊	宝塚市薬剤師会研修会 2010/12/11 宝塚市薬剤師会(宝塚市)
薬業連携の推進に向けて	長谷圭悟	第16回大阪府薬剤師会中河内ブロック研修会 2011/1/22 近畿大学薬学部(東大阪市)
メタボリックシンドローム予防と食生活	黒田昇平	八尾市食生活改善推進員養成講座 2011/2/25 八尾市

(5)院内研修会

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
消化器内科勉強会 腹痛	柳本涼子、藤田 実	2010/4/15 4階大会議室
消化器内科勉強会 貧血	氣賀澤斉史、藤田 実	2010/5/21 4階大会議室
消化器内科勉強会 黄疸	井上浩一、藤田 実	2010/6/18 4階大会議室
消化器内科勉強会 肝機能障害	小西章仁、藤田 実	2010/7/16 4階大会議室
消化器内科勉強会 胃カメラ講義	藤田 実	2010/9/17 4階大会議室
消化器内科勉強会 胃カメラ実際	藤田 実	2010/10/22 内視鏡センター
消化器内科勉強会 大腸ファイバー講義	藤田 実	2010/12/17 4階大会議室
消化器内科勉強会 腹部エコー講義	藤田 実	2011/1/21 4階大会議室
消化器内科勉強会 腹部エコー実際	藤田 実	2011/2/18 4階大会議室
化学療法講演会	烏野隆博	2010/12/10 4階大会議室
DICについて	滋賀医科大学 救急・集中治療部:江口 豊教授	
周術期血栓対策について	奈良医科大学 麻酔科学講座:古家 仁教授	
第54回院内CPC 突然の呼吸困難から肺出血をきたし死亡した症例	司 会 星田四朗 症例提示 井城延明 病理解説 竹田雅司 コメント 清水孝典(臨床研修医)	2010/4/7 4階大会議室
第55回院内CPC 診断困難であった血液系腫瘍の1剖検例	司 会 星田四朗 症例提示 服部英喜 病理解説 竹田雅司 コメント 小川義高(臨床研修医) 神田剛輝(臨床研修医)	2011/2/2 4階大会議室
第56回院内CPC 呼吸状態の急激な悪化により入院後2日で死亡した症例	司 会 星田四朗 症例提示 柳本涼子 病理解説 清水彩洋子(臨床研修医) 竹田雅司	2011/3/2 4階大会議室
ME機器取り扱い講習(BiPAP用マスク)	フィリップス・レスピロニクス講師	2010/4/1 3階ICU
研修医新規採用者研修(MEセンターオリエンテーション)	MCH 鎌田賢二	2010/4/5 MEセンター
ME機器取り扱い講習(VIOメンテナンス)	アムコ講師	2010/4/9 MEセンター
看護部新規採用者研修(ME機器)	MCH 鎌田賢二	2010/4/21 4階会議室
ME機器取り扱い講習(カフ圧ゲージ)	タイコヘルスケアアジア講師	2010/4/21-23、26、6/4
呼吸管理研修(人工呼吸器)	長山俊明	2010/5/31
ME機器取り扱い講習(人工呼吸器)	タイコヘルスケアアジア講師	2010/7/21、27
ME機器保守点検講習(AVインパルスシステム6000)	小林メディカル講師	2010/7/21 MEセンター

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
ME機器取り扱い講習(電気メス)	アムコ講師	2010/8/23
看護部新規採用者研修(酸素療法)	長山俊明	2010/9/17
看護部中途採用者研修(ME機器)	MCH 二階堂麻以	2010/10/4
ME機器取り扱い講習(内視鏡)	オリンパス講師	2010/10/27
ME機器取り扱い講習(神経刺激装置)	ビーブラウンエースクラブ講師	2010/11/22
ME機器取り扱い講習(人工呼吸器 BiPAP)	フィリップス・レスピロニクス講師	2010/12/22 6階西病棟
呼吸管理研修(NPPV)	長山俊明	2011/2/28
乳房超音波検査法	三木 俊	2010/8/18 4階大会議室
甲状腺・副甲状腺の超音波診断	三木 俊	2010/9/2 4階大会議室
医療ガス講習会	浪速酸素株式会社 日本エア・リキード株式会社ジャパン・エアガシズ社	2010/6/11 4階会議室
医療現場におけるリスクマネジメント ー感性と実戦ー	日本リスクマネジメント協会 理事長:祖慶 実	2010/7/23 4階会議室
感染対策の基本的な考え方	奈良県立医科大学付属病院 感染センター長:三笠桂一教授	2010/10/13 4階会議室
院内メディエーション ー日常診療から医療紛争までー	愛知県厚生連安城厚生病院 医療安全部長・神経内科部長:安藤哲郎	2011/2/4 4階会議室
新たな局面を迎えた耐性菌対策	重越正孝氏	2011/3/16 4階会議室

(6)学会司会

セッション名	司会	日時、会場(都市)
ポスターセッション 36 ー感染症症例報告ー	鳥野隆博	第72回日本血液学会 2010/9/24-26 パシフィコ横浜(横浜市)
八尾小児科医会・耳鼻咽喉科医会ジョイントミー ティング特別講演座長	嶽村貞治	2010/9/18 大阪
教育カンファレンスII 明日から使える整形外科超音波検査	三木 俊	第59回日本医学検査学会 2010/5/23 神戸国際展示場
コメディカルシンポジウム 「閉塞性動脈硬化症(ASO)の包括的チーム医 療について」part 1	三木 俊	第19回日本心血管インターベンション治 療学会 2010/8/22-23、25 仙台国際ホテル
一般演題 「生理」	三木 俊	第50回近畿医学検査学会 2010/12/11-12 奈良文化会館
第V部 「臨床症状から考えるバスキュラーアクセスエ コー」	三木 俊	日本超音波検査学会第14回関西地方会 2011/2/13 岸和田浪切ホール
薬剤師シンポジウム	但馬重俊	第22回日本アレルギー学会春季臨床大 会 2010/5/9 京都国際会議場(京都市)
シンポジウム	但馬重俊	第38回医療薬学会公開シンポジウム 2010/9/11 サンスクエア堺(堺市)
薬剤師研修	但馬重俊	病院・診療所薬剤師研修会 2010/11/21 大阪府薬剤師会館(大阪市)

※「著者」、「発表者」欄で下線のある欄では、下線のある者が当院在籍の医師等です。

病院年報編集部会

編集部 部会長 高瀬俊夫

編集部 副部会長 朴井晃

編集部 部員 池本慎一

橋村一彦

但馬重俊

操野健

森明富美子

山本恵郎

原田美永子

編集事務担当 大和篤史



病院年報（第23号）
平成23年（2011年）12月発行

-
- 編集・発行 八尾市立病院 年報編集部会
〒581-0069 八尾市龍華町 1-3-1
TEL (072)922-0881(代)
 - ホームページ:<http://www.hospital.yao.osaka.jp/>
刊行物番号 H23—99
-